

茨城県教育財団文化財調査報告第270集

# 犬田神社前遺跡3

北関東自動車道（協和～友部）建設  
事業地内埋蔵文化財調査報告書 XIV

下 巻

平成 19 年 3 月

東日本高速道路株式会社  
財団法人 茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第270集

いぬ だ じん じゃ まえ  
犬田神社前遺跡 3

北関東自動車道（協和～友部）建設  
事業地内埋蔵文化財調査報告書 XIV

下 巻

平成 19 年 3 月

東日本高速道路株式会社  
財団法人 茨城県教育財団

# 目 次

## 下 巻

4	中世以降の遺構と遺物 .....	287
(1)	方形竪穴遺構 .....	287
(2)	井戸跡 .....	289
(3)	土坑 .....	298
(4)	溝跡 .....	299
(5)	道路跡 .....	304
5	その他の時代の遺構と遺物 .....	305
(1)	竪穴住居跡 .....	305
(2)	掘立柱建物跡 .....	319
(3)	方形竪穴遺構 .....	320
(4)	井戸跡 .....	321
(5)	土墳墓 .....	333
(6)	土坑 .....	333
(7)	溝跡 .....	391
(8)	ピット群 .....	397
(9)	遺構外出土遺物 .....	406
第4節	まとめ .....	414
写真図版		
付図		

#### 4 中世以降の遺構と遺物

方形竪穴遺構2基, 井戸跡12基, 土坑1基, 溝跡4条, 道路跡1条が確認された。以下, 確認された遺構と遺物について記述する。

##### (1) 方形竪穴遺構

###### 第48号方形竪穴遺構 (SK3659) (第246図)

位置 西部3区西部のA1c9区で, 標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸2.22m, 短軸2.00mの長方形で, 長軸方向はN-87°-Eである。深さは45cmで, 壁は外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦である。

ピット 3か所。P1・P2は深さ60cm・62cmで, 規模と配置から主柱穴と考えられる。P3は深さ16cmで, 位置と配置から補助柱穴と考えられる。

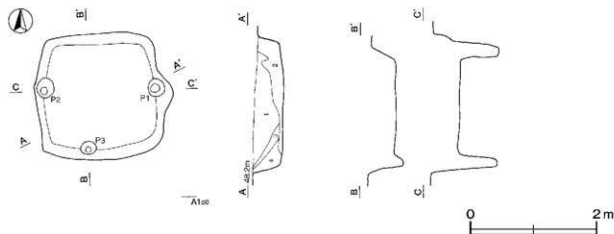
覆土 4層に分層される。ロームブロックを含んだ不規則な堆積状況を呈しており, 人為堆積と考えられる。

##### 土層解説

- |       |                     |       |           |
|-------|---------------------|-------|-----------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック少量 | 3 暗褐色 | ローム粒子中量   |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量           | 4 暗褐色 | ロームブロック微量 |

遺物出土状況 土師質土器片3点(小皿)が出土している。弥生土器片3点, 土師器片28点(坏2, 甕26), 須恵器片3点(甕)も出土しており, 埋め戻しの際の混入と考えられる。

所見 時期は, 遺構の形態及び出土土器から中世と考えられる。



第246図 第48号方形竪穴遺構実測図

###### 第50号方形竪穴遺構 (SK3934) (第247図)

位置 西部4区東部のC5g5区で, 標高49mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第392号土坑, 第106号井戸に掘り込まれている。

規模と形状 長軸2.60m, 短軸2.48mの方形で, 長軸方向はN-9°-Eである。深さは26cmで, 壁は緩やかに立ち上がっている。

床 ほぼ平坦である。



ビット 3か所。P1・P2は深さ54cm・50cmで、規模と配置から主柱穴と考えられる。P3は深さ13cmで、性格は不明である。

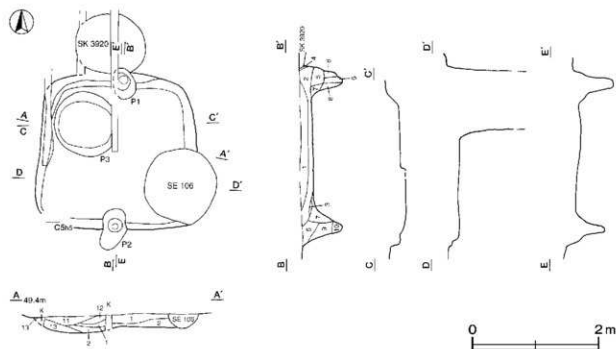
覆土 13層に分層される。ロームブロックを含んだ不規則な堆積状況を呈しており、人為堆積と考えられる。

土層解説

- |       |                      |         |                     |
|-------|----------------------|---------|---------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量  | 8 褐色    | ローム粒子中量             |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量  | 9 黒褐色   | ロームブロック微量           |
| 3 黒褐色 | 炭化粒子中量, ローム粒子・焼土粒子微量 | 10 暗褐色  | ロームブロック中量           |
| 4 暗褐色 | ローム粒子少量              | 11 暗褐色  | ローム粒子少量, 炭化粒子微量     |
| 5 黒褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子微量      | 12 暗褐色  | ローム粒子多量             |
| 6 黒褐色 | ローム粒子中量              | 13 橙暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 7 褐色  | ロームブロック中量, 炭化物微量     |         |                     |

遺物出土状況 土師質土器片2点(小皿)が出土している。また、混入した土師器片52点(坏17, 襷3), 須恵器片3点(坏)も出土している。

所見 時期は、遺構の形態及び出土土器から中世と考えられる。



第247図 第50号方形竪穴遺構実測図

表9 方形竪穴遺構一覧表

番号	位置	長(短軸)方向	平面形	規模(m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	柱穴	ビット	覆土	主な出土遺物	備考 (時期)
48	A 1 c 9	N-87°-E	長方形	2.22×2.00	45	平坦	2	1	人為	須恵器片 土師質土器片	中世
50	C 5 g 5	N-9°-E	方形	2.60×2.48	26	平坦	2	1	人為	須恵器片 土師質土器片	中世

(2) 井戸跡

第95号井戸跡 (SK 3641) (第248図)

位置 西部3区東部のA2f1区で、標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第329号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.47m, 短径1.28mほどの楕円形で、長径方向はN-0°で円筒状に掘り込まれており、湧水のため深さ138cmまでしか確認できなかった。

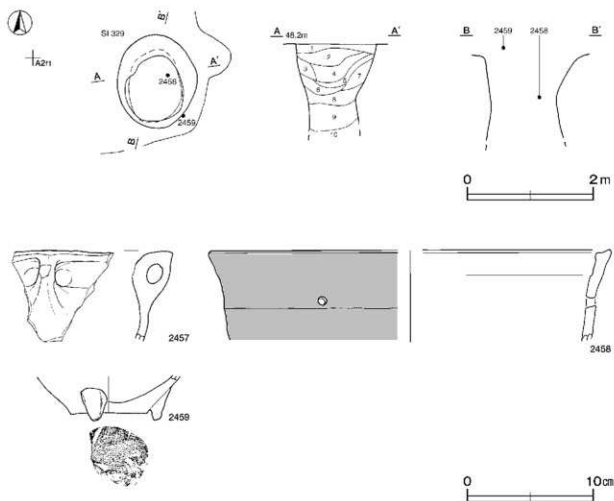
覆土 10層に分層される。ロームブロックを多く含んでおり、人為堆積と考えられる。

土層解説

- |       |                        |        |                    |
|-------|------------------------|--------|--------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子微量        | 6 黒褐色  | 炭化物・粘土ブロック・ローム粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量        | 7 黒褐色  | ロームブロック・焼土ブロック少量   |
| 3 黒褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量   | 8 黒色   | ロームブロック少量          |
| 4 黒褐色 | 焼土粒子少量, 炭化物・粘土ブロック微量   | 9 黒色   | ローム粒子微量            |
| 5 黒褐色 | 焼土粒子少量, 粘土ブロック・ローム粒子微量 | 10 黒褐色 | ローム粒子少量            |

遺物出土状況 土師器片28点(坯5, 埴23), 土師質土器片26点(内耳罐25, 香炉1)が北部の覆土上層から中層にかけて出土している。土師器片は、流れ込んだものと考えられる。2457は覆土中, 2458は覆土中層, 2459は覆土上層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、重複関係及び出土土器から、中世と推測される。



第248図 第95号井戸跡・出土遺物実測図

第95号井戸跡出土遺物観察表(第248図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
2457	土師質土器	内耳鍋	-	(7.2)	-	石英・長石・雲母に灰地焼	にぶい	普通	外面横ナデ 外面横付着	覆土中	5%
2458	土師質土器	内耳鍋	31.6	(7.2)	-	石英・長石・雲母・赤色粒子	にぶい	普通	体部に穿孔有 口縁部内・外面横ナデ 外面横付着	覆土中層	5%
2459	土師質土器	香炉	-	(3.5)	6.0	石英・長石	にぶい	普通	体部外面ナデ 底部回転糸切り 三足貼付け	覆土上層	5%

第97号井戸跡(第249図)

位置 西部3区東部のA1h9区で、標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第326・345号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.09m, 短径0.96mの楕円形で、長径方向はN-80°-Eである。ほぼ円筒状に掘り込まれており、湧水のため深さ93cmまでしか確認できなかった。

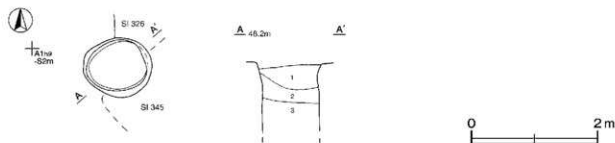
覆土 3層に分層される。ロームブロックを不規則に含んでおり、人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック多量 3 黒褐色 ロームブロック中量  
2 黒褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 縄文土器片2点, 弥生土器片2点, 土師器片16点(坏6, 梗10), 須恵器片1点(梗)が出土している。いずれも細片であり、破断面が摩滅していることから、流れ込んだものと考えられる。

所見 時期は、重複関係及び出土土器から中世以降と考えられる。



第249図 第97号井戸跡実測図

第101号井戸跡(第250図)

位置 西部4区東部のC513区で、標高49mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第411・418号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 径2.70mの円形で、漏斗状に掘り込まれており、湧水のため深さは110cmまでしか確認できなかった。

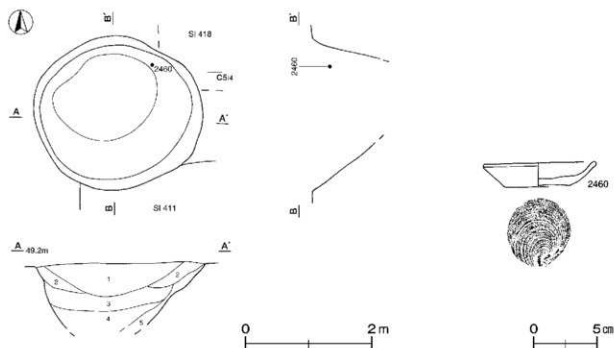
覆土 5層に分層される。周囲から土砂が堆積した様相を呈しており、自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 褐色 ロームブロック中量 4 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量  
2 黒褐色 ローム粒子微量 5 暗褐色 ローム粒子少量  
3 黒褐色 ロームブロック微量

遺物出土状況 土師器片110点(坏35, 高台坏椀2, 椀73), 須恵器片9点(坏3, 椀6), 土師質土器片1点(小皿), 陶器片1点が覆土中から出土している。2460は北東部の覆土上層から出土している。

所見 時期は, 重複関係及び出土土器から中世以降と考えられる。



第250図 第101号井戸跡・出土遺物実測図

第101号井戸跡出土遺物観察表(第250図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
2460	土師質土器	小皿	8.6	2.0	5.3	石英・長石・雲母	橙	普通	底部回転糸切り	覆土中層	80% PL76

#### 第102号井戸跡(第251図)

位置 西部4区東部のC511区で, 標高49mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第412号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 径1.66mの円形で, ほぼ円筒状に掘り込まれており, 湧水のため深さ98cmまでしか確認できなかった。

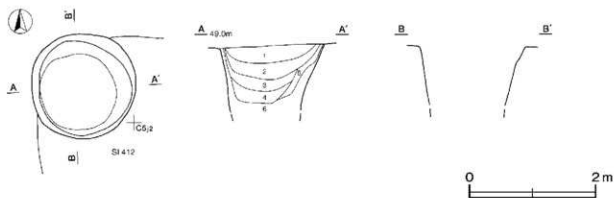
覆土 6層に分層される。ロームブロックや粘土粒子を不規則に含み, 人為堆積と考えられる。

#### 土層解説

- |       |                             |       |                        |
|-------|-----------------------------|-------|------------------------|
| 1 褐色  | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 | 4 黒褐色 | ロームブロック微量              |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量, 炭化物・焼土粒子・粘土粒子微量    | 5 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・粘土粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子微量                     | 6 暗褐色 | ローム粒子少量                |

遺物出土状況 土師器片15点(坏1, 椀14), 須恵器片2点(椀)が覆土中から出土している。

所見 時期は, 重複関係及び出土土器から中世以降と考えられる。



第251図 第102号井戸跡実測図

第103号井戸跡 (第252図)

位置 西部4区東部のC5h1区で、標高49mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第409号住居跡を掘り込んでいる。

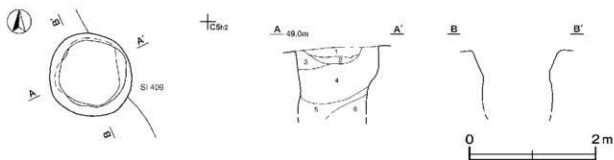
規模と形状 径1.34mの円形で、ほぼ円筒状に掘り込まれており、湧水のため深さは108cmまでしか確認できなかった。

覆土 6層に分層される。ロームブロックや粘土ブロックを不規則に含み、人為堆積と考えられる。

土層解説

- |          |                        |          |                    |
|----------|------------------------|----------|--------------------|
| 1 緑 暗 褐色 | ロームブロック・粘土ブロック・焼土粒子微量  | 4 オリーブ灰色 | 粘土ブロック多量, 焼土ブロック中量 |
| 2 灰 色    | 粘土ブロック多量, 焼土ブロック中量     | 5 オリーブ黄色 | 粘土ブロック中量, 焼土粒子微量   |
| 3 黒 褐色   | 粘土ブロック少量, ローム粒子・焼土粒子微量 | 6 黒 色    | 粘土ブロック・ローム粒子微量     |

所見 時期は、重複関係から中世以降と考えられる。



第252図 第103号井戸跡実測図

第104号井戸跡 (第253図)

位置 西部4区東部のC5h4区で、標高49mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第418号住居跡を掘り込み、第49号方形竪穴遺構に掘り込まれている。

規模と形状 径2.80mの円形で、漏斗状に掘り込まれており、湧水のため深さは120cmまでしか確認できなかった。

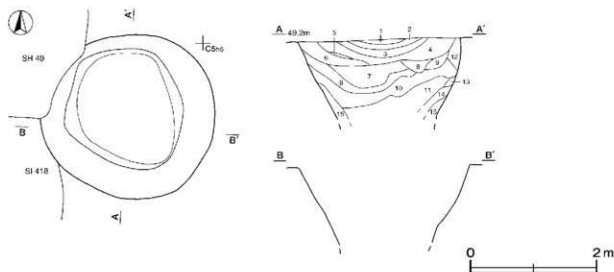
覆土 15層に分層される。ロームブロックや粘土ブロックを不規則に含み、人為堆積と考えられる。

土層解説

- |   |       |                       |    |       |                     |
|---|-------|-----------------------|----|-------|---------------------|
| 1 | にぶい褐色 | 粘土ブロック多量              | 9  | 褐色    | ロームブロック・粘土ブロック中量    |
| 2 | 黒褐色   | ロームブロック・炭化粒子微量        | 10 | 褐色    | 粘土ブロック多量、ロームブロック中量  |
| 3 | 黒褐色   | 粘土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量   | 11 | にぶい褐色 | ロームブロック・鹿沼パミスブロック中量 |
| 4 | 黒褐色   | ローム粒子・粘土粒子微量          | 12 | 黒褐色   | ロームブロック少量           |
| 5 | 黒色    | ローム粒子少量               | 13 | 黒褐色   | ローム粒子微量             |
| 6 | 黒褐色   | ローム粒子少量               | 14 | 暗褐色   | ローム粒子中量             |
| 7 | 暗褐色   | 粘土ブロック・ローム粒子少量        | 15 | 黒色    | ローム粒子微量             |
| 8 | 褐色    | 粘土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・灰微量 |    |       |                     |

遺物出土状況 土師器片11点(坏4, 硯7), 須恵器片2点(坏, 蓋)が出土している。いずれも細片であり, 破断面が摩滅していることから流れ込んだものと考えられる。

所見 時期は, 重複関係から中世以降と考えられる。



第253図 第104号井戸跡実測図

第105号井戸跡(第254図)

位置 西部4区東部のC514区で, 標高49mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第411号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.18m, 短径0.88mの楕円形で, 長径方向はN-7°-Eである。円筒状に掘り込まれており, 湧水のため深さは80cmまでしか確認できなかった。

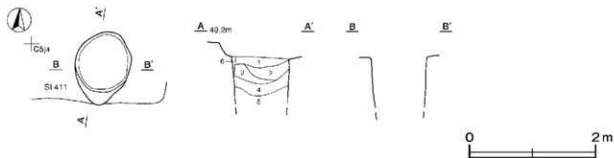
覆土 6層に分層される。ロームブロックや粘土粒子を不規則に含み, 人為堆積と考えられる。

土層解説

- |   |     |                            |   |     |              |
|---|-----|----------------------------|---|-----|--------------|
| 1 | 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量               | 5 | 黒褐色 | ローム粒子・粘土粒子微量 |
| 2 | 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量          | 6 | 黒褐色 | ローム粒子微量      |
| 3 | 黒褐色 | 焼土粒子・粘土粒子微量                |   |     |              |
| 4 | 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量 |   |     |              |

遺物出土状況 土師器片16点(坏6, 高坏1, 硯9), 須恵器片1点(瓶)が出土している。

所見 時期は, 重複関係及び出土土器から中世以降と考えられる。



第254図 第105号井戸跡実測図

第106号井戸跡 (第255図)

位置 西部4区東部のC 5 g5 区で、標高49mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第50号方形竪穴遺構を掘り込んでいる。

規模と形状 径1.20mの円形で、ほぼ円筒状に掘り込まれており、湧水のため深さ120cmまでしか確認できなかった。

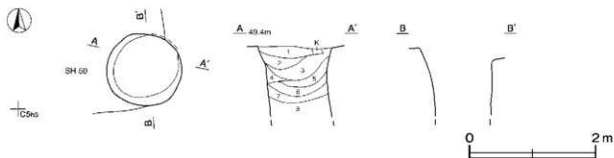
覆土 8層に分層される。ロームブロックや粘土ブロックを不規則に含み、人為堆積と考えられる。

土層解説

- |         |                     |         |                         |
|---------|---------------------|---------|-------------------------|
| 1 黒 褐 色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 黒 褐 色 | ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化物微量    |
| 2 黒 褐 色 | ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量  | 6 橙 色   | 焼土粒子中量、灰少量、ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 3 黒 色   | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 黒 褐 色 | 粘土ブロック少量、ローム粒子・焼土粒子微量   |
| 4 黒 色   | ローム粒子微量             | 8 黒 褐 色 | 粘土ブロック中量、ローム粒子微量        |

遺物出土状況 縄文土器片1点、土師器片25点(坏10, 梗15)、鉄製品1点(不明)が出土している。いずれも細片であり、破断面が摩滅していることから、流れ込んだものと考えられる。

所見 時期は、重複関係から中世以降と考えられる。



第255図 第106号井戸跡実測図

第110号井戸跡 (第256図)

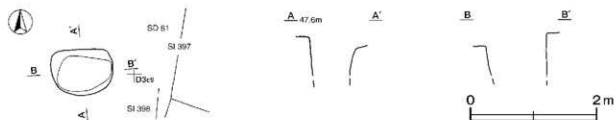
位置 西部4区中央部のD 3 b8 区で、標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第397・398号住居跡、第81号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径0.99m, 短径0.74mの楕円形で, 長径方向はN-90°-Eである。ほぼ円筒状に掘り込まれており, 湧水のため深さは63cmまでしか確認できなかった。

覆土 湧水や崩落のため不明確であるが, ロームブロックや鹿沼バミスをよく含んでいることから, 人為堆積と推測される。

所見 時期は, 重複関係から中世以降と考えられる。



第256図 第110号井戸跡実測図

#### 第113号井戸跡 (第257図)

位置 西部4区中央部のC3j7区で, 標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第426号住居跡を掘り込み, 第3825号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径1.96m, 短径1.58mの楕円形で, 長径方向はN-68°-Wである。漏斗状に掘り込まれており, 湧水のため深さ125cmまでしか確認できなかった。

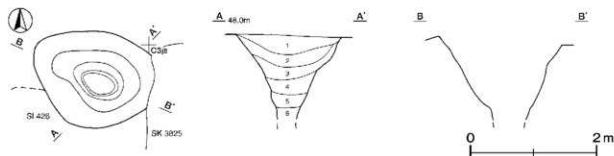
覆土 6層に分層される。粘土ブロックや鹿沼バミスブロックを不規則に含み, 人為堆積と考えられる。

##### 土層解説

- |        |                              |        |                                |
|--------|------------------------------|--------|--------------------------------|
| 1 黒褐色  | ローム粒子少量, 焼土粒子微量              | 4 種暗褐色 | 鹿沼バミスブロック少量, ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量 |
| 2 黒褐色  | ローム粒子・焼土粒子微量                 | 5 種暗褐色 | 鹿沼バミスブロック少量, ローム粒子・焼土粒子微量      |
| 3 種暗褐色 | ローム粒子・鹿沼バミス少量, 粘土ブロック・焼土粒子微量 | 6 種褐色  | 鹿沼バミス中量                        |

遺物出土状況 土師器片68点(坏14, 高台坏碗2, 甕52), 須恵器片5点(坏4, 甕1), 磁器片1点が細片で出土している。

所見 時期は, 重複関係及び出土土器から中世以降と考えられる。



第257図 第113号井戸跡実測図



第114号井戸跡(第258図)

位置 西部4区中央部のD3 a7区で、標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長径1.50m、短径1.35mの楕円形で、長径方向はN-12°-Eである。ほぼ円筒状に掘り込まれており、湧水のため深さ123cmまでしか確認できなかった。

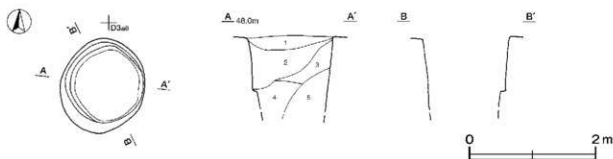
覆土 5層に分層される。ロームブロックを不規則に含み、人為堆積と考えられる。

土層解説

- |       |                |       |           |
|-------|----------------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子少量 | 4 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子中量        | 5 暗褐色 | ロームブロック多量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量      |       |           |

遺物出土状況 縄文土器片1点、土師器片5点(甕)、須恵器片6点(坏5、甕1)が出土している。細片であり、破断面が摩滅していることから、流れ込んだものと考えられる。

所見 時期は、重複関係から中世以降と考えられる。



第258図 第114号井戸跡実測図

第129号井戸跡(SK3805)(第259図)

位置 西部4区中央部のC3 h9区で、標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第76号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径3.01m、短径2.84mの不定形で、長径方向はN-79°-Wである。ほぼ漏斗状に掘り込まれており、深さは178cmである。

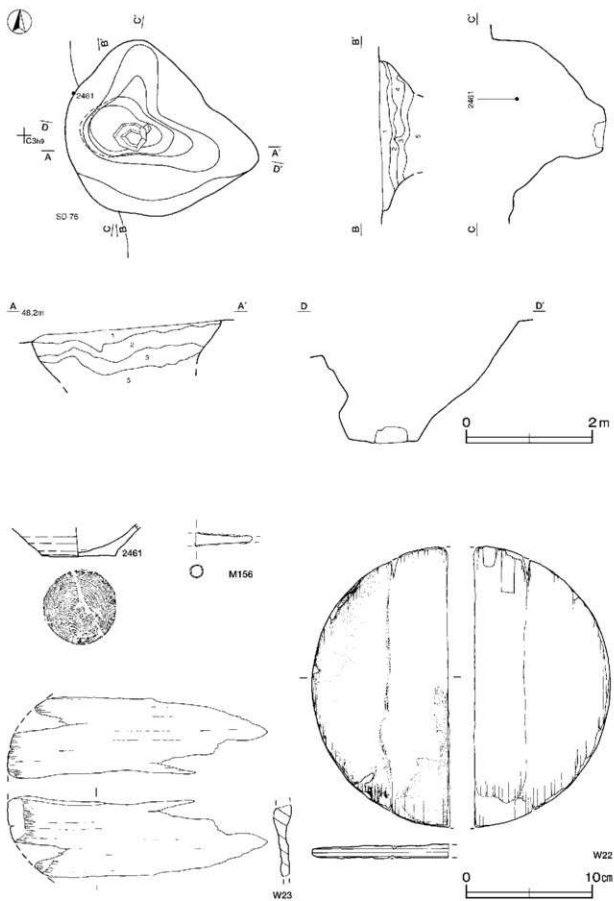
覆土 5層に分層される。ロームブロックを含む不規則な堆積状況を呈しており、人為堆積と考えられる。

土層解説

- |       |                  |       |                  |
|-------|------------------|-------|------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 | 4 黒褐色 | 炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量   | 5 暗褐色 | 焼土粒子微量           |
| 3 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量     |       |                  |

遺物出土状況 弥生土器片7点、土師器片146点(坏31、高台付碗2、高坏1、甕111、羽釜1)、須恵器片36点(坏15、甕21)、土師質土器片1点(皿)、石器1点(剥片)、鉄製品1点(煙管)、木製品2点(蓋、板状製品)が出土しており、ほとんどが細片である。底面に巨礫1点も出土している。

所見 時期は、重複関係及び出土土器から中世以降と考えられる。



第259图 第129号井戸跡・出土遺物実測図

第129号井戸跡出土文物観察表 (第259図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
2461	土師質 土器	皿	-	(2.5)	5.8	石英・長石・雲 母・赤色粒子	にぶい 橙	普通	底部回転系切り	覆土上層	30%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M156	燧燧	(4.39)	1.03	-	(4.24)	鉄	断面円形	覆土中	PL90

番号	器種	最大径	最大幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
W22	蓋	22.4	(10.8)	1.1	(199.9)	モミ属	板目	覆土中	漆付着
W23	板状製品	(20.6)	(6.4)	1.5	(52.1)	クリ	漆紅目	覆土中	

表10 中世以降の井戸跡一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		断面形	覆土	出土遺物	備考 (時期)
				長径(軸)×短径(軸) (m)	深さ(cm)				
95	A 2 f 1	N-0°	楕円形	1.47×1.28	(138)	円筒状	人為	土師器片 土師質土器片	中世
97	A 1 h 9	N-80°-E	楕円形	1.09×0.96	(93)	円筒状	人為	縄文土器片 弥生土器片 土師器片 須恵器片	中世
101	C 5 i 3	N-90°-E	円形	2.70×2.44	(110)	漏斗状	自然	土師器片 須恵器片 土師質土器片 陶器片	中世
102	C 5 i 1	N-0°	円形	1.66×1.66	(98)	円筒状	人為	土師器片 須恵器片	中世
103	C 5 h 1	N-0°	円形	1.34×1.30	(108)	円筒状	人為		中世
104	C 5 h 4	N-0°	円形	2.80×2.60	(120)	漏斗状	人為	土師器片 須恵器片	中世
105	C 5 i 4	N-7°-E	楕円形	1.18×0.88	(80)	円筒状	人為	土師器片 須恵器片	中世
106	C 5 g 5	N-0°	円形	1.20×1.17	(120)	円筒状	人為	縄文土器片 土師器片 鉄製品	中世
110	D 3 b 8	N-90°-E	楕円形	0.99×0.74	(63)	円筒状	人為		中世
113	C 3 j 7	N-68°-W	楕円形	1.96×1.58	(125)	漏斗状	人為	土師器片 須恵器片 磁器片	中世
114	D 3 a 7	N-12°-E	楕円形	1.50×1.35	(123)	円筒状	人為	縄文土器片 土師器片 須恵器片	中世
129	C 3 h 9	N-79°-W	不定形	3.01×2.84	178	漏斗状	人為	弥生土器片 土師器片 陶磁器片	中世

(3) 土坑

第3667号土坑 (第260図)

位置 西部3区東部のA1c8区で、標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第3669号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸1.81m、短軸1.15mの長方形で、長軸方向はN-89°-Wである。深さは25cmで、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 2層に分層される。ロームブロックが含まれており、人為堆積と考えられる。

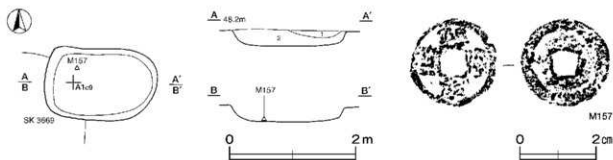
土層解説

1 暗褐色 ロームブロック少量

2 暗褐色 ローム粒子多量

遺物出土状況 土師器片8点(坏1, 甕7), 銅製品1点(古銭)が出土している。M157は西部の床面から出土している。

所見 時期は、出土した古銭(熊寧元寶)の初鑄年が1068年であることから、中世以降であると考えられる。



第260図 第3667号土坑・出土遺物実測図

第3667号土坑出土遺物観察表(第260図)

番号	銭名	径	孔径	厚さ	重さ	初鋳年	材質	特徴	出土位置	備考
M157	熊掌元寶	2.37	0.65	0.12	1.94 g	1068	銅	篆書	床面	PL90

(4) 溝跡

第73号溝跡(第261図・付図)

位置 西部4区中央部のB3 19 - B4 j1区で、標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第74号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状 B4 j1区から西方向(N-87°-W)に直線的に延びている。東方向は調査区域外に延びているため、全体は不明である。確認できた長さは6.70mで、規模は上幅1.12m、下幅0.23~0.35m、深さ32~43mである。底面は皿状で、断面形はU字状である。壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 3層に分層される。ブロック状に堆積した様相を呈しており、人為堆積と考えられる。

土層解説

1 黒褐色 ロームブロック微量

3 暗褐色 ローム粒子中量

2 黒褐色 ローム粒子少量

遺物出土状況 土師質土器片2点(内耳鍋)、陶器片1点(碗)が出土している。また、流れ込んだ土師器片45点(坏5, 梗40)、須恵器片10点(坏4, 梗6)、弥生土器片1点、礫1点(煤付着)も出土している。2462は覆土中から出土した破片が接合したものである。

所見 時期は重複関係及び出土土器から、近世と推測される。



第261図 第73号溝跡・出土遺物実測図

第73号溝跡出土遺物観察表 (第261図)

番号	器質	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	絵付	釉色	釉薬	産地	年代	出土位置	備考
2462	陶器	碗	10.0	6.3	4.6	緻密	浅黄	-	灰白	灰釉	瀬戸-美濃	17世紀	覆土中	60% PL78

第74号溝跡 (第262図・付図)

位置 西部4区西部のB3j19 - B4j2区で、標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第363号住居跡を掘り込み、第73号溝に掘り込まれている。

規模と形状 B4j2区から西方向(N-87°-W)に直線的に延びている。東方向は調査区域外に延びているため、全体は不明である。規模は確認できた長さ9.60mで、上幅1.03m、下幅0.21m、深さ38-50mである。底面は皿状で、断面形はひ字状である。壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 3層に分層される。ブロック状に堆積した様相を呈しており、人為堆積と考えられる。

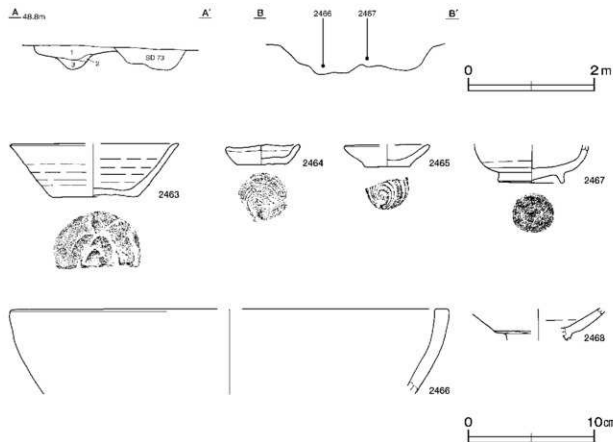
土層解説

1 黒褐色 ロームブロック微量  
2 黒褐色 ローム粒子少量

3 暗褐色 ローム粒子中量

遺物出土状況 土師質土器片2点(小皿)、陶器片2点(碗)が出土している。また、流れ込んだ弥生土器片1点、土師器片90点(坏1, 鉢1, 椀88), 須恵器片21点(坏14, 蓋2, 甕5)も出土している。2463-2465・2468は覆土中、2466は東側の覆土下層、2467は中央部の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 時期は重複関係及び出土土器から、近世と推測される。



第262図 第74号溝跡・出土遺物実測図

第74号溝跡出土遺物観察表 (第262図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
2463	須恵器	環	[13.2]	4.2	6.3	石英	灰	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ切り	覆土中	40%
2464	土師質土器	小皿	5.7	1.6	4.0	石英・赤色粒子・白色粒子	橙	普通	ナデ 底部回転糸切り	覆土中	70% PL76
2465	土師質土器	小皿	[6.5]	1.8	3.6	石英・雲母・白色粒子	にぶい橙	普通	ナデ 底部回転糸切り	覆土中	50%
2466	土師質土器	内耳鍋	[35.0]	(6.7)	-	石英・雲母・白色粒子	にぶい橙	普通	体部内・外面横ナデ	覆土下層	5%

番号	器質	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	絵付	釉色	釉薬	産地	年代	出土位置	備考
2467	陶器	碗	- (3.0)	5.2	-	緻密	灰白	-	灰白	灰釉	瀬戸・美濃	17世紀後半	覆土中層	50%
2468	陶器	碗	- (2.5)	-	-	長石・石英	にぶい橙	-	にぶい黄	灰釉	瀬戸・美濃	17世紀後半	覆土中	5%

第76号溝跡 (第263・264図・付図)

位置 西部4区西部のB3j8 - C3c8区で、標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第3841号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 B3j8区から南方向(N-2°-W)に直線的に延びている。北・南部ともに削平されており、全体は不明である。規模は確認できた長さ44.00mで、規模は上幅8.40m、下幅7.34m、深さ28cmである。底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がり、断面は逆台形状である。

覆土 3層に分層される。ブロック状に堆積した様相を呈しており、人為堆積と考えられる。

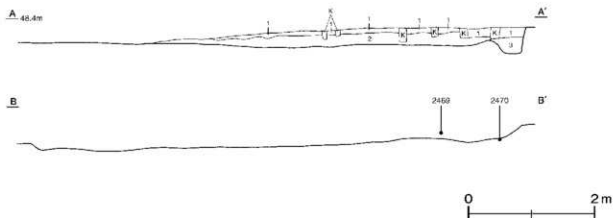
土層解説

- 1 灰黄褐色 ロームブロック中量  
2 暗褐色 ロームブロック多量

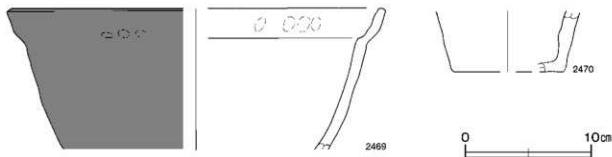
- 3 黒褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師質土器4点(内耳鍋3, 小皿1), 陶器片3点(瓶子), 磁器片2点が出土している。また流れ込んだ弥生土器片10点, 土師器片310点(環72, 高台付皿1, 高環2, 椀233, 高台付環2), 須恵器片62(環17, 蓋5, 瓶3, 椀35, 鉢2), ミニチュア土器1点が出土している。2470は中央部東側の底面, 2469は覆土中層から出土している。

所見 時期は重複関係及び出土土器から、中世と推測される。



第263図 第76号溝跡実測図



第264図 第76号溝跡出土遺物実測図

第76号溝跡出土遺物観察表 (第264図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・釉薬	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
2469	土師質土器	内耳鉢	30.0	11.2	-	石灰・長石・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部内面指頭による押え後横ナデ 体部内面横ナデ	覆土中層	5%

番号	器質	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	絵付	釉色	釉薬	産地	年代	出土位置	備考
2470	陶器	瓶子	-	(4.9)	[8.8]	緻密	浅黄	-	灰白	灰釉	瀬戸・美濃	-	床面	5%

### 第81号溝跡 (第265・266図)

位置 西部4区中部のC3h8 - C5c8区で、標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第397号住居跡を掘り込み、第77号溝、第110号井戸に掘り込まれている。

規模と形状 C3h8区から南方向(N-9°-E)に直線的に延びている。南部は調査区域外に延びているため、全体は不明である。規模は確認できた長さ20.00mで、規模は上幅3.80m、下幅2.76-3.22m、深さ48cmである。底面は平坦で壁は緩やかに立ち上がり、断面はU字状を呈している。

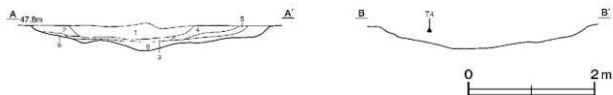
覆土 6層に分層される。ブロック状に堆積している様相を呈しており、人為堆積と考えられる。

#### 土層解説

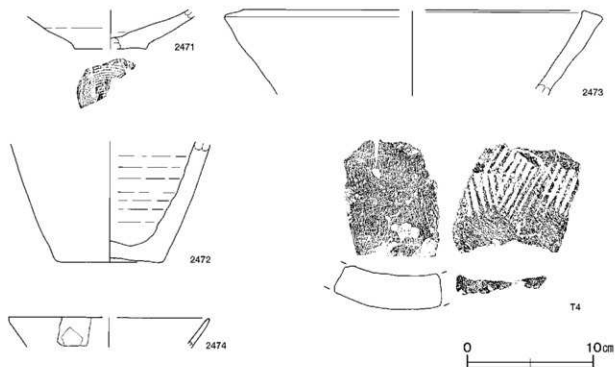
- |       |                       |       |           |
|-------|-----------------------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子微量        | 4 黒褐色 | ローム粒子微量   |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量   | 5 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 黒褐色 | ロームブロック少量 |

遺物出土状況 土師質土器片1点(皿)、陶器片1点(鉢)、磁器片2点(碗)が出土している。また、縄文土器片5点、土師器片112点(坏24、高台付皿2、高坏3、鉢1、甕81、甌1)、須恵器片31点(坏6、蓋2、捏鉢1、椀22)、灰釉陶器片1点、石製品1点(支脚)、鉄滓3点、瓦片1点も出土している。2471-2474は覆土中から出土している。縄文土器片、土師器片、須恵器片など遺物の多くは人為堆積時の混入と考えられる。

所見 時期は重複関係及び出土土器から、中世と推測される。



第265図 第81号溝跡実測図



第266図 第81号溝跡出土遺物実測図

第81号溝跡出土遺物観察表 (第266図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
2471	土師質土器	皿	-	(3.1) [5.8]	石英	にぶい橙	普通	体部内面口クロナデ後不定方向のナデ 底部回転糸切り	底	覆土中	20%
2472	須恵器	控鉢	-	(9.6)	8.4	長石	楊灰	普通	体部外面口クロナデ(横方向)後縦方向のナデ 内面口クロ口目強い	覆土中	20%

番号	器質	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	絵付	釉色	釉薬	産地	年代	出土位置	備考
2473	陶器	鉢	30.0	(6.7)	-	石英-白色胎子	楊灰	-	赤褐	灰釉	常滑	14-15世紀	覆土中	5%
2474	青磁	碗	16.0	(2.3)	-	緻密	灰	-	緑灰	青磁釉	-	13-14世紀	覆土中	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
T 4	平瓦	(10.4)	(8.5)	2.8	386.0	長石-石英-白色胎子	凸面平行叩き 凹面布面積	覆土上層	

表11 中世以降の溝跡一覧表

番号	位置	主軸方向	形状	規模			断面	底面	覆土	出土遺物	備考 (時期)	
				長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)						深さ(cm)
73	B 3 19- B 4 11	N-87°-W	直線	(6.70)	(1.12)	0.23- 0.35	32-43	U字状	皿状	人為	土師器片 須恵器片 土師質土器片 陶器片	中世
74	B 3 19- B 4 12	N-87°-W	直線	(9.60)	(1.03)	0.21	38-50	U字状	皿状	人為	土師器片 須恵器片 土師質土器片	中世
76	B 3 18- D 3 c 8	N-2°-W	直線	(44.00)	8.40	7.34	28	逆台形	平坦	人為	土師器片 須恵器片 土師質土器片 陶器片 磁器片	中世
81	C 3 h8- D 3 c 8	N-9°-E	直線	(20.00)	3.80	2.76- 3.22	48	U字状	平坦	人為	埴文土器片 土師器片 須恵器片 陶器片 磁器片	中世



(6) 道路跡

第1号道路跡 (第267・268図)

位置 西部4区東区のB2c6-C2a6区で、標高48mほどの平坦な台地上に位置している。南部は平成15年度に調査が終了している。

重複関係 第141・348・383号住居跡を掘り込み、第71号溝跡の覆土上面が硬化したもので構築している。

規模と形状 南北方向(N-5°-E)に直線的に延びており、規模は確認された長さ20.40mで、上幅1.72-2.86mである。路面は硬化しており、厚さ20-28cmである。

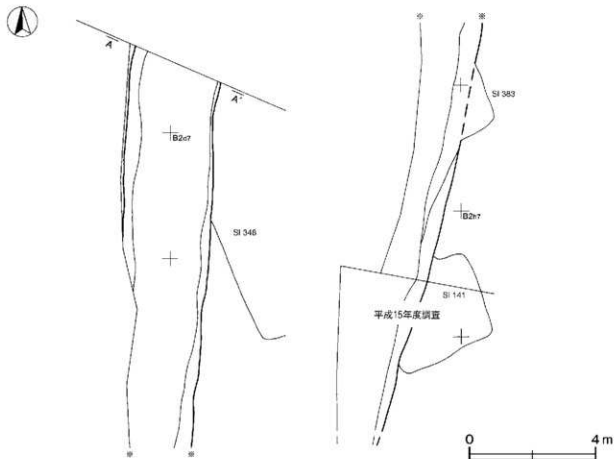
覆土 単一層で、硬化層である。

土層解説

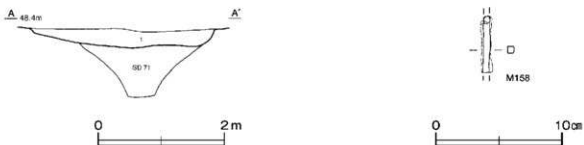
1 黒褐色 ローム粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片13点、弥生土器片16点、土師器片236点(坏43, 高坏7, 鉢1, 甕174, 甌4, 不明7), 須恵器片38点(坏9, 高台付坏1, 盤1, 壺1, 椀25, 鉢1), 土師質土器57点(内耳鍋55点, 皿2), 陶器片6点(碗2, 鉢4), 鉄製品1点(釘), 石製品1点(支脚), 礫145点が出土しているが、周囲からの流れ込みと考えられる。土器片は細片が多く図示できない。礫の多くは道路構築土の下層から多く出土していることから、第71号溝が埋没しかけている時期に道路として利用するために敷き詰められたのではないかと考えられる。

所見 平成15年度調査区分の『茨城県教育財団文化財調査報告』第248集において、時期は15世紀以降の中世もしくは近世と報告されている。今回の調査区出土の内耳鍋片は細片であるが、既報告の時期を追認できるものと考えられる。



第267図 第1号道路跡実測図



第268図 第1号道路跡・出土遺物実測図

第1号道路跡出土遺物観察表 (第268図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M158	釘	(4.5)	0.5	0.5	(5.35)	鉄	断面四角形 両端部欠損	覆土中	PL90

## 5 その他の遺構と遺物

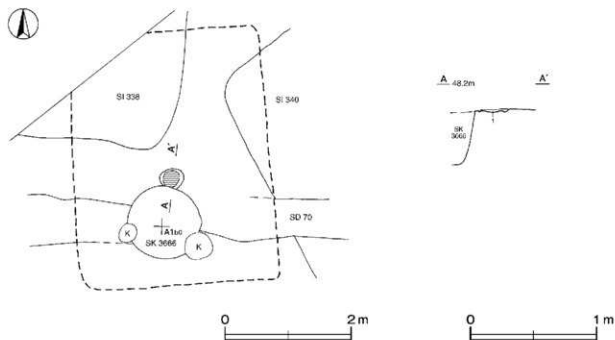
今回の調査で、時期不明の竪穴住居跡15軒、擬立柱建物跡1棟、方形竪穴遺構1基、溝跡10条、井戸跡17基、土坑358基、土墳墓1基、ピット群5か所が確認された。以下、確認された遺構と遺物について記述する。

### (1) 竪穴住居跡

#### 第339号住居跡 (第269図)

位置 西部3区東部のA1a0区で、標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第338・340号住居、第3666号土坑、第70号溝に掘り込まれている。



第269図 第339号住居跡実測図

規模と形状 遺存する床面の範囲から南北軸4.02m、東西軸3.12mで、平面形は方形もしくは長方形と推定され、主軸方向はN-3°-Wである。

炉 中央部に付設されている。長径38cm、短径30cmの楕円形で、床面を4cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火熱を受けて赤変している。

炉土層解説

1 暗褐色 焼土ブロック中量

所見 時期は、出土土器がないため不明である。

#### 第341号住居跡（第270図）

位置 西部3区東部のA2e3区で、標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第68号溝に掘り込まれている。

規模と形状 南北軸3.30m、東西軸1.28mだけが確認され、平面形は方形もしくは長方形と推定される。南北軸方向はN-9°-Wである。壁高は5cmで、緩やかに立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。

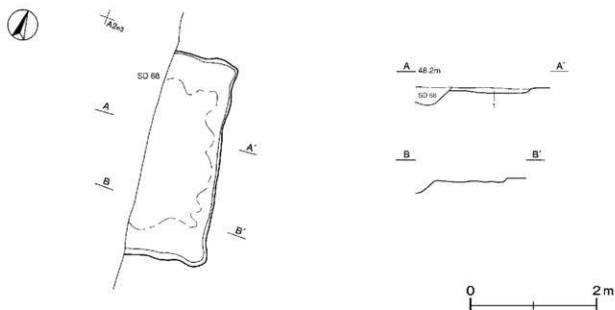
覆土 単一層であり、層厚が薄く堆積状況は不明である。

土層解説

1 暗褐色 ローム粒子少量

遺物出土状況 土師器片13点（坏2，椀11）、須恵器片1点（椀）が覆土中から出土している。いずれも細片で図示できない。

所見 時期は出土土器が細片で、遺構の様相からも不明である。



第270図 第341号住居跡実測図

### 第344号住居跡（第271図）

位置 西部3区東部のA1c7区で、標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第316号住居跡を掘り込み、第335・336・359号住居、第3719号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北西コーナー部が調査区域外へ延びており、北壁だけが遺存している。北壁と床面から東西軸4.00m、南北軸3.20mで、平面形は方形もしくは長方形と推定され、東西軸方向はN-81°-Eである。壁高は5cmで、壁は緩やかに立ち上がっている。

床 ほぼ平坦である。

覆土 2層に分層される。層厚が薄く堆積状況は不明である。第2層は貼床の構築土である。

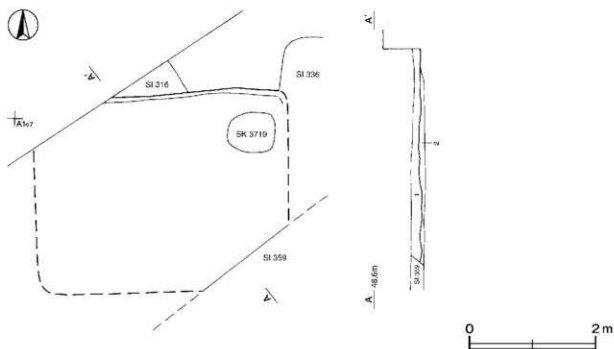
土層解説

1 褐色 ロームブロック少量

2 褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片7点(坏1, 甕6)が覆土中から出土しているが、すべて細片で図示できない。また、流れ込んだ弥生土器片5点も出土している。

所見 時期は出土土器が細片で、遺構の様相からも明確ではないが、重複関係から平安時代以前と考えられる。



第271図 第344号住居跡実測図

### 第367号住居跡（第272図）

位置 西部4区西部のB315区で、標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第357号住居、第3738号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 削平のため南北軸4.09m、東西軸6.39mだけが確認できた。平面形は長方形と推定される。東西軸方向はN-82°-Eである。壁高は2-10cmで、壁は緩やかに立ち上がっている。

床 ほぼ平坦である。

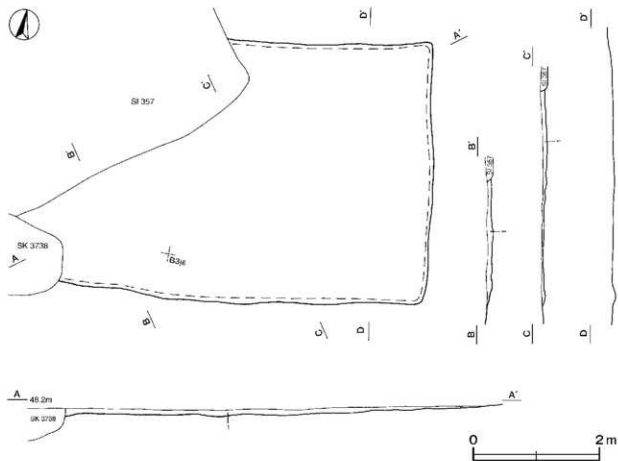
覆土 単一層である。層厚が薄く堆積状況は不明である。

土層解説

1 種 暗褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片43点(坏10, 甕33)が覆土中から出土しているが、すべて細片で図示できない。また、流れ込んだ弥生土器片8点, 土師器片1点(高台付椀), 須恵器片4点(坏1, 甕3)も出土している。

所見 時期は, 出土土器は細片であるが, 重複関係から古墳時代後期以前と考えられる。



第272図 第367号住居跡実測図

### 第368号住居跡(第273図)

位置 西部4区西部のB3j8区で, 標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第364号住居, 第3739・3768号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北壁・東壁の一部及び床面の広がりから, 南北軸2.75m, 東西軸2.50mが確認できた。平面形は方形もしくは長方形と推定され, 東西軸方向はN-20°-Wである。壁高は2~10cmで, 壁は緩やかに立ち上がっている。

床 ほぼ平坦である。

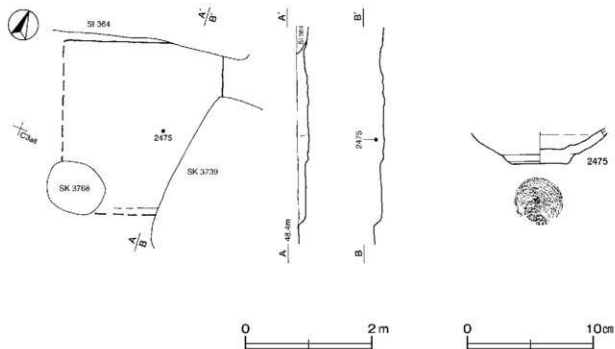
覆土 単一層である。層厚が薄く堆積状況は不明である。

土層解説

1 種 暗褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土器器片44点(坏10, 高台付坏1, 稜33), 須恵器片4点(坏1, 稜3)が覆土中から出土しているが, すべて細片で図示できない。また, 流れ込んだ弥生土器片8点も出土している。2475が中央部の覆土上層から出土している。

所見 時期は, 重複関係及び出土土器から平安時代以前と考えられるが, 詳細は不明である。



第273図 第368号住居跡・出土遺物実測図

第368号住居跡出土遺物観察表 (第273図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
2475	土器器	坏	-	(2.5)	4.2					覆土上層	40%

第398号住居跡(第274図)

位置 西部4区西部のD3c8区で, 標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第397号住居跡を掘り込み, 第110号井戸, 第81号溝に掘り込まれている。

規模と形状 西側は重複, 南側は調査区域外へ延びているため, 南北軸3.04m, 東西軸1.26mだけが確認された。平面形は方形もしくは長方形と推定され, 主軸方向はN-13°-Eである。

床 ほぼ平坦である。

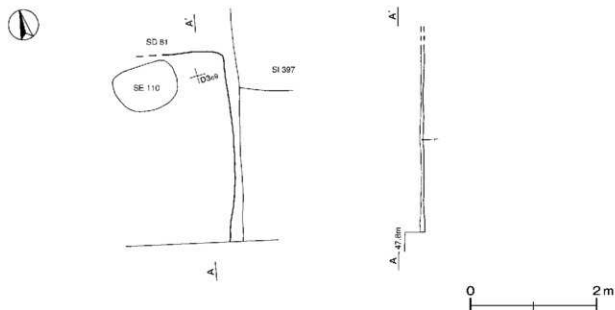
覆土 単一層である。層厚が薄く堆積状況は不明である。

土層解説

1 黒褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片31点(坏6, 裏25)が覆土中から出土しているが、すべて細片で図示できない。また、流れ込んだ縄文土器片1点, 弥生土器片8点, 須恵器片4点(坏1, 裏3), 土師質土器1点(内耳鍋)も出土している。

所見 時期は出土土器が細片で, 重複関係からも不明である。



第274図 第398号住居跡実測図

#### 第401号住居跡(第275図)

位置 西部4区東部のC6j2区で, 標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第414号住居跡を掘り込み, 第3871・3905号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北東部が調査区域外へ延びており, 南北軸3.63m, 東西軸2.43mだけが確認できた。平面形は方形もしくは長方形と推定され, 南北軸方向はN-5°-Eである。壁高は40cmで, 直立している。

床 ほぼ平坦で黒褐色土の貼床である。中央部が踏み固められている。

ピット 深さ20cmで, 性格は不明である。

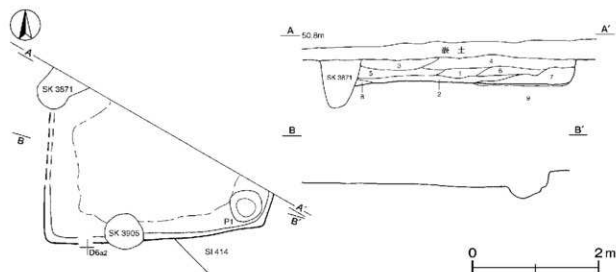
覆土 9層に分層される。ロームブロックや焼土粒子が含まれており, 人為堆積と考えられる。第9層は貼床の構築土である。

##### 土層解説

- |       |                              |        |                                  |
|-------|------------------------------|--------|----------------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子微量   | 6 極暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化物・焼土粒子微量            |
| 2 褐色  | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量       | 7 褐色   | ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量, 炭化物微量 |
| 3 褐色  | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量          | 8 褐色   | ロームブロック中量, 砂質粘土ブロック微量            |
| 4 灰褐色 | ロームブロック・炭化物・焼土粒子・砂質粘土粒子微量    | 9 黒褐色  | 炭化物・ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子微量          |
| 5 褐色  | ローム粒子少量, 焼土ブロック・炭化物・砂質粘土粒子微量 |        |                                  |

遺物出土状況 土師器片117点(坏37, 高台付椀1, 甕79)が覆土中から出土している。また、流れ込んだ縄文土器片1点, 須恵器片10点(坏1, 甕9), 土師質土器1点(内耳鍋)も出土している。すべて細片で、図示できない。

所見 時期は, 出土土器が細片で, 重複関係からも不明である。



第275図 第401号住居跡実測図

#### 第414号住居跡(第276図)

位置 西部4区東部のC6j2区で, 標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第401号住居に掘り込まれている。

規模と形状 北東部が調査区域外へ延びており, 南西壁3.82m, 南東壁1.92mだけが確認された。平面形は方形もしくは長方形と推定され, 長軸方向はN-43°-Eである。壁高は25~26cmで, ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で, 中央部が踏み固められている。壁溝が, 確認された範囲で全周している。

覆土 9層に分層される。ブロック状の堆積状況を呈しており, 人為堆積と考えられる。

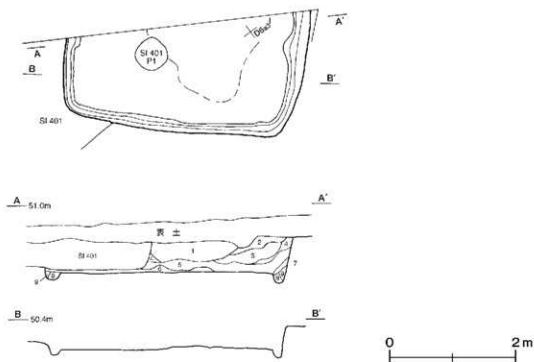
##### 土層解説

- |       |                      |       |                     |
|-------|----------------------|-------|---------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 灰褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック微量            | 7 暗褐色 | ロームブロック微量           |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量      | 8 暗褐色 | ローム粒子中量             |
| 4 黒褐色 | ローム粒子微量              | 9 褐色  | ローム粒子中量             |
| 5 黒褐色 | 焼土ブロック微量             |       |                     |

遺物出土状況 土師器片34点(坏9, 甕25)が覆土中から出土しているが, すべて細片で図示できない。また, 流れ込んだ縄文土器片7点, 須恵器片1点(甕)も出土している。

所見 時期は, 出土土器が細片で, 重複関係からも不明である。





第276図 第414号住居跡実測図

#### 第416号住居跡（第277図）

位置 西部4区東部のD4c0区で、標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第417号住居跡を掘り込み、第419号住居、第79号溝に掘り込まれている。

規模と形状 東部及び北部が調査区域外へ延びており、西部は第79号溝に掘り込まれているため、南北軸5.90m、東西軸0.92mだけが確認できた。平面形は方形もしくは長方形と推定され、南北軸方向はN-8°-Eである。壁高は32cmで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦である。

ピット 深さ20cmで、性格は不明である。

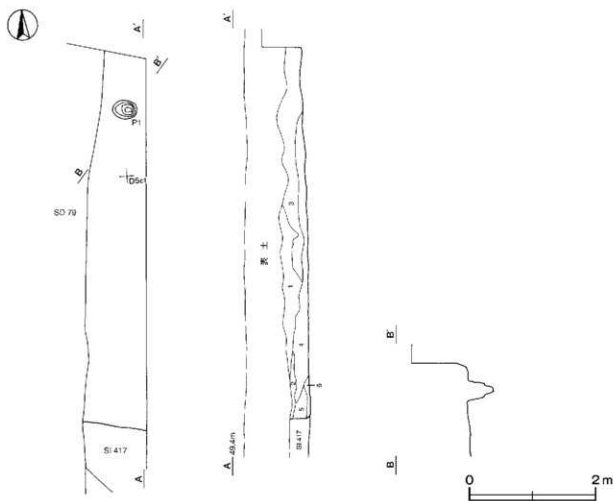
覆土 6層に分層される。ブロック状の堆積状況を呈しており、人為堆積と考えられる。

##### 土層解説

- |                           |                          |
|---------------------------|--------------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック中量           | 4 黒褐色 ローム粒子少量、砂質粘土ブロック微量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子少量、炭化物・焼土粒子微量  | 5 暗褐色 ローム粒子中量            |
| 3 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 ローム粒子少量            |

遺物出土状況 土師器片10点（坏1，甕9）が覆土中から出土しているが、すべて細片で図示できない。

所見 時期は、出土土器が細片であり、重複関係からも不明である。



第277図 第416号住居跡実測図

#### 第417号住居跡（第278図）

位置 西部4区東部のD 4 d0 区で、標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第416号住居、第79号溝に掘り込まれている。

規模と形状 ほとんどが削平され西コーナーのみが確認された。南北軸1.40m、東西軸1.24mだけが確認できた。平面形は方形もしくは長方形と推定され、南北軸方向はN-41°-Wである。壁高は16cmで、緩やかに立ち上がっている。

床 ほぼ平坦である。

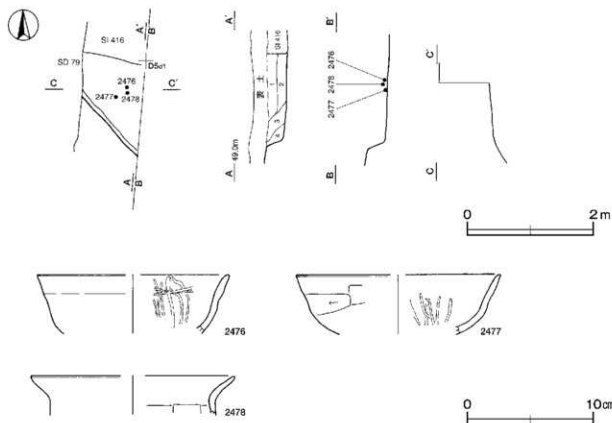
覆土 4層に分層される。ブロック状の堆積状況を呈しており、人為堆積と考えられる。

#### 土層解説

- |                             |                          |
|-----------------------------|--------------------------|
| 1 黒褐色 焼土ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 3 黒褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量     |
| 2 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量   | 4 黒色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片4点（坏3，硯1）、須恵器片1点（坏）が覆土中から出土している。2476～2478は西コーナー部の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器及び重複関係から5世紀後葉以降であると考えられるが、詳細は不明である。



第278図 第417号住居跡・出土遺物実測図

第417号住居跡出土遺物観察表（第278図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
2476	土師器	坏	15.0 (4.7)	-	-	石英・雲母・白色粒子	赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 内面横ナデ後横方向のへら磨き 体部内面へら磨き	覆土下層	5%
2477	土師器	坏	16.0 (4.7)	-	-	石英・雲母 に灰濁	赤褐	普通	体部内面へら磨き 外面へら削り	覆土下層	5%
2478	土師器	甕	16.0 (3.1)	-	-	石英・長石・雲母	橙	普通	口縁部内面横ナデ後ナデ 外面横ナデ 頸部内面へらナデ	覆土下層	5%

#### 第419号住居跡（第279図）

位置 西部4区東部のD4 b0区で、標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第416号住居跡を掘り込み、第79号溝に掘り込まれている。

規模と形状 東向きの竈が確認されただけで、規模や形状は不明である。

床 ほぼ平坦である。

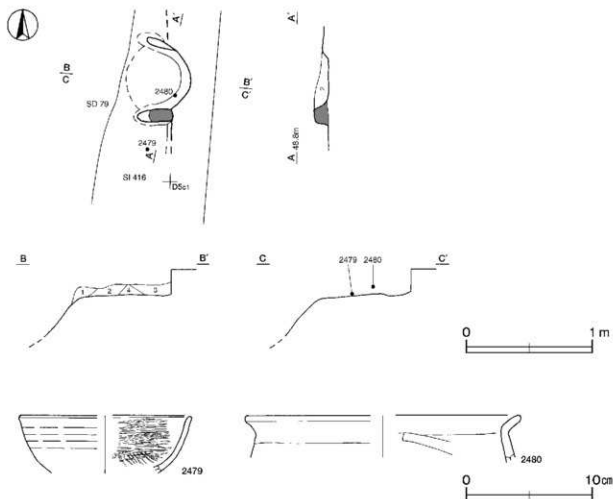
竈 4層に分層される。ブロック状の堆積状況を呈しており、人為堆積と考えられる。

##### 竈土層解説

- |                             |                           |
|-----------------------------|---------------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・砂質粘土粒子微量 | 3 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子少量          | 4 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量   |

遺物出土状況 土師器片34点（坏14，小皿1，甕19），須恵器片2点（坏，甕）が出土している。2480は右袖部内から、2479は竈右袖南側の床面からそれぞれ出土している。

所見 時期は、重複関係及び出土土器から平安時代と考えられるが、詳細は不明である。



第279図 第419号住居跡・出土遺物実測図

第419号住居跡出土遺物観察表 (第279図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
2479	土器器	坏	[13.5]	(4.6)	-	石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	内面へら磨き	床面	10%
2480	土器器	椀	[21.7]	(3.7)	-	石英・長石・雲母	にぶい褐色	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部内面へらナデ	礎石袖	5%

#### 第420号住居跡 (第280図)

位置 西部4区東部のC 5 g5 区で、標高49mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第3909・3910・3927～3929号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北東部が調査区域外へ延びており、東西軸2.40m、南北軸1.56mだけが確認できた。平面形は方形もしくは長方形と推定され、南北軸方向はN-2°-Wである。壁高は25～26cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦である。

ピット 深さ28cmで、性格は不明である。

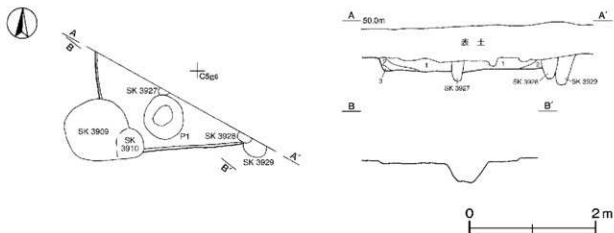
覆土 3層に分層される。ブロック状の堆積状況を呈しており、人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック・炭化物微量  
 2 黒 褐 色 ローム粒子・焼土粒子微量

- 3 暗 褐 色 ローム粒子少量

所見 時期は、出土土器が細片で、重複関係からも不明である。

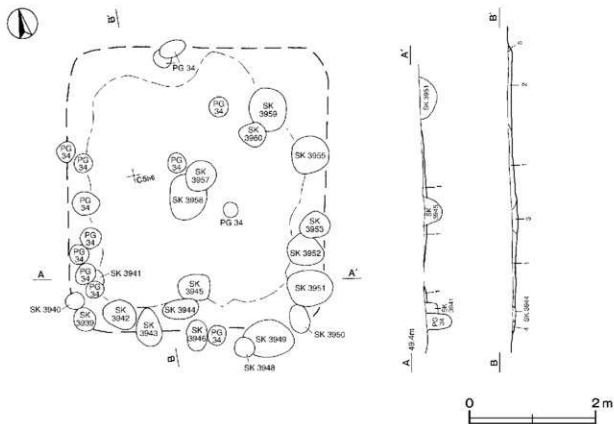


第280図 第420号住居跡実測図

第421号住居跡 (第281図)

位置 西部4区東部のC5h6区で、標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第3939～3946・3948～3953・3955・3957～3960号土坑，第34号ピット群に掘り込まれている。



第281図 第421号住居跡実測図

規模と形状 ほぼ硬化面が露出した形で確認され、周辺部にかけて薄くなっていく覆土が確認された。その範囲から長軸4.40m、短軸4.10mのほぼ方形と推定され、主軸方向はN-12°-Eである。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。

覆土 5層に分層される。層厚が薄いため堆積状況は不明である。

土層解説

1	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	4	褐色	ローム粒子少量
2	暗褐色	ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量	5	褐色	ローム粒子中量
3	黒褐色	ローム粒子・炭化粒子微量			

遺物出土状況 土師器片46点（坏16，甕30），須恵器片1点（甕）が覆土中から出土しているが、すべて細片で図示できない。

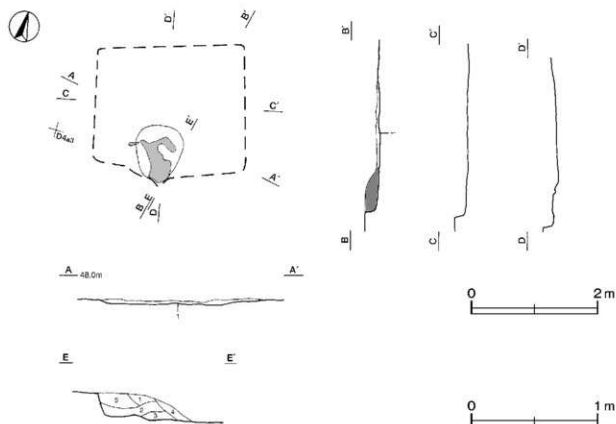
所見 時期は、出土土器が細片で、重複関係からも不明である。

第425号住居跡（第282図）

位置 西部4区中央部のC4j3区で、標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 床面がほぼ露出した状態で確認され、周辺部にかけて薄くなっていく覆土が堆積していた。床面の範囲から南北軸2.05m、東西軸2.36mで、平面形は長方形と推定され、主軸方向はN-170°-Eである。

床 ほぼ平坦である。



第282図 第425号住居跡実測図

竈 南壁中央部に付設されている。遺存状態が悪く、粘土と火床面の範囲が確認されただけである。粘土の範囲は袖部と考えられ幅20cm、長さ32cmである。その下には、炭化物が堆積していた。火床面の形状は長径46cm、短径38cmの楕円形で、赤変した部分は確認されなかった。

竈土層解説

- |       |               |       |                     |
|-------|---------------|-------|---------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック微量     | 4 黒褐色 | ローム粒子・白色粒子少量        |
| 2 暗褐色 | 焼土ブロック・白色粒子少量 | 5 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | 白色粒子多量、炭化物少量  |       |                     |

覆土 単一層で、層厚が薄いため堆積状況は不明である。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量

遺物出土状況 土師器片65点(環12, 襦53), 須恵器片5点(坏4, 襦1)が覆土中から出土しているが、すべて細片で図示できない。

所見 時期は、出土土器が細片のため判断は困難である。遺構の様相から平安時代以降であるが、詳細は不明である。

第426号住居跡(第283図)

位置 西部4区中央部のC3j7区で、標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第3825号土坑、第113号井戸に掘り込まれている。

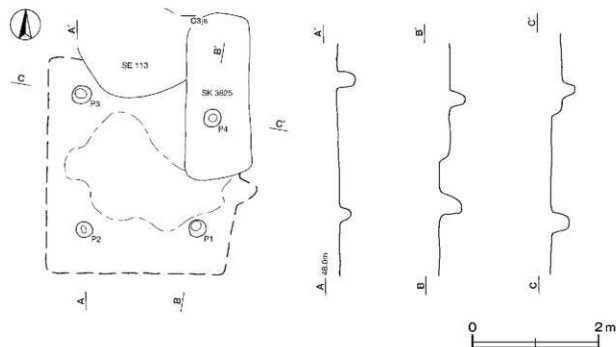
規模と形状 床面が露出した状態で確認された。床面の範囲と支柱穴から南北軸3.30m、東西軸3.06mの方形と推定され、主軸方向はN-94°-Eである。

ピット 4か所。P1～P4は深さ20～36cmで、規模と配置から支柱穴と考えられる。

床 ほぼ平坦で、支柱穴に囲まれた範囲が踏み固められている。

遺物出土状況 土師器片2点(襦)が覆土中から出土しているが、すべて細片で図示できない。

所見 時期は、出土土器が細片で、重複関係からも不明である。



第283図 第426号住居跡実測図

表12 その他の住居跡一覧表

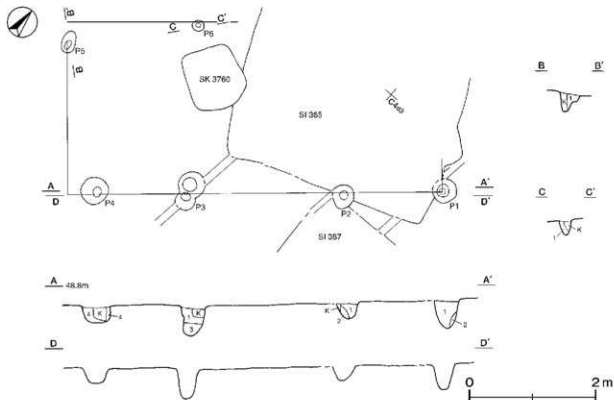
番号	位置	主軸方向	平面形	垣幅 (m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	内部施設						出土遺物	備考 (時期)	
							壁溝	主柱穴	出入口 ピット	ピット	炉・竈	貯蔵穴			竈
339	A 1 a 0	N-18°-E	[方形・ 長方形]	4.02×(3.12)	-	-	-	-	-	-	-	-	土師器片	須恵	
341	A 2 e 3	N-9°-W	[方形・ 長方形]	3.30×(1.28)	5	平坦	-	-	-	-	-	-	不明	土師器片	
344	A 1 c 7	N-81°-E	[長方形]	4.00×(3.20)	5	平坦	-	-	-	-	-	-	不明	土師器片	平安時代以前
367	B 3 15	N-82°-E	[長方形]	6.39×4.09	2-10	平坦	-	-	-	-	-	-	不明	土師器片	古墳時代以前
368	B 3 18	N-20°-W	[方形・ 長方形]	[2.75×2.50]	2-10	平坦	-	-	-	-	-	-	不明	土師器片	須恵 平安時代以前
398	D 3 c 8	N-13°-E	[方形・ 長方形]	3.04×(1.26)	不明	平坦	-	-	-	-	-	-	不明	土師器片	
401	C 6 j 2	N-5°-E	[方形・ 長方形]	3.63×(2.43)	40	平坦	-	-	1	-	-	-	人為	土師器片	
414	C 6 j 2	N-43°-E	[方形・ 長方形]	3.82×(1.92)	25-26	平坦	[周囲]	-	-	-	-	-	人為	土師器片	
416	D 4 c 0	N-8°-E	[方形・ 長方形]	5.90×(0.92)	32	平坦	-	-	1	-	-	-	人為	土師器片	
417	D 4 d 0	N-41°-W	[方形・ 長方形]	1.40×(1.24)	16	平坦	-	-	-	-	-	-	人為	土師器片	須恵
419	D 4 b 0	-	-	-	-	平坦	-	-	-	-	-	-	人為	土師器片	須恵
420	C 5 g 5	N-2°-W	[方形・ 長方形]	2.40×(1.56)	25-26	平坦	-	-	1	-	-	-	人為	土師器片	須恵
421	C 5 h 6	N-12°-E	[長方形]	[4.40×4.10]	不明	平坦	-	-	-	-	-	-	不明	土師器片	須恵
425	C 4 j 3	N-170°-E	[長方形]	[2.36×2.05]	不明	平坦	-	-	-	-	-	-	不明	土師器片	須恵
426	C 3 j 7	N-94°-E	[方形]	[3.30×3.06]	不明	平坦	-	4	-	-	-	-	不明	土師器片	平安時代以降

(2) 掘立柱建物跡

第34号掘立柱建物跡 (第284図)

位置 西部4区中央部のC 4 d 2 区に位置し、標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第365・387号住居跡を掘り込んでいる。



第284図 第34号掘立柱建物跡



規模と構造 桁行3間，梁行1間の副柱建物跡である。桁行方向をN-52°-Eとする東西棟である。桁行は6.0m（20尺），梁行は2.4m（8尺）で，面積は14.4㎡ほどと推定される。柱間寸法は，桁行1.8m（6尺）と2.4m（8尺），梁行2.4m（8尺）である。

柱穴 6か所。長径17-45cm，短径17-38cmの円形及び楕円形で，深さは8-47cmである。柱痕跡や柱抜き取り痕は確認されなかった。土層は柱抜き取り後の覆土である。

土層解説

- |                |                 |
|----------------|-----------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子中量  | 3 暗褐色 ロームブロック中量 |
| 2 褐色 ロームブロック中量 | 4 褐色 ローム粒子中量    |

遺物出土状況 土師器片8点（坏1，甕7），須恵器片1点（甕）が出土している。すべて流れ込んだ細片である。

所見 時期は，重複関係及び柱穴の規模や配列などから中世もしくは近世と推測されるが，詳細は不明である。

### (3) 方形竪穴遺構

#### 第49号方形竪穴遺構（SK3906）（第285図）

位置 西部4区東部のC5g4区で，標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

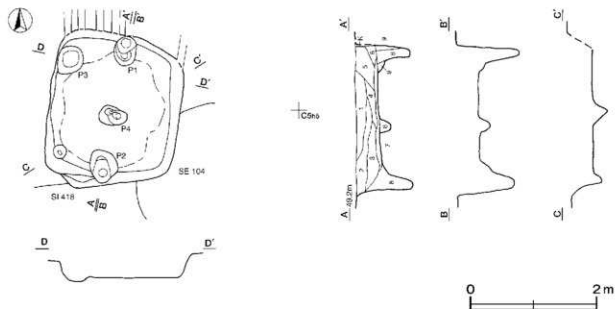
重複関係 第418号住居跡，第104号井戸跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸2.50m，短軸2.12mの長方形で，長軸方向はN-9°-Eである。深さは34cmで，壁はほぼ垂直に立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，各コーナー部を除いて踏み固められている。

ピット 4か所。P1・P2は深さ52cmで，規模と配置から主柱穴と考えられる。P3・P4は深さ32cm・20cmで，性格は不明である。

覆土 9層に分層される。ロームブロックを含んだ不規則な堆積状況を呈しており，人為堆積と考えられる。



第285図 第49号方形竪穴遺構実測図

土層解説

- |       |                |       |                      |
|-------|----------------|-------|----------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量,炭化物微量  | 6 暗褐色 | ロームブロック・炭化物微量        |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量,炭化物微量  | 7 暗褐色 | ローム粒子・炭化物微量          |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量,炭化粒子微量 | 8 暗褐色 | ローム粒子少量              |
| 4 暗褐色 | ローム粒子中量        | 9 黒褐色 | ローム粒子少量,炭化物・焼土ブロック微量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック少量      |       |                      |

遺物出土状況 土師器片41点(坏5, 椀36), 須恵器片3点(高台付坏)が出土している。

所見 炉や竈が確認できないため, 一般の住居とは異なる様相を持ち, 性格は不明である。時期は, 遺構に伴う出土土器がなく不明である。

(4) 井戸跡

第93号井戸跡(第286図)

位置 西部3区西部のA1j5区で, 標高47mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 径1.09mの円形で, ほぼ円筒状に掘り込まれており, 湧水のため深さは132cmまでしか確認できなかった。

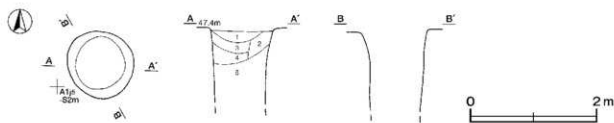
覆土 5層に分層される。ブロック状の不規則な堆積状況から, 人為堆積と考えられる。

土層解説

- |       |                    |      |         |
|-------|--------------------|------|---------|
| 1 黒褐色 | 鹿沼バミス少量            | 4 黒色 | 鹿沼バミス少量 |
| 2 黒褐色 | 鹿沼バミス少量, ロームブロック微量 | 5 黒色 | 鹿沼バミス中量 |
| 3 黒色  | 鹿沼バミスブロック少量        |      |         |

遺物出土状況 弥生土器片2点, 土師器片15点(坏4, 椀11), 中磯1点が出土している。細片で, 破断面が摩滅していることから, 流れ込んだものと考えられる。

所見 時期は, 重複関係がなく出土土器も細片であるため不明である。



第286図 第93号井戸跡実測図

第94号井戸跡(第287図)

位置 西部3区西部のA1f5区で, 標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第3620号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 径1.01mの円形で, ほぼ円筒状に掘り込まれており, 湧水のため深さは108cmまでしか確認できなかった。

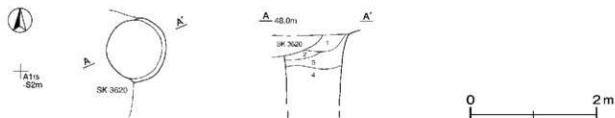
覆土 4層に分層される。ロームブロックや鹿沼バミスを不規則に含み, 人為堆積と考えられる。

土層解説

- |       |                    |       |                        |
|-------|--------------------|-------|------------------------|
| 1 暗褐色 | 鹿沼バミス粒子中量, ローム粒子少量 | 3 暗褐色 | 鹿沼バミスブロック中量, ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量, 鹿沼バミス粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック少量              |

遺物出土状況 弥生土器片1点，土師器片2点（襷）が出土している。細片で，破断面が摩滅していることから，流れ込んだものと考えられる。

所見 時期は，重複関係にある土坑の時期が不明で，出土土器も細片のため不明である。



第287図 第94号井戸跡実測図

#### 第96号井戸跡（第288図）

位置 西部4区西部のB 2 g0 区で，標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 径1.45mの円形で，ほぼ円筒状に掘り込まれている。湧水のため深さ157cmまでしか確認できなかった。

覆土 4層に分層される。周囲から土砂が堆積した様相から，自然堆積と考えられる。

土層解説

1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量

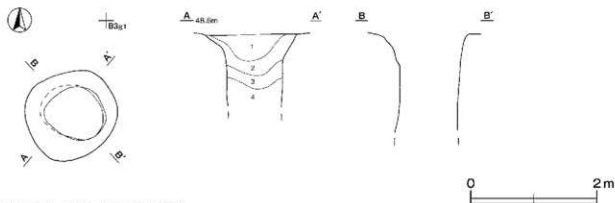
3 黒色 ローム粒子微量

2 黒褐色 ロームブロック微量

4 黒褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片67点（坏28，襷39），須恵器片10点（坏7，襷3）が出土している。細片であり，破断面が摩滅していることから，流れ込んだものと考えられる。

所見 時期は，重複関係がなく出土土器も細片であるため不明である。



第288図 第96号井戸跡実測図

#### 第99号井戸跡（第289図）

位置 西部4区中央部のC 4 a4 区で，標高49mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第3781号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 径1.70mの円形で、ほぼ円筒状に掘り込まれており、湧水のため深さ118cmまでしか確認できなかった。

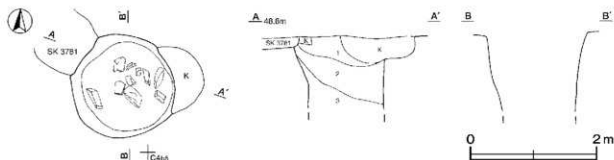
覆土 3層に分層される。ブロック状の不規則な堆積状況から、人為堆積と考えられる。

土層解説

- |        |                |        |         |
|--------|----------------|--------|---------|
| 1 黒 褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | 3 黒 褐色 | ローム粒子微量 |
| 2 黒 色  | ローム粒子・焼土粒子微量   |        |         |

遺物出土状況 弥生土器片1点、土師器片38点(環9, 高環1, 椀28), 須恵器片7点(環), 鉄製品7点(不明), 巨礫5点, 大礫18点, 中礫4点が出土している。土器は細片で、破断面が摩滅していることから、流れ込んだものと考えられる。

所見 時期は、重複関係にある土坑の時期が不明で、出土土器も細片であるため不明である。



第289図 第99号井戸跡実測図

#### 第100号井戸跡(第290図)

位置 西部4区東部のC5j9区で、標高50mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長径1.40m, 短径1.15mの楕円形で、長径方向はN-80°-Eである。ほぼ円筒状に掘り込まれており、湧水のため深さ84cmまでしか確認できなかった。

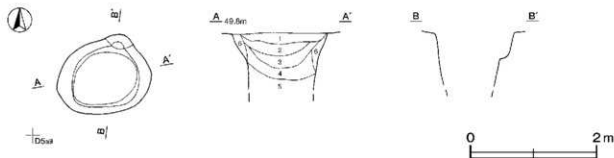
覆土 6層に分層される。周囲から土砂が堆積した様相から、自然堆積と考えられる。

土層解説

- |        |                   |        |           |
|--------|-------------------|--------|-----------|
| 1 黒 色  | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 黒 褐色 | ロームブロック微量 |
| 2 黒 色  | 炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量  | 5 黒 褐色 | ローム粒子微量   |
| 3 黒 褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量      | 6 黒 褐色 | ロームブロック少量 |

遺物出土状況 土師器片30点(環4, 椀26), 須恵器片3点(環, 瓶, 椀)が出土している。細片であり、破断面が摩滅していることから、流れ込んだものと考えられる。

所見 時期は、重複関係がなく出土土器も細片であるため不明である。



第290図 第100号井戸跡実測図

第107号井戸跡 (第291・292図)

位置 西部4区東部のC5e1区で、標高49mほどの平坦な台地上に位置している。

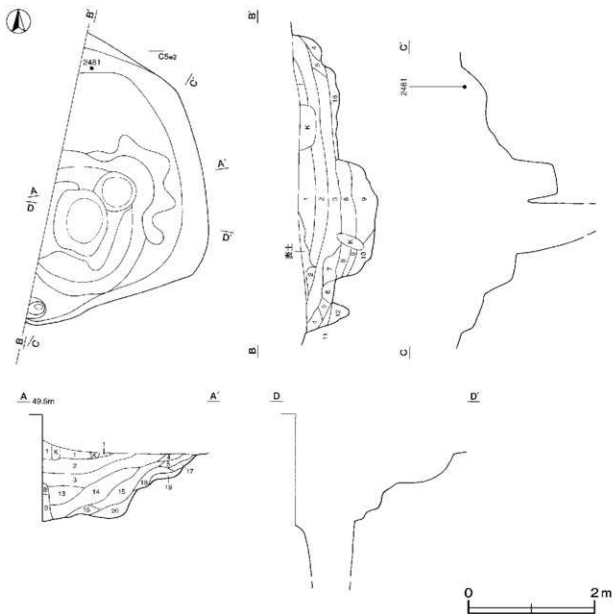
規模と形状 西部が調査区域外へ延びているため、南北径4.69m、東西径2.57mだけが確認された。平面形は不整形円形と推定され、漏斗状に深さ104cmまで掘り込まれており、それ以下は円筒状に掘り込まれている。

湧水のため深さ196cmまでしか確認できなかった。

覆土 20層に分層される。ロームブロックや鹿沼バミスを不規則に含み、人為堆積と考えられる。

土層解説

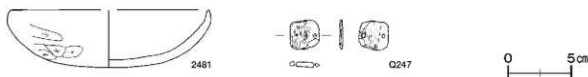
- |        |                     |         |                   |
|--------|---------------------|---------|-------------------|
| 1 黒 褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量        | 11 極暗褐色 | ローム粒子微量           |
| 2 黒 褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 12 褐色   | ロームブロック中量         |
| 3 黒 褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 13 黒 褐色 | ローム粒子少量           |
| 4 黒 褐色 | ローム粒子微量             | 14 極暗褐色 | ロームブロック・鹿沼バミス粒子少量 |
| 5 極暗褐色 | ローム粒子少量             | 15 極暗褐色 | ローム粒子少量、鹿沼バミス粒子微量 |
| 6 暗褐色  | ロームブロック少量           | 16 極暗褐色 | ロームブロック少量         |
| 7 暗褐色  | ロームブロック中量           | 17 褐色   | ローム粒子中量           |
| 8 暗褐色  | ロームブロック中量、鹿沼バミス粒子少量 | 18 暗褐色  | ローム粒子少量           |
| 9 暗褐色  | ローム粒子中量、鹿沼バミス微量     | 19 暗褐色  | ローム粒子中量           |
| 10 暗褐色 | ロームブロック・鹿沼バミス粒子少量   | 20 暗褐色  | ローム粒子・鹿沼バミス粒子少量   |



第291図 第107号井戸跡実測図

遺物出土状況 縄文土器片2点, 弥生土器片1点, 土師器片735点(坏180, 甕555), 須恵器片52点(坏19, 高台付坏5, 蓋6, 壺7, 甕15), 陶器片1点(碗), 石製品1点(双孔円板), 鉄製品2点(鉄滓, 不明)が覆土中から出土している。土器片には時期差があることや細片で破断面が摩滅している土器が多いことから流れ込んだものと考えられる。2481は北部の覆土上層, Q247は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 重複関係がなく, 時期差のある土器が混在して出土しているため不明である。



第292図 第107号井戸跡出土遺物実測図

第107号井戸跡出土遺物観察表(第292図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
2481	土師器	坏	15.6	4.6	-	雲母	に灰濁	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面へラ削り	覆土上層	40%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q247	双孔円板	2.31	2.35	0.35	3.18	滑石	両面研磨 孔径0.14cm	覆土中	PL89

第109号井戸跡(第293図)

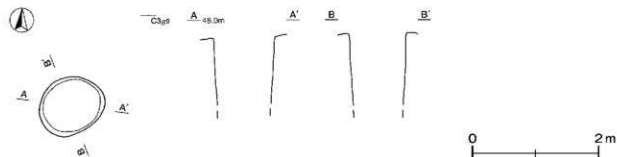
位置 西部4区中央部のC3g8区で, 標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長径1.05m, 短径0.90mの楕円形で, 長径方向はN-50°-Eである。ほぼ円筒状に掘り込まれており, 湧水のため深さ117cmまでしか確認できなかった。

覆土 湧水や崩落のため不明確であるが, ロームブロックや鹿沼/パミスを多く含んでいることから, 人為堆積と推測される。

遺物出土状況 土師器片4点(坏3, 甕1), 須恵器片1点(甕)が出土している。細片で, 破断面が摩滅していることから, 流れ込んだものと考えられる。

所見 時期は, 重複関係がなく出土土器も細片であるため不明である。



第293図 第109号井戸跡実測図

第111号井戸跡 (第294図)

位置 西部4区中央部のC 3 h8 区で、標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長径3.49m, 短径2.52mの楕円形で、長径方向はN-0°である。漏斗状に深さ49cmまで掘り込まれ、それ以下は円筒状に掘り込まれており、深さ112cmである。

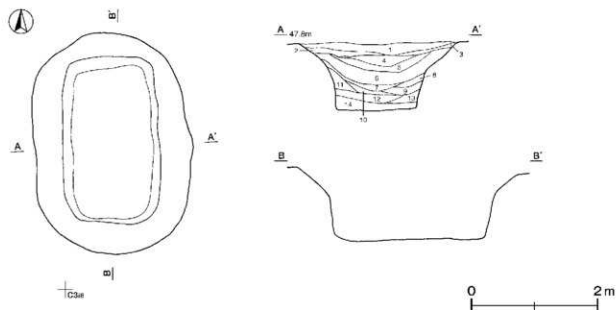
覆土 14層に分層される。ロームブロックや焼土粒子を不規則に含み、人為堆積と考えられる。

土層解説

1 黒 褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子微量	8 褐色	ローム粒子微量
2 黒 褐色	ローム粒子中量, 粘土ブロック・焼土粒子微量	9 黒 褐色	ロームブロック少量
3 黒 褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子微量	10 黒 褐色	ロームブロック中量, 焼土粒子少量
4 黒 褐色	ロームブロック多量, 炭化物・焼土粒子微量	11 黒 褐色	ロームブロック中量
5 黒 褐色	ロームブロック中量, 焼土粒子微量	12 黒 褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子少量
6 黒 褐色	ロームブロック・焼土粒子微量	13 褐色	ローム粒子・焼土粒子微量
7 黒 褐色	ローム粒子少量	14 黒 褐色	ロームブロック中量, 焼土ブロック微量

遺物出土状況 弥生土器片3点, 土師器片96点(坏30, 甕66), 須恵器片4点(坏3, 甕1), 陶器片1点が出土している。細片であり、破断面が摩滅していることから、流れ込んだものと考えられる。

所見 時期は、重複関係がなく出土土器も細片であるため不明である。



第294図 第111号井戸跡実測図

第112号井戸跡 (第295図)

位置 西部4区中央部のC 4 i2 区で、標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第77号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状 径1.50mの円形で、漏斗状に深さ48cmまで掘り込まれ、それ以下は円筒状に掘り込まれており、深さ132cmである。

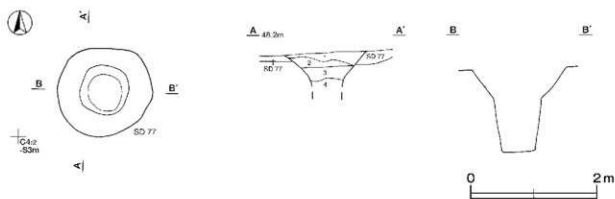
覆土 4層に分層される。ロームブロックや焼土粒子を不規則に含み、人為堆積と考えられる。

土層解説

1 黒 褐色	ロームブロック・焼土粒子微量	3 黒 褐色	ロームブロック微量
2 黒 褐色	ローム粒子少量	4 黒 褐色	ローム粒子微量

遺物出土状況 弥生土器片1点，土師器片43点（坏8，高台坏碗2，椀33），須恵器片13点（坏5，椀8），陶器片1点（椀）が，出土している。細片であり，破断面が摩滅していることから，流れ込んだものと考えられる。

所見 時期は，重複関係にある溝跡の時期が不明で，出土土器も細片であるため不明である。



第295図 第112号井戸跡実測図

#### 第115号井戸跡（第296図）

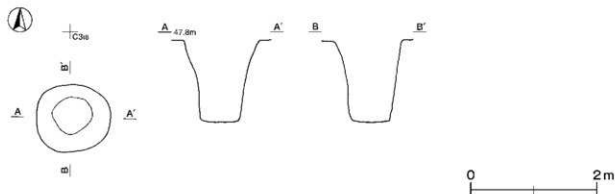
位置 西部4区中央部のC318区で，標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長径1.19m，短径1.05mの楕円形で，長径方向はN-90°-Eである。ほぼ円筒状に掘り込まれており，深さ130cmである。

覆土 湧水や崩落のため不明確であるが，ロームブロックや鹿沼バミスを含むことから，人為堆積と推定される。

遺物出土状況 土師器片8点（坏2，椀6），須恵器片1点（坏）が出土している。細片であり，破断面が摩滅していることから，流れ込んだものと考えられる。

所見 時期は，重複関係がなく出土土器も細片であるため不明である。



第296図 第115号井戸跡実測図



第116号井戸跡 (第297図)

位置 西部4区中央部のC3j8区で、標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 径1.03mの円形で、ほぼ円筒状に掘り込まれており、深さ144cmである。

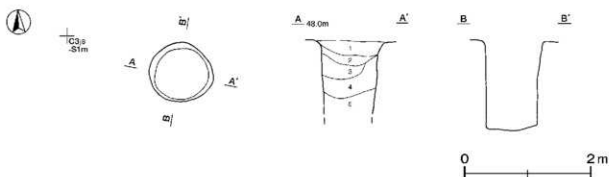
覆土 5層に分層される。ロームブロックを不規則に含み、人為堆積と考えられる。

土層解説

- |       |           |       |           |
|-------|-----------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子中量   | 4 黒褐色 | ロームブロック多量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量 | 5 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック中量 |       |           |

遺物出土状況 土師器片12点(襷), 須恵器片5点(坏2, 蓋1, 襷2)が出土している。細片であり、破断面が摩滅していることから、流れ込んだものと考えられる。

所見 時期は、重複関係がなく出土土器も細片であるため不明である。



第297図 第116号井戸跡実測図

第117号井戸跡 (第298図)

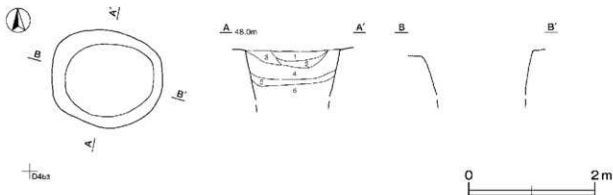
位置 西部4区中央部のD4a3区で、標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長径1.77m, 短径1.53mの楕円形で、長径方向はN-90°-Eである。ほぼ円筒状に掘り込まれており、湧水のため深さ88cmまでしか確認できなかった。

覆土 6層に分層される。ローム粒子や粘土ブロックを不規則に含み、人為堆積と考えられる。

土層解説

- |       |              |       |          |
|-------|--------------|-------|----------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・粘土粒子少量 | 4 黒褐色 | 粘土ブロック少量 |
| 2 暗褐色 | 粘土ブロック中量     | 5 灰褐色 | 粘土ブロック中量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量      | 6 黄褐色 | ローム粒子微量  |



第298図 第117号井戸跡実測図

遺物出土状況 土師器片12点(坏5, 梗7), 須恵器片1点(梗)が出土している。細片であり, 破断面が摩滅していることから, 流れ込んだものと考えられる。

所見 時期は, 重複関係がなく出土土器も細片であるため不明である。

#### 第118号井戸跡(第299図)

位置 西部4区中央部のC4j2区で, 標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第77号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.21m, 短径1.05mの楕円形で, 長径方向はN-0°である。深さ118cmまでは, ほぼ漏斗状で, それ以下は円筒状に掘り込まれており, 深さ174cmである。

覆土 4層に分層される。湧水や崩落のため4層以下の記録が困難であった。ロームブロックや鹿沼バミスを多く含むことから, 人為堆積と考えられる。

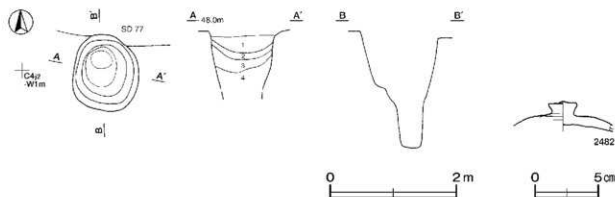
土層解説

1 黒褐色 ローム粒子少量  
2 黒褐色 ローム粒子多量

3 暗褐色 鹿沼バミスブロック多量  
4 暗褐色 ロームブロック多量

遺物出土状況 土師器片12点(坏6, 梗6), 須恵器片11点(坏1, 高台付坏1, 蓋1, 梗8)が出土している。ほとんどが細片であり, 破断面が摩滅していることから, 流れ込んだものと考えられる。2482は覆土中から出土している。

所見 時期は, 重複関係にある溝跡の時期が不明で, 出土土器も細片であるため不明である。



第299図 第118号井戸跡・出土遺物実測図

#### 第118号井戸跡出土遺物観察表(第299図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
2482	須恵器	蓋	-	(2.4)	-	石英・長石	灰	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土中	10%

#### 第119号井戸跡(第300図)

位置 西部4区中央部のC4e4区で, 標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第387号住居跡, 第3800号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径2.00m、短径1.18mの不定形で、長径方向はN-36°-Wである。ほぼ円筒状に深さ128cmまで掘り込まれ、それ以下は、漏斗状に掘り込まれており、湧水のため、深さは164cmまでしか確認できなかった。

覆土 3層に分層される。焼土ブロックや灰を含む層が確認されていることから、人為堆積と考えられる。

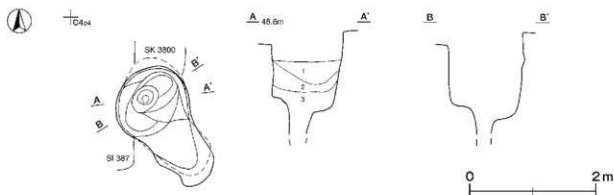
土層解説

1 黒 色 焼土ブロック・灰多量  
2 黒 褐色 ローム粒子中量

3 黒 褐色 ローム粒子多量

遺物出土状況 須恵器片2点(高台付坏)が出土している。細片であり、破断面が摩滅していることから、流れ込んだものと考えられる。

所見 時期は、出土土器が細片であるため不明である。



第300図 第119号井戸跡実測図

#### 第123号井戸跡(第301図)

位置 西部4区中央部のC3b9区で、標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 径1.54mの円形で、ほぼ円筒状に掘り込まれており、湧水のため深さは90cmまでしか確認できなかった。

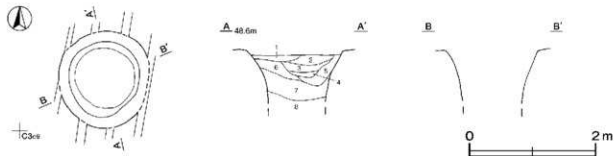
覆土 8層に分層される。ロームブロックや焼土粒子を不規則に含み、人為堆積と考えられる。

土層解説

1 黒 褐色 ロームブロック微量  
2 黒 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量  
3 黒 褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量  
4 黒 褐色 ローム粒子少量

5 黒 褐色 ローム粒子微量  
6 黒 褐色 ローム粒子・焼土粒子微量  
7 黒 褐色 ロームブロック少量  
8 褐色 ローム粒子中量

所見 時期は、重複関係がなく出土土器がないため不明である。



第301図 第123号井戸跡実測図

第128号井戸跡 (SK3726) (第302図)

位置 西部4区中央部のD3j8区で、標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第364・372号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径2.30m、短径1.96mの楕円形で、長径方向はN-54°-Eである。漏斗状に掘り込まれており、湧水のため深さ128cmまでしか確認できなかった。

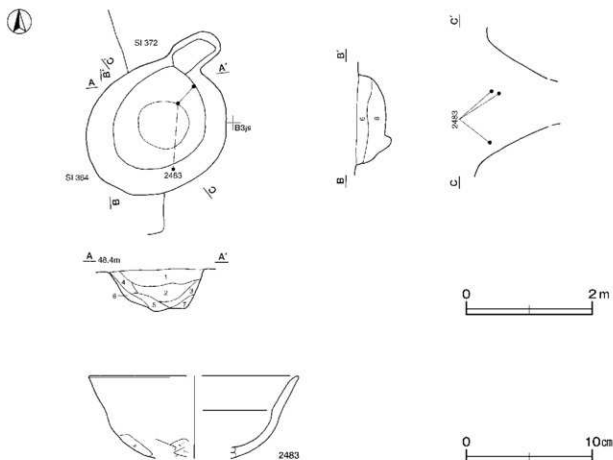
覆土 8層に分層される。ロームブロックや焼土粒子を不規則に含み、人為堆積と考えられる。

土層解説

- |       |                  |       |                    |
|-------|------------------|-------|--------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量   | 5 黒褐色 | ロームブロック中量          |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 6 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子少量          | 7 黒褐色 | ロームブロック少量          |
| 4 黒褐色 | ロームブロック微量        | 8 黒褐色 | ローム粒子中量            |

遺物出土状況 弥生土器片1点、土師器片29点(坏12, 甕17), 須恵器片1点(甕)が出土している。細片であり、破断面が摩滅していることから、流れ込んだものと考えられる。2483は覆土上層から出土している。

所見 時期は、重複関係から平安時代以降と考えられるが、詳細は不明である。



第302図 第128号井戸跡・出土遺物実測図

第128号井戸跡出土遺物観察表 (第302図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
2483	土師器	坏	[16.5] (6.6)	-	-	石灰・赤色粒子	赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り	覆土上層	50% PL75

### 第130号井戸跡（第303図）

位置 西部3区西部のB1b5区で、標高47mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長径1.25m、短径0.95mの楕円形で、長径方向はN-23°-Eである。ほぼ円筒状に掘り込まれており、湧水のため深さ161cmまでしか確認できなかった。

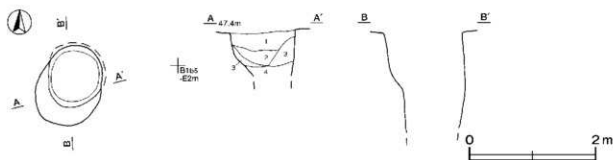
覆土 4層に分層される。粘土ブロックや焼土粒子を不規則に含み、人為堆積と考えられる。

土層解説

- |                       |              |
|-----------------------|--------------|
| 1 黒褐色 粘土ブロック中量、焼土粒子微量 | 3 黒褐色 焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 粘土ブロック少量、焼土粒子微量 | 4 黒褐色 粘土粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片7点（鏝）、鉄製品1点（不明）が出土している。細片であり、破断面が摩滅していることから、流れ込んだものと考えられる。

所見 時期は、重複関係がなく出土土器も細片であるため不明である。



第303図 第130号井戸跡実測図

表13 その他の時代の井戸跡一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模		断面形	覆土	出土遺物	備考
				長径(軸) × 短径(軸) (m)	深さ(cm)				
93	A 1 j5	N-0°	円形	1.09 × 1.03	(132)	円筒状	人為	弥生土器片 土師器片	
94	A 1 f5	N-0°	円形	1.01 × [1.00]	(108)	円筒状	人為	弥生土器片 土師器片	
96	B 2 g0	N-0°	円形	1.45 × 1.40	(157)	円筒状	自然	土師器片 須恵器片	
99	C 4 a4	N-0°	円形	1.70 × 1.64	(118)	円筒状	人為	土師器片 須恵器片 鉄製品	
100	C 5 j9	N-80°-E	楕円形	1.40 × 1.15	(84)	円筒状	自然	土師器片 須恵器片	
107	C 5 e1	-	[楕円形]	4.69 × (2.57)	(196)	漏斗状	人為	縄文土器片 弥生土器片 土師器片 須恵器片 陶器片	
109	C 3 g8	N-50°-E	楕円形	1.05 × 0.90	(117)	円筒状	人為	土師器片 須恵器片	
111	C 3 h8	N-0°	楕円形	3.49 × 2.52	112	円筒状	人為	弥生土器片 土師器片 須恵器片 陶器片	
112	C 4 i2	N-0°	円形	1.50 × 1.42	132	漏斗状	人為	弥生土器片 土師器片 須恵器片 陶器片	
115	C 3 i8	N-90°-E	楕円形	1.19 × 1.05	130	円筒状	人為	土師器片 須恵器片	
116	C 3 j8	N-0°	円形	1.03 × 0.95	144	円筒状	人為	土師器片 須恵器片	
117	D 4 a3	N-90°-E	楕円形	1.77 × 1.53	(88)	円筒状	人為	土師器片 須恵器片	
118	C 4 j2	N-0°	楕円形	1.21 × 1.05	174	漏斗状	人為	土師器片 須恵器片	
119	C 4 e4	N-36°-W	不定形	2.00 × 1.18	(164)	漏斗状	人為	須恵器片	
123	C 3 b9	N-0°	円形	1.54 × 1.42	(90)	円筒状	人為		
128	D 3 j8	N-54°-E	楕円形	2.30 × 1.96	(128)	漏斗状	人為	弥生土器片 土師器片 須恵器片	
130	B 1 b5	N-23°-E	楕円形	1.25 × 0.95	(161)	円筒状	人為	土師器片 鉄製品	

(5) 土墳墓

第21号土墳墓 (SK3610) (第304図)

位置 西部3区西部のA1e5区で、標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第304号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸1.20m、短軸0.73mの長方形で、長軸方向はN-18°-Eである。深さは30cmで、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 2層に分層される。ローム粒子が含まれており、人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量                      2 褐色 ローム粒子少量

遺物出土状況 弥生土器片1点、土師器片10点(坏3、甕7)が出土しており、埋め戻しの際の混入と考えられる。底面から頭蓋骨、上肢骨、大臼歯2本が出土している。

所見 時期は、出土土器が細片であるため、不明である。



第304図 第21号土墳墓実測図

(6) 土坑

時期不明の土坑が358基確認されている。以下、6基の土坑について記載し、それ以外の土坑については、実測図と土層解説を記載する。

第3661号土坑 (第305図)

位置 西部3区東部のZ2j4区で、標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第318号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 東側半分が調査区域外へ延びているため、長径1.06m、短径0.47mだけが確認され、平面形は円形もしくは楕円形と推定され、長径方向はN-0°である。深さは43cmで、底面は平坦であり、壁は外傾して立ち上がっている。

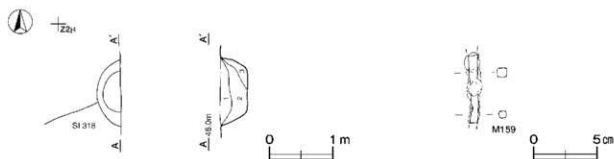
覆土 3層に分層される。ロームブロックが含まれており、人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量                      3 黒褐色 ロームブロック微量  
2 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量

遺物出土状況 土師器片5点(甕)が出土している。M159は覆土中から出土している。

所見 時期は、古墳時代の住居跡を掘り込んでいるが、詳細は不明である。



第305図 第3661号土坑・出土遺物実測図

第3661号土坑出土遺物観察表(第305図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M159	釘	(5.4)	0.9	0.5-0.7	10.6	鉄	断面方形 両端部欠損	覆土中	PL90

第3694号土坑(第306図)

位置 西部3区西部のA1c0区で、標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第334号住居跡を掘り込み、第3693号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸2.34m、短軸0.88mの長方形と推定され、長軸方向はN-90°-Eである。深さは18cmで、底面は平坦であり、壁は外傾して立ち上がっている。

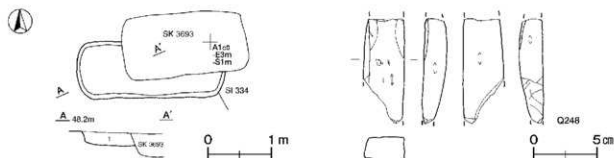
覆土 単一層である。ロームブロックが多量に含まれており、人為堆積と考えられる。

土層解説

1 構 色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片14点(襷)、石器1点(砥石)が出土している。また、流れ込んだ弥生土器片5点も出土している。Q248は覆土中から出土している。

所見 時期は、古墳時代の住居跡を掘り込んでいるが、詳細は不明である。



第306図 第3694号土坑・出土遺物実測図

第3694号土坑出土遺物観察表(第306図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q248	砥石	(8.3)	3.3	1.8	(66.3)	凝灰岩	砥面4面	覆土中	

第3712号土坑（第307図）

位置 西部4区西部のB 3 i 1 区で、標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第354号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.50m、短径1.31mの不整形円形で、長径方向はN-36°-Wである。深さは34cmで、底面は平坦であり、壁は緩やかに立ち上がっている。

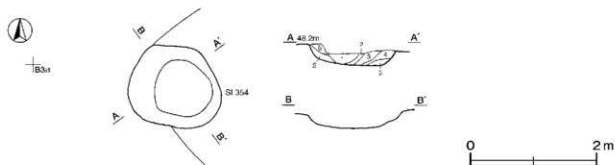
覆土 6層に分層される。ロームブロックが含まれており、人為堆積と考えられる。

土層解説

- |                        |                 |
|------------------------|-----------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック少量        | 4 黒褐色 ロームブロック微量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子少量          | 5 黒褐色 ローム粒子中量   |
| 3 黒褐色 ロームブロック中量、焼土粒子微量 | 6 黒褐色 ローム粒子微量   |

遺物出土状況 弥生土器片1点、土師器片10点（襷）、須恵器片1点（襷）が出土しており、埋め戻しの際の混入と考えられる。覆土上層から馬骨・馬歯が出土している。

所見 時期は、奈良時代の住居跡を掘り込んでいるが、詳細は不明である。

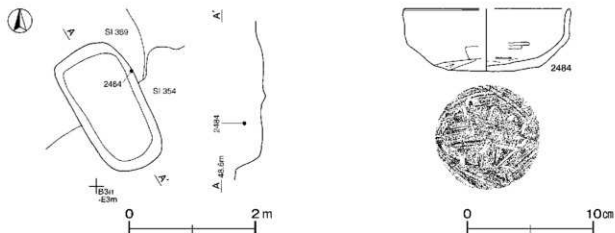


第307図 第3712号土坑実測図

第3713号土坑（第308図）

位置 西部4区西部のB 3 h 1 区で、標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第354・369号住居跡を掘り込んでいる。



第308図 第3713号土坑・出土遺物実測図



規模と形状 長軸2.10m、短軸1.13mだけ確認された隅丸長方形で、長軸方向はN-33°-Wである。深さは40cmで底面は平坦であり、壁は外傾して立ち上がっている。

遺物出土状況 土師器片17点（坏）が出土している。また流れ込んだ弥生土器1点も出土している。2484は覆土中層から出土している。

所見 時期は、古墳時代の住居跡を掘り込んでいるが、詳細は不明である。

第3713号土坑出土遺物観察表（第308図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
2484	土師器	坏	13.0	5.0	8.4	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部内面ヘラナデ 後ヘラ磨き 底部外面ヘラ削り後ナデ	覆土中層	60% PL74

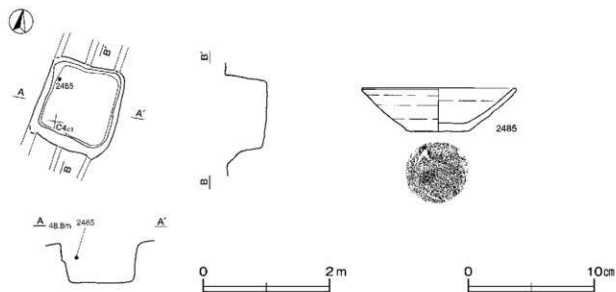
第3736号土坑（第309図）

位置 西部4区中央部のC4b1区で、標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸1.36m、短軸1.31mの方形で、長軸方向はN-10°-Eである。深さは65cmで、底面は平坦であり、壁は直立している。

遺物出土状況 土師器片33点（坏3、横30）、土師質土器1点（皿）が出土している。また流れ込んだ陶器片1点も出土している。2485は覆土中層から出土している。

所見 時期は、出土土器から中世以降と考えられるが、詳細は不明である。



第309図 第3736号土坑・出土遺物実測図

第3736号土坑出土遺物観察表 (第309図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
2485	土製甕土器	甕	12.0	3.5	5.1	石灰・赤色粒子	灰黄緑	普通	口クロナデ 底部回転糸切り	覆土中層	60%

第3738号土坑 (第310図)

位置 西部4区西部のB3j5区で、標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第357・367号住居跡を掘り込み、第3748号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸1.34m、短軸1.10mの不整形長方形で、長軸方向はN-77°-Wである。深さは44-50cmで、底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 2層に分層される。ロームブロックが多量に含まれており、人為堆積と考えられる。

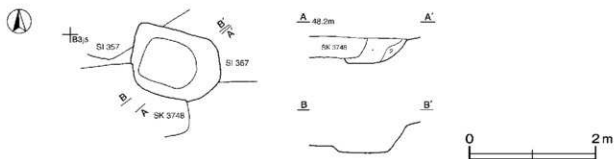
土層解説

1 黒 褐色 ローム粒子少量

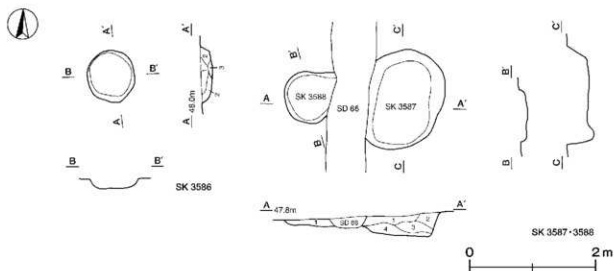
2 暗 褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片6点(坏3, 椀3)が出土している。また、覆土下層から馬歯が出土している。

所見 時期は、出土土器が細片であり、不明である。

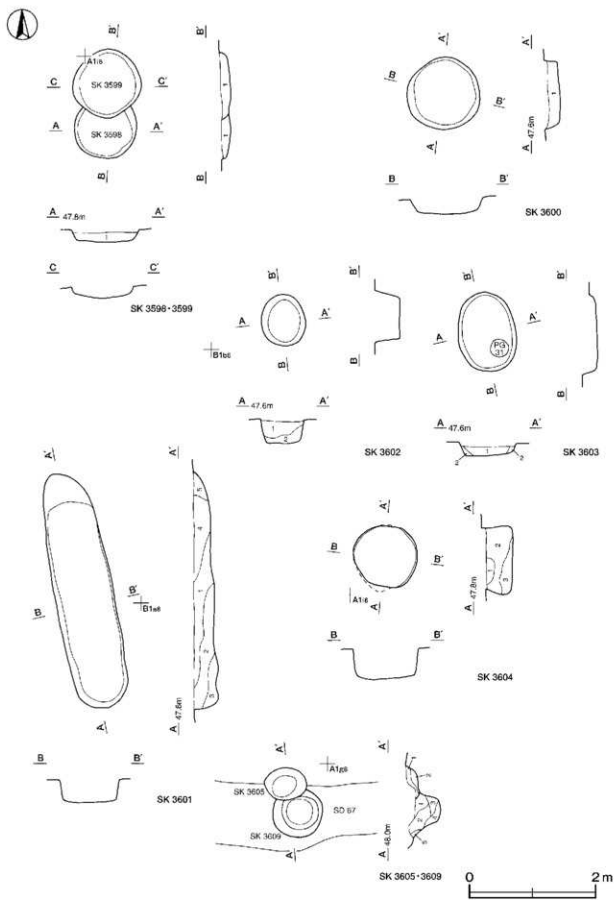


第310図 第3738号土坑実測図

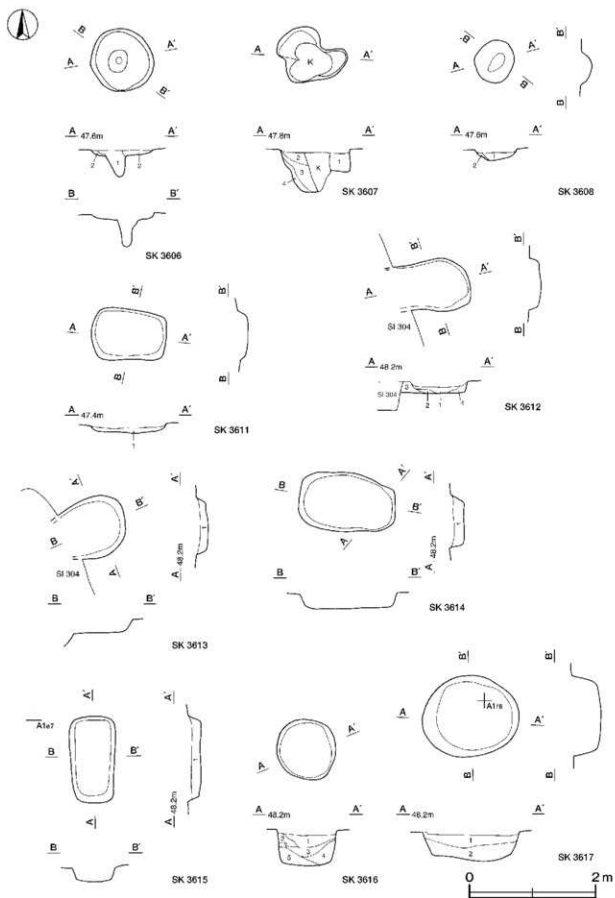


第311図 その他の土坑実測図1)

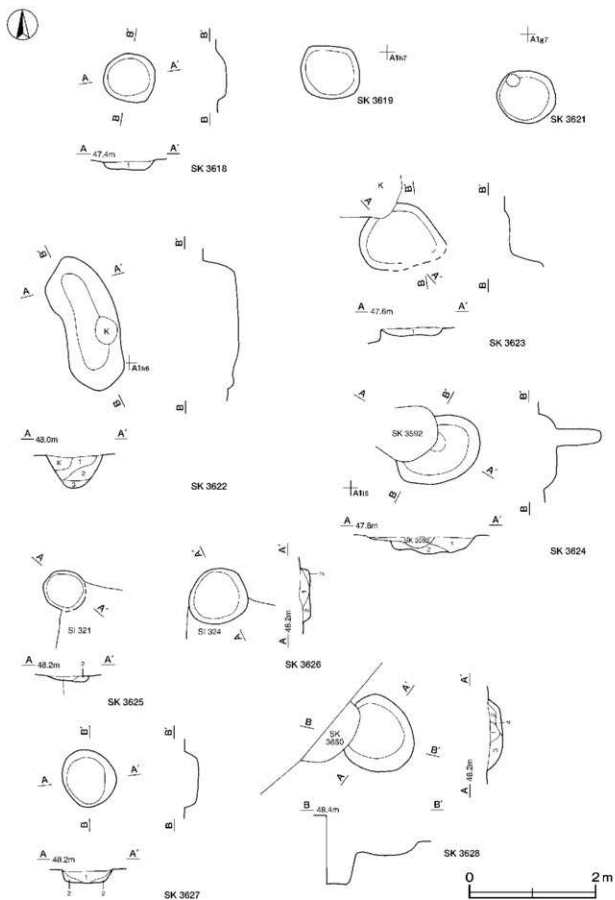




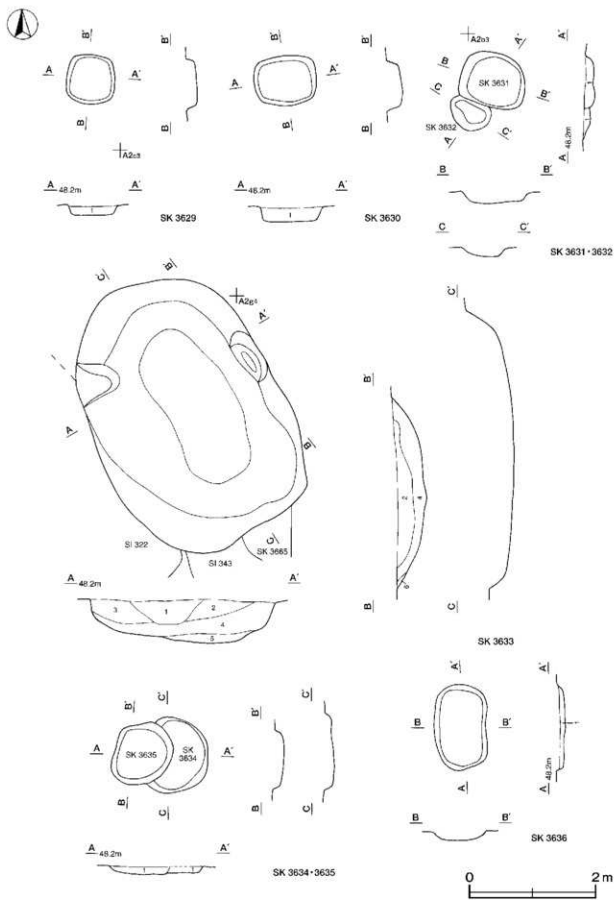
第313図 その他の土坑実測図(3)



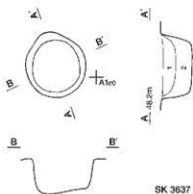
第314図 その他の土坑実測図(4)



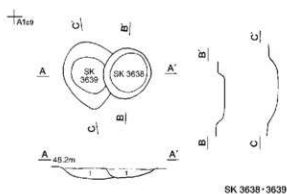
第315図 その他の土坑実測図(5)



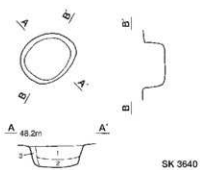
第316図 その他の土坑実測図(6)



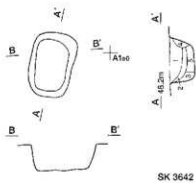
SK 3637



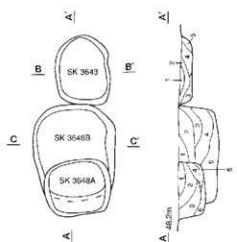
SK 3638・3639



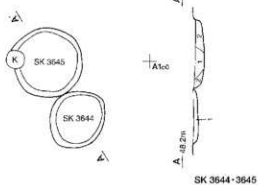
SK 3640



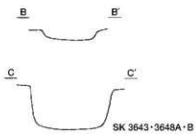
SK 3642



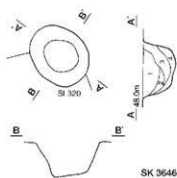
SK 3643



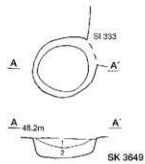
SK 3644・3645



SK 3643・3648A・B



SK 3646

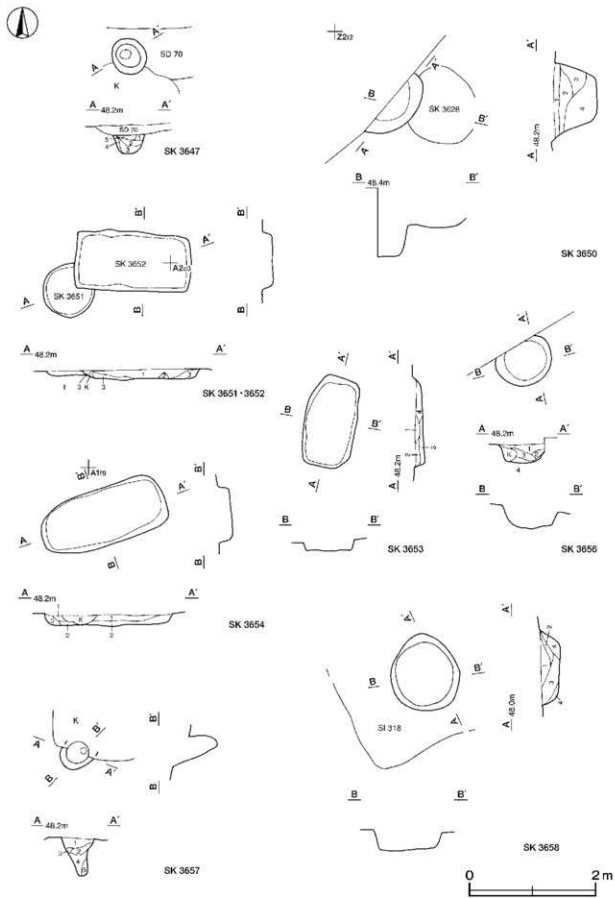


SK 3649

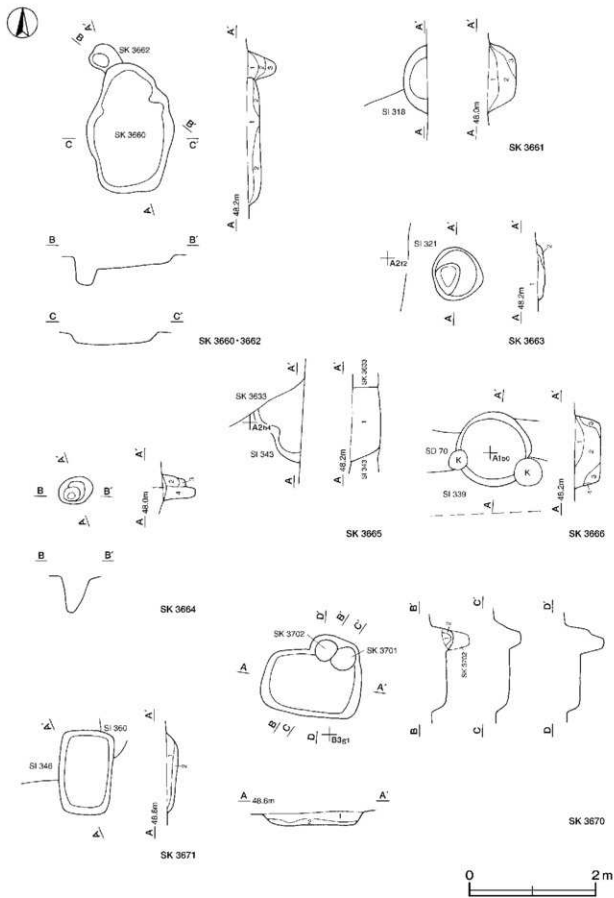


第317図 その他の土坑実測図(7)

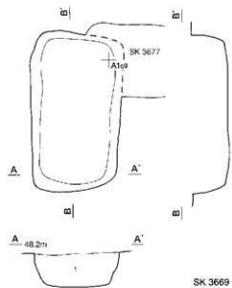




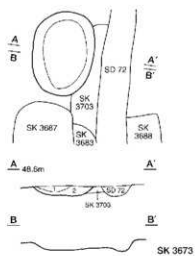
第318図 その他の土坑実測図(8)



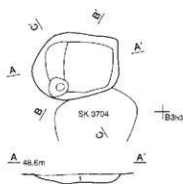
第319図 その他の土坑実測図⑨



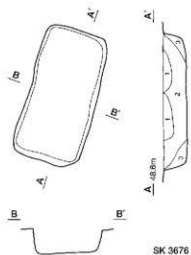
SK 3669



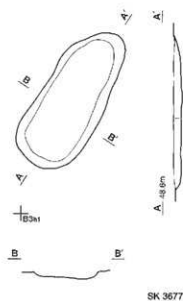
SK 3673



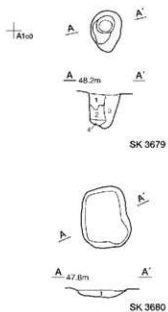
SK 3675



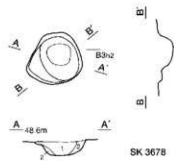
SK 3676



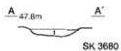
SK 3677



SK 3679



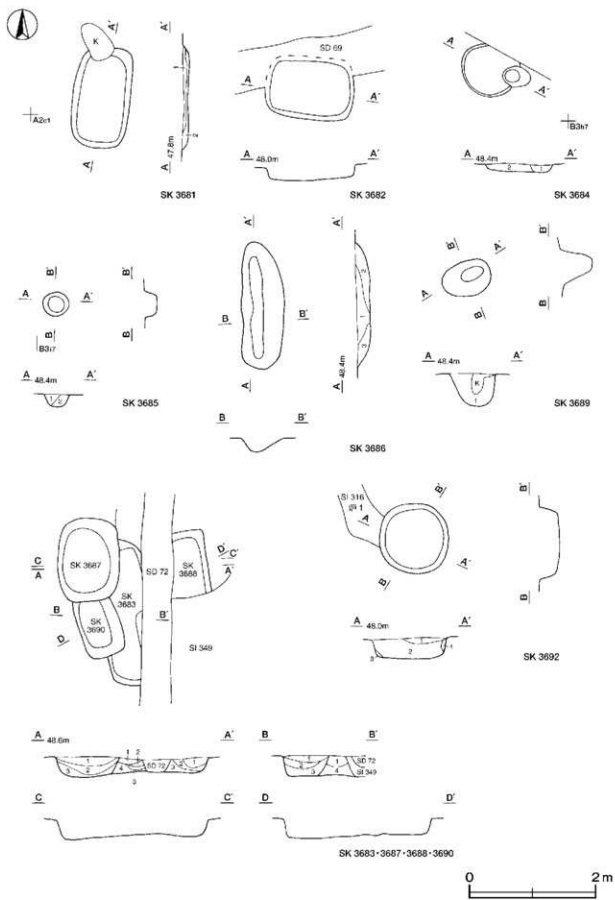
SK 3678



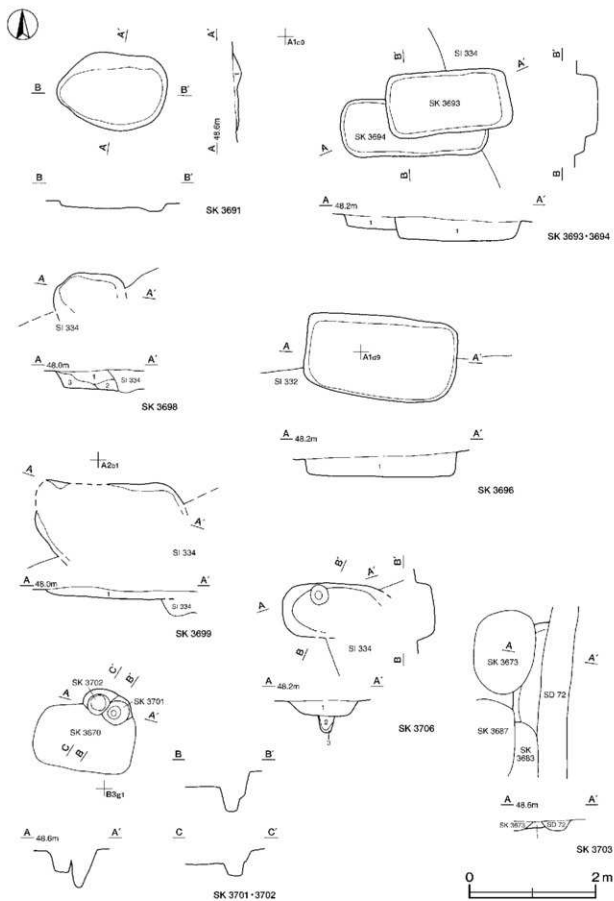
SK 3680



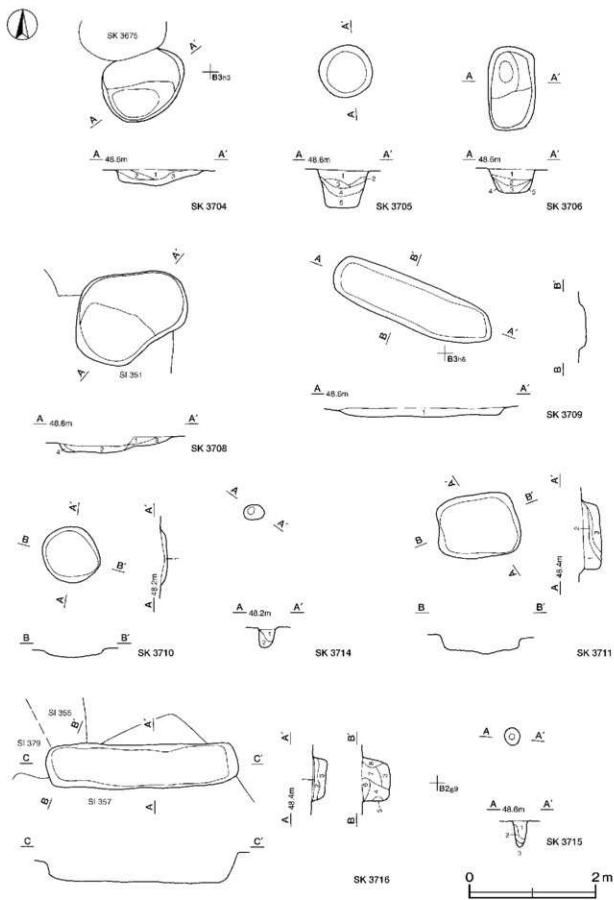
第320図 その他の土坑実測図<sup>10)</sup>



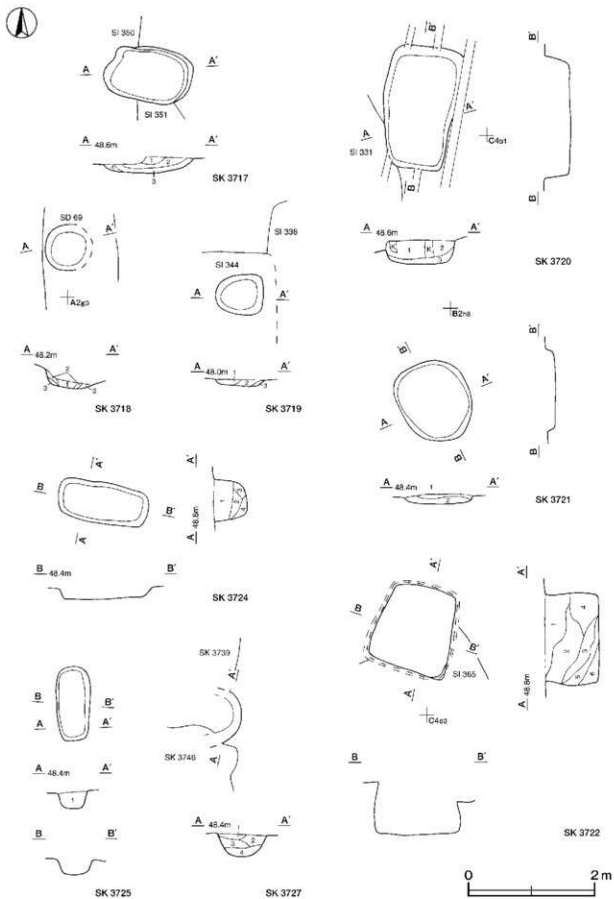
第321図 その他の土坑実測図(11)



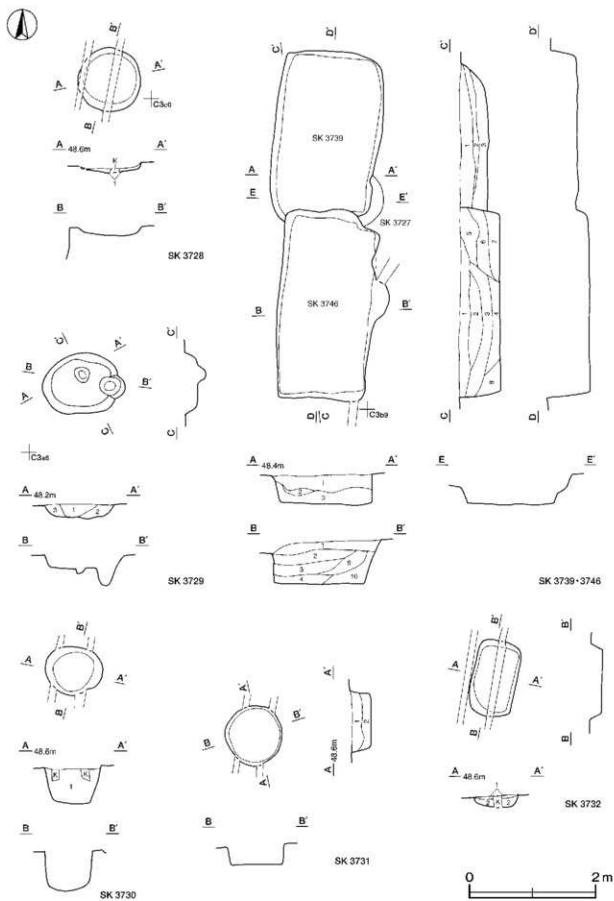
第322図 その他の土坑実測図<sup>1)</sup>2)



第323図 その他の土坑実測図<sup>1,3)</sup>

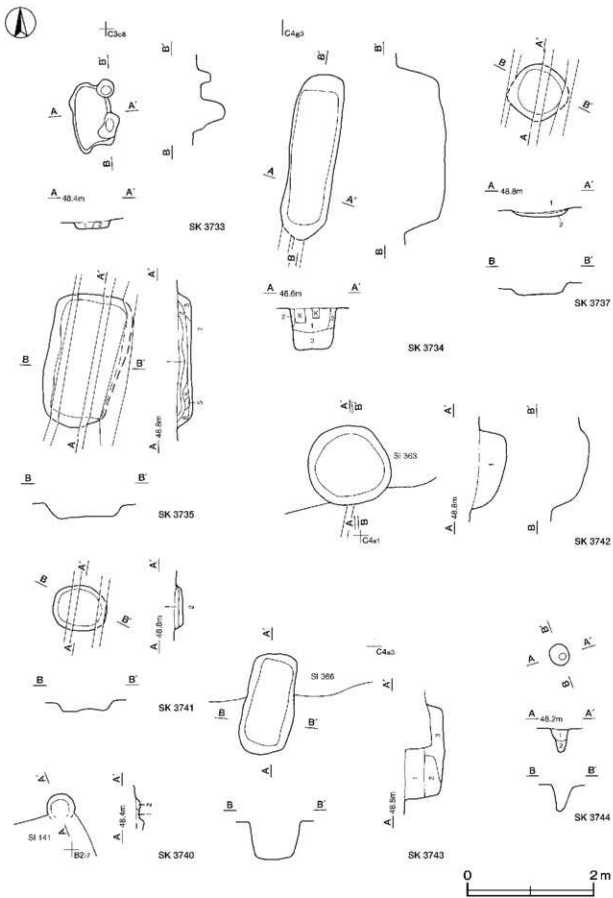


第324図 その他の土坑実測図(14)

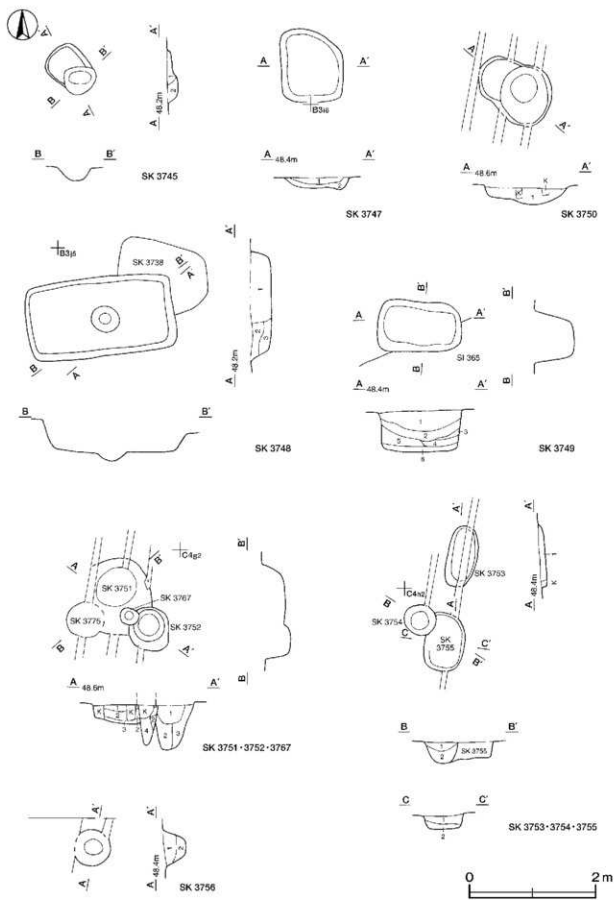


第325図 その他の土坑実測図(15)

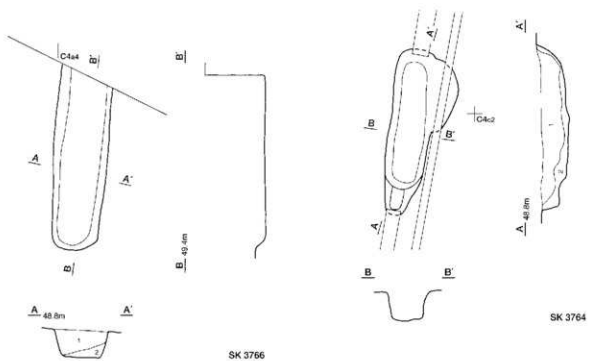
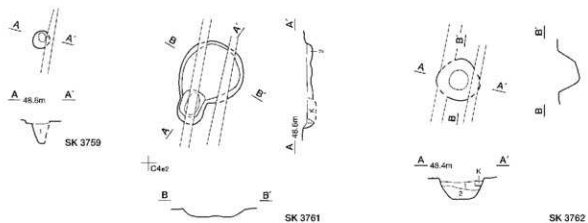
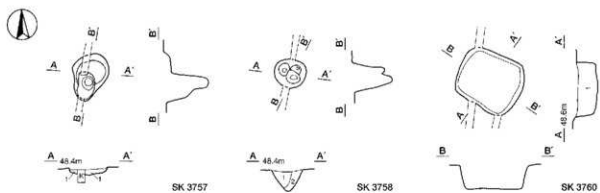




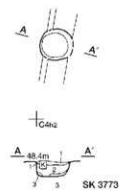
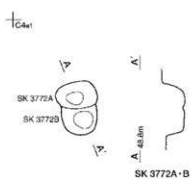
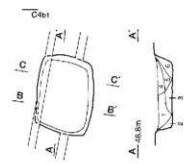
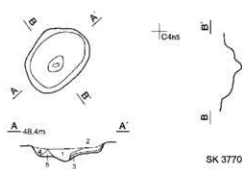
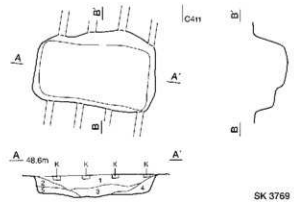
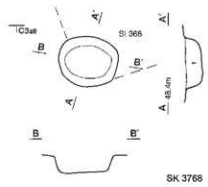
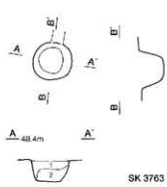
第326図 その他の土坑実測図(16)



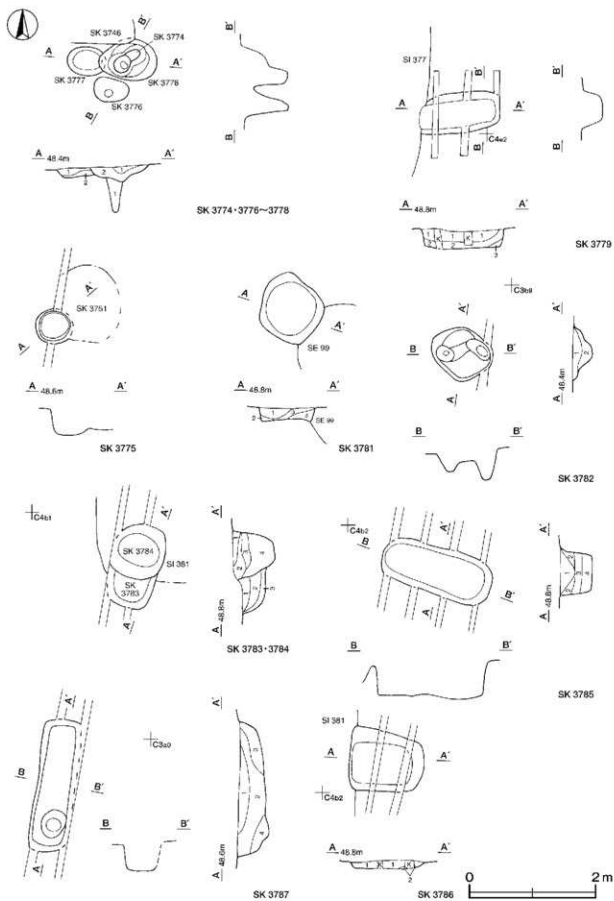
第327図 その他の土坑実測図(17)



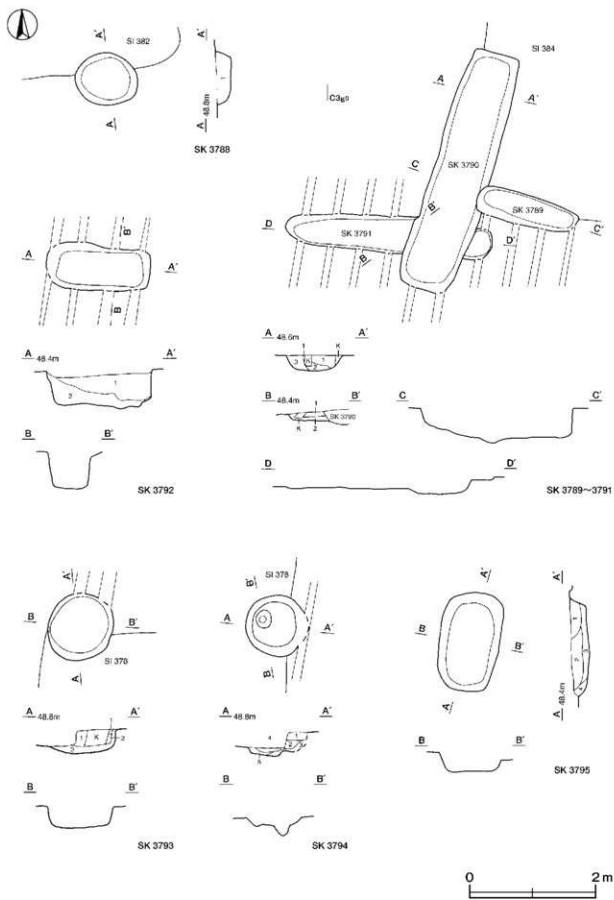
第328図 その他の土坑実測図(1)(2)



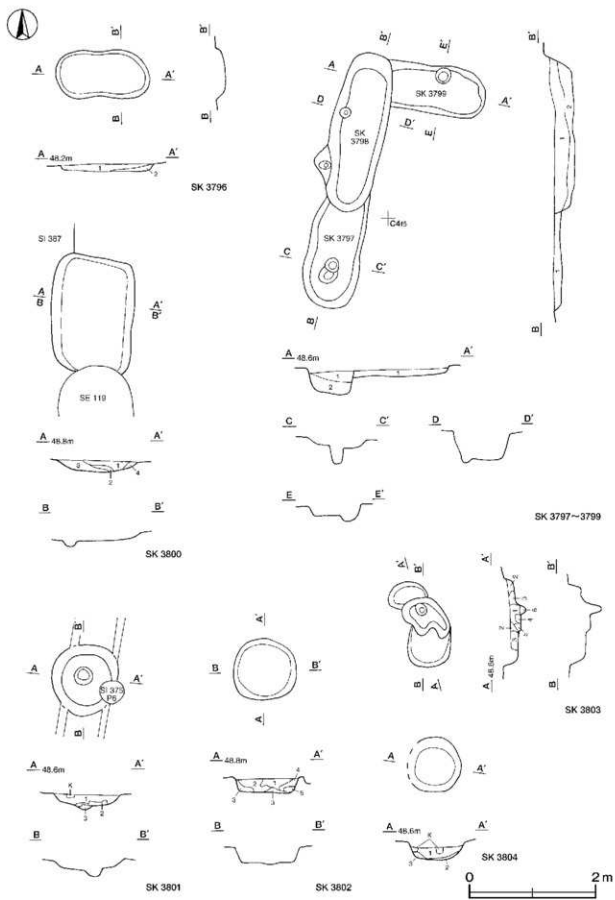
第329図 その他の土坑実測図<sup>19)</sup>



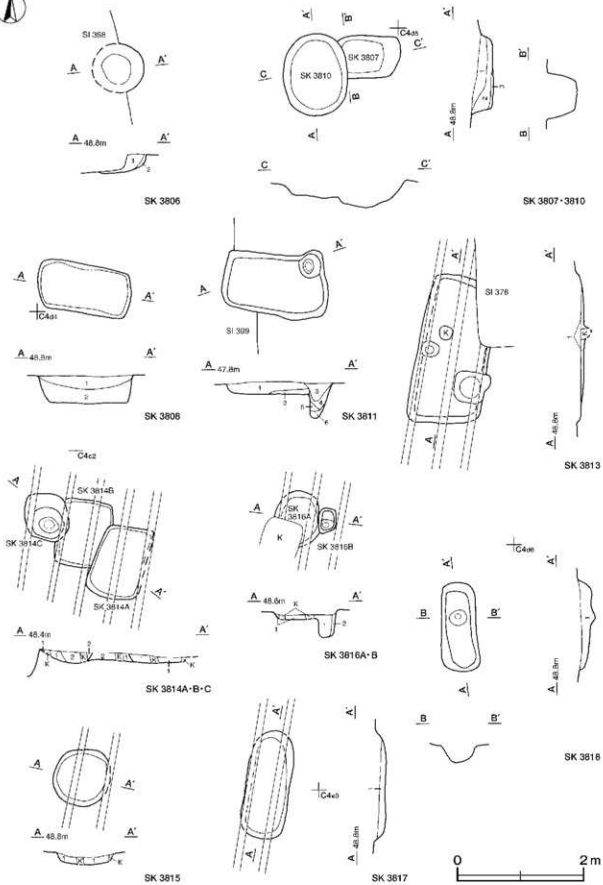
第330図 その他の土坑実測図(2)



第331図 その他の土坑実測図(2)

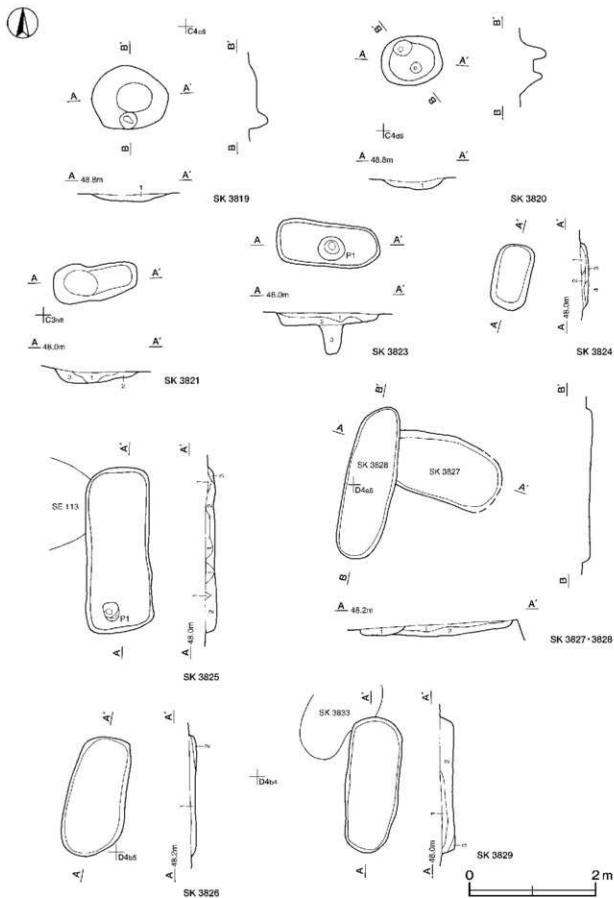


第332図 その他の土坑実測図(2)

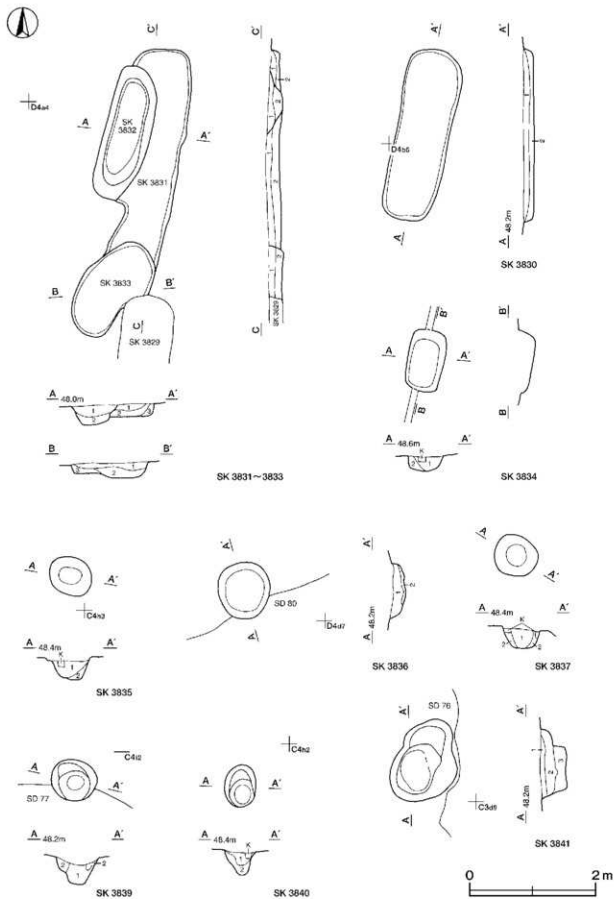


第333図 その他の土坑実測図(2)

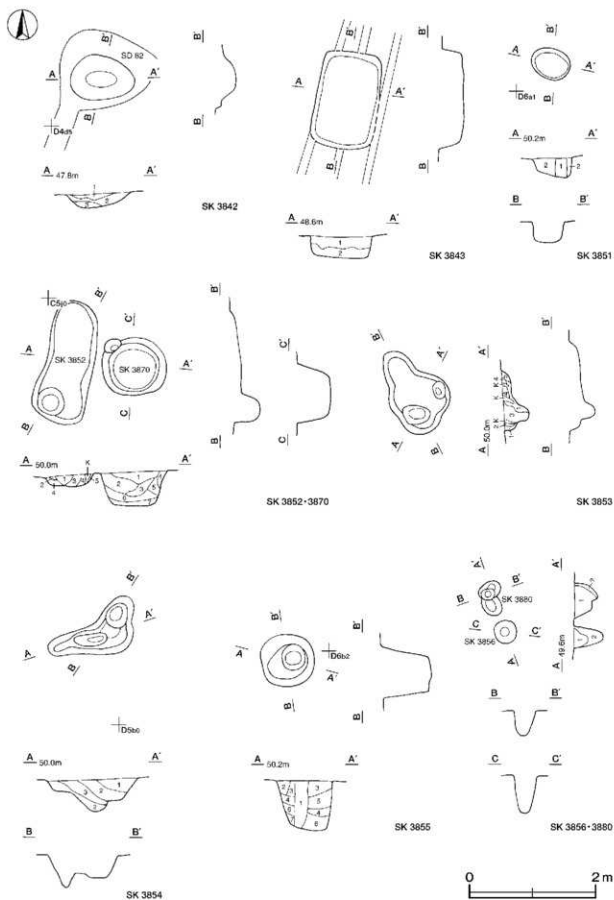




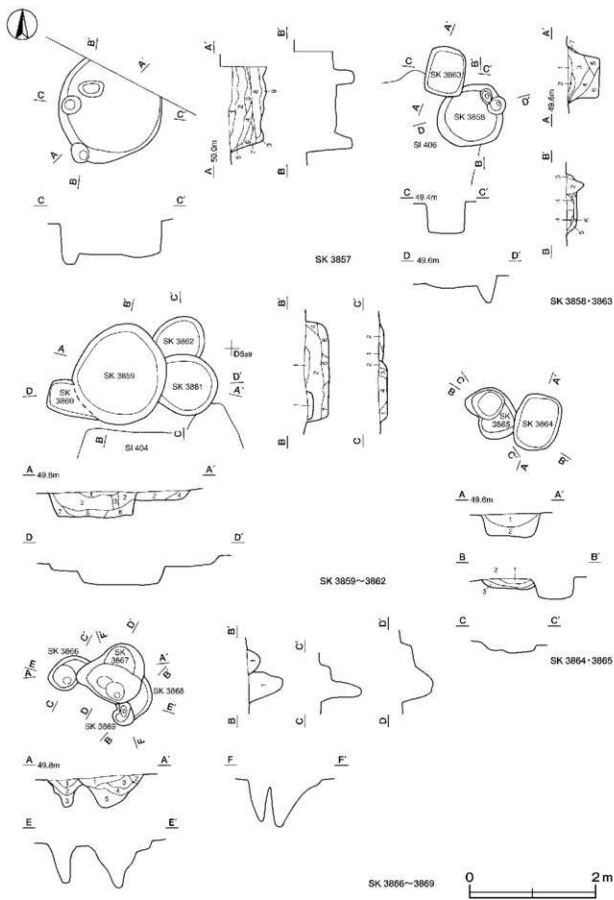
第334図 その他の土坑実測図(2)



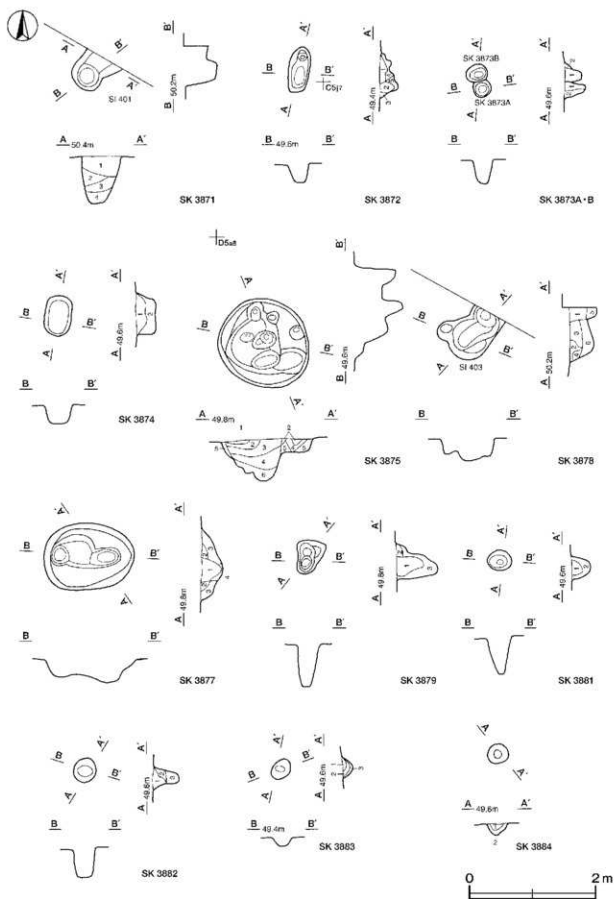
第335図 その他の土坑実測図(25)



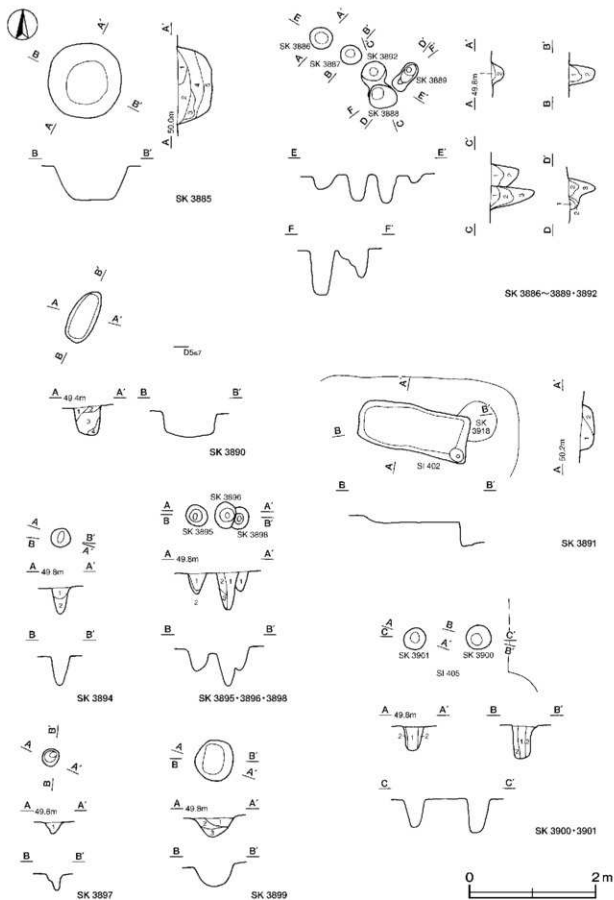
第336図 その他の土坑実測図(2)



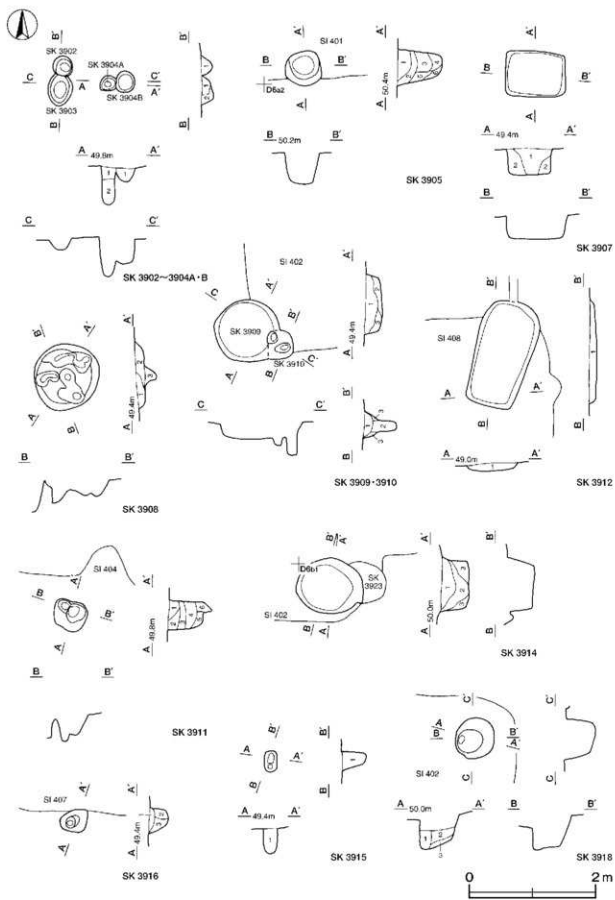
第337図 その他の土坑実測図<sup>27)</sup>



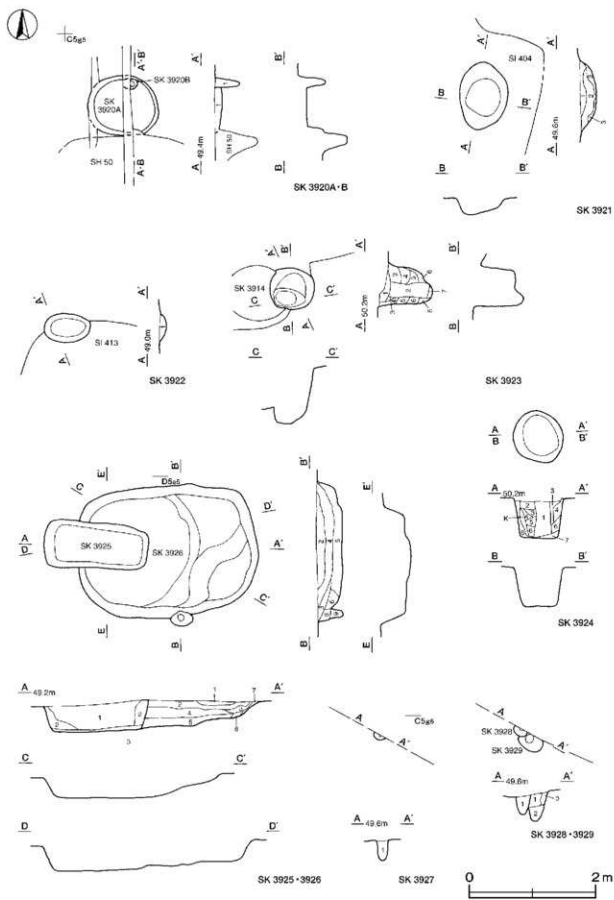
第338図 その他の土坑実測図(2)



第339図 その他の土坑実測図(29)

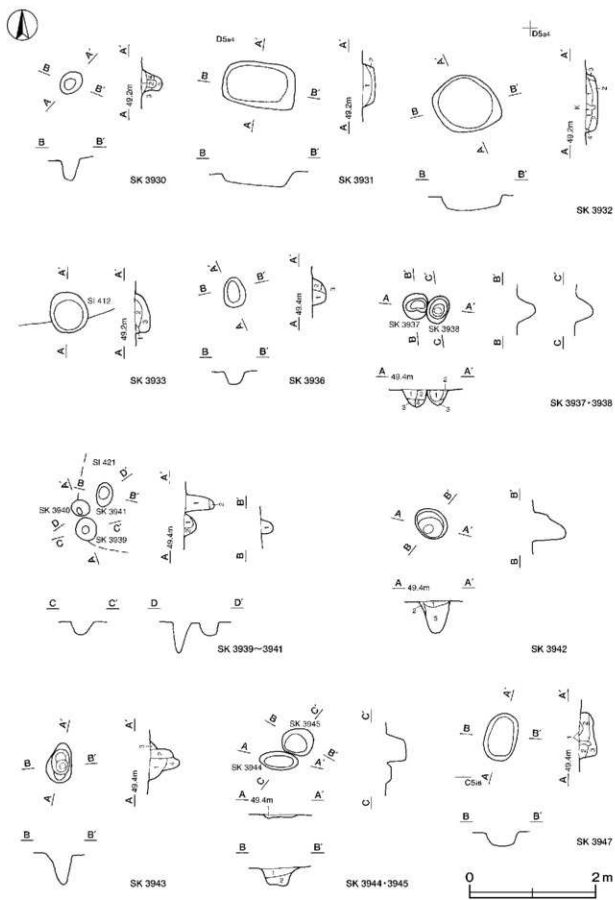


第340図 その他の土坑実測図(3)

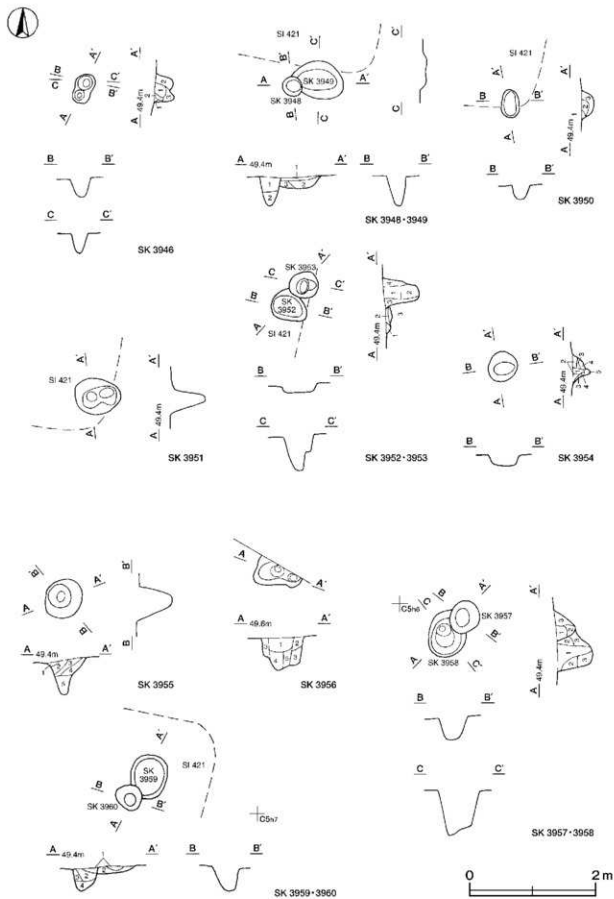


第341図 その他の土坑実測図(31)

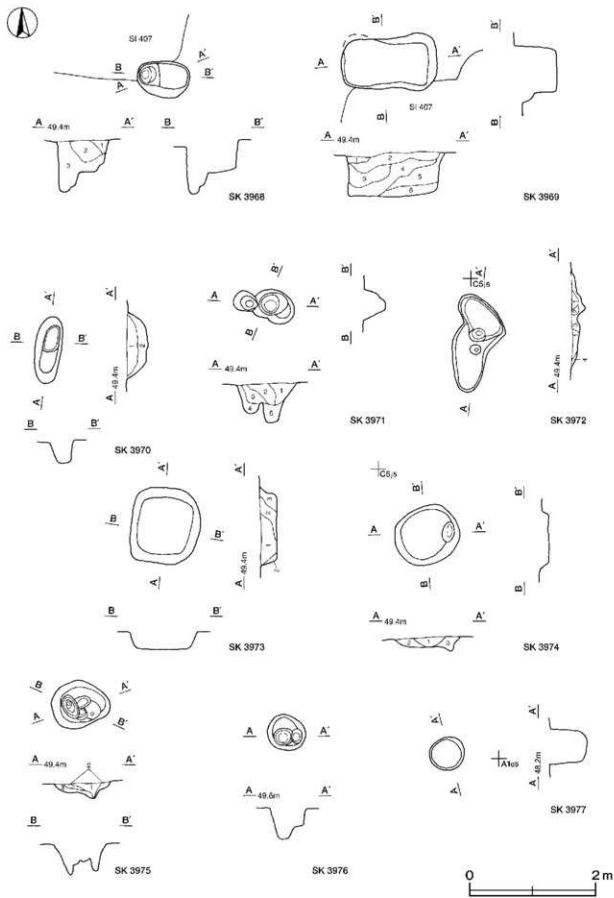




第342図 その他の土坑実測図<sup>32)</sup>



第343図 その他の土坑実測図(3)



第344図 その他の土坑実測図<sup>34)</sup>

第3586号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック少量
- 2 黒 褐色 ロームブロック中量
- 3 黒 褐色 ローム粒子少量

第3587号土坑土層解説

- 1 褐 色 ロームブロック少量
- 2 褐 色 ロームブロック中量
- 3 褐 色 ローム粒子中量
- 4 褐 色 ロームブロック多量

第3588号土坑土層解説

- 1 にぶい褐色 ロームブロック多量

第3589号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子微量
- 2 暗 褐色 ローム粒子微量
- 3 黒 褐色 ローム粒子中量
- 4 黒 褐色 ローム粒子多量
- 5 暗 褐色 ローム粒子少量

第3590号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック少量

第3591号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子少量

第3592号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック中量

第3593号土坑土層解説

- 1 褐 色 ロームブロック少量
- 2 暗 褐色 ロームブロック中量
- 3 暗 褐色 ロームブロック多量

第3594号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック少量
- 2 暗 褐色 ロームブロック微量
- 3 暗 褐色 ローム粒子少量

第3595号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック中量

第3596号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック中量

第3597号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック微量
- 2 褐 色 ロームブロック中量

第3598号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック中量

第3599号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック中量

第3600号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック少量

第3601号土坑土層解説

- 1 にぶい褐色 ローム粒子微量
- 2 にぶい褐色 ローム粒子中量
- 3 褐 色 ローム粒子微量
- 4 褐 色 ローム粒子少量
- 5 褐 色 ロームブロック少量

第3602号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック少量
- 2 極暗褐色 ロームブロック中量

第3603号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量
- 2 褐 色 ロームブロック中量

第3604号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック多量
- 2 暗 褐色 ロームブロック中量
- 3 暗 褐色 ロームブロック少量

第3605号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ローム粒子微量
- 2 暗 褐色 ローム粒子少量

第3606号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子中量
- 2 褐 色 ロームブロック中量

第3607号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック多量
- 2 暗 褐色 ロームブロック中量
- 3 極暗褐色 ロームブロック少量
- 4 暗 褐色 ローム粒子中量

第3608号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック中量、焼土粒子少量
- 2 褐 色 ロームブロック少量

第3609号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子少量
- 2 黒 色 ローム粒子微量
- 3 暗 褐色 ロームブロック少量
- 4 暗 褐色 ローム粒子中量
- 5 褐 色 ローム粒子少量

第3611号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック多量

第3612号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子微量
- 2 黒 褐色 ロームブロック微量
- 3 黒 褐色 ローム粒子少量
- 4 極暗褐色 ローム粒子少量

第3613号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子少量

第3614号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子少量

第3615号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子少量

第3616号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子微量
- 2 極暗褐色 ローム粒子少量
- 3 極暗褐色 ロームブロック微量
- 4 極暗褐色 ロームブロック少量
- 5 極暗褐色 ロームブロック中量

第3617号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ローム粒子少量
- 2 暗 褐色 ロームブロック中量

第3618号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック中量

第3622号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック中量
- 2 極暗褐色 ロームブロック少量
- 3 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック微量

第3623号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子中量,炭化物微量

第3624号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック少量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック中量

第3625号土坑土層解説

- 1 褐 色 ロームブロック少量
- 2 褐 色 ロームブロック中量

第3626号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子微量
- 2 黒 褐 色 ローム粒子少量

第3627号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒 褐 色 ローム粒子少量,炭化粒子微量

第3628号土坑土層解説

- 1 黒 色 ローム粒子微量
- 2 黒 色 ローム粒子少量
- 3 黒 褐 色 ローム粒子微量
- 4 黒 褐 色 ロームブロック少量

第3629号土坑土層解説

- 1 極 暗 褐 色 ローム粒子少量

第3630号土坑土層解説

- 1 極 暗 褐 色 ローム粒子中量

第3631号土坑土層解説

- 1 極 暗 褐 色 ローム粒子少量

第3632号土坑土層解説

- 1 極 暗 褐 色 ローム粒子少量

第3633号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量
- 2 褐 色 ロームブロック中量
- 3 褐 色 ローム粒子少量
- 4 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 5 黒 褐 色 ローム粒子少量,鹿沼バミス粒子微量
- 6 黒 褐 色 ローム粒子少量,焼土粒子微量

第3634号土坑土層解説

- 1 極 暗 褐 色 ローム粒子少量

第3635号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・鹿沼バミス粒子微量

第3636号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子微量

第3637号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子微量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子中量,焼土粒子微量

第3638号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子微量

第3639号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 焼土粒子・炭化粒子微量

第3640号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック中量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 3 褐 色 ロームブロック中量

第3642号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子少量
- 2 黒 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 3 黒 褐 色 ローム粒子少量,焼土粒子微量
- 4 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 5 黒 褐 色 ローム粒子微量

第3643号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック中量
- 3 暗 褐 色 ローム粒子中量
- 4 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 5 褐 色 ロームブロック中量

第3644号土坑土層解説

- 1 褐 色 ロームブロック中量

第3645号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量

第3646号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子少量
- 2 黒 褐 色 ローム粒子少量,白色粒子微量
- 3 黒 褐 色 ローム粒子少量,焼土粒子微量
- 4 黒 褐 色 ローム粒子中量

第3647号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量
- 2 褐 色 ローム粒子少量
- 3 暗 褐 色 ローム粒子中量
- 4 暗 褐 色 ロームブロック中量
- 5 褐 色 ロームブロック中量

第3648号A土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック中量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 3 暗 褐 色 ローム粒子中量
- 4 暗 褐 色 ローム粒子少量
- 5 暗 褐 色 ローム粒子微量
- 6 褐 色 ロームブロック多量

第3648号B土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック多量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック中量
- 4 暗 褐 色 ローム粒子多量
- 5 褐 色 ロームブロック多量

第3649号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック微量
- 2 極 暗 褐 色 ロームブロック少量

第3650号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子微量
- 2 黒 褐 色 ローム粒子少量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック微量
- 4 極 暗 褐 色 ローム粒子少量

第3651号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック微量

第3652号土坑土層解説

- 1 黒 色 ローム粒子微量
- 2 黒 色 ローム粒子少量
- 3 黒 色 ロームブロック微量

## 第3653号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子中量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック中量
- 4 種 暗 褐 色 ロームブロック中量

## 第3654号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック中量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック多量
- 3 暗 褐 色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量

## 第3656号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 2 褐 色 ローム粒子中量
- 3 暗 褐 色 ローム粒子中量
- 4 褐 色 ロームブロック少量

## 第3657号土坑土層解説

- 1 種 暗 褐 色 ローム粒子中量, 焼土ブロック微量
- 2 種 暗 褐 色 ローム粒子微量
- 3 種 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 4 暗 褐 色 ローム粒子中量
- 5 種 暗 褐 色 ロームブロック中量

## 第3658号土坑土層解説

- 1 黒 色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 2 黒 色 ローム粒子微量
- 3 黒 色 ロームブロック少量
- 4 黒 色 ロームブロック微量

## 第3660号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック微量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

## 第3661号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子微量
- 2 黒 褐 色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 3 黒 褐 色 ロームブロック微量

## 第3662号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック微量
- 2 黒 褐 色 ローム粒子少量
- 3 種 暗 褐 色 ロームブロック微量

## 第3663号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子少量
- 2 種 暗 褐 色 ローム粒子中量

## 第3664号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック多量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 4 種 暗 褐 色 ローム粒子少量

## 第3665号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子・焼土粒子少量

## 第3666号土坑土層解説

- 1 種 暗 褐 色 ローム粒子少量
- 2 種 暗 褐 色 ローム粒子中量
- 3 種 暗 褐 色 ロームブロック中量
- 4 褐 色 ローム粒子少量

## 第3669号土坑土層解説

- 1 褐 色 ロームブロック多量

## 第3670号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子多量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子中量

## 第3671号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 2 黒 褐 色 ローム粒子・焼土粒子中量

## 第3673号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック少量

## 第3675号土坑土層解説

- 1 種 暗 褐 色 ローム粒子中量, 炭化物微量

## 第3676号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子多量
- 2 褐 色 ロームブロック少量
- 3 褐 色 ローム粒子少量

## 第3677号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子少量

## 第3678号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック微量
- 2 褐 色 ロームブロック少量

## 第3679号土坑土層解説

- 1 褐 色 ローム粒子中量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 3 褐 色 ロームブロック中量
- 4 褐 色 ロームブロック少量

## 第3680号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック中量

## 第3681号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック少量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック中量

## 第3683号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子少量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック微量
- 4 種 暗 褐 色 ローム粒子多量

## 第3684号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック微量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック少量

## 第3685号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子少量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量

## 第3686号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子少量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック微量

## 第3687号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子少量, 焼土ブロック微量
- 2 黒 色 ローム粒子少量
- 3 暗 褐 色 ローム粒子中量

## 第3688号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子少量, 焼土ブロック微量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 3 黒 褐 色 ローム粒子中量, 焼土粒子微量

## 第3689号土坑土層解説

- 1 褐 色 ローム粒子少量

第3690号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子少量
- 2 黒 褐色 ロームブロック少量
- 3 暗 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量

第3691号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック・焼土粒子少量

第3692号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ローム粒子少量
- 2 暗 褐色 ローム粒子中量, 炭化物少量, 焼土粒子微量
- 3 暗 褐色 ローム粒子中量
- 4 褐色 ロームブロック多量

第3693号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ローム粒子中量

第3694号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック中量

第3696号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック少量

第3698号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック中量
- 2 暗 褐色 ロームブロック少量
- 3 暗 褐色 ローム粒子少量

第3699号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック中量

第3700号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック中量
- 2 暗 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 暗 暗褐色 ロームブロック中量

第3703号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック微量

第3704号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 2 黒 褐色 ロームブロック少量
- 3 黒 褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

第3705号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子・焼土粒子・砂粒微量
- 2 黒 褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・砂粒微量
- 3 黒 褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量
- 4 黒 褐色 ロームブロック少量
- 5 褐色 ローム粒子中量

第3706号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 暗 褐色 ローム粒子・焼土粒子・白色粒子微量
- 3 暗 褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・白色粒子微量
- 4 暗 褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 5 暗 褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量

第3708号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 黒 褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 3 黒 褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 4 黒 褐色 ローム粒子少量

第3709号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量

第3710号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子少量

第3711号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック少量
- 2 黒 褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 黒 褐色 ローム粒子少量

第3714号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子中量

第3715号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量
- 2 黒 褐色 ローム粒子微量
- 3 暗 褐色 ローム粒子微量

第3716号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 黒 褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 3 暗 褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 黒 褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック・白色粒子微量
- 5 黒 褐色 ローム粒子少量, 白色粒子微量
- 6 黒 褐色 焼土ブロック・ローム粒子・白色粒子微量
- 7 黒 褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 8 黒 褐色 ローム粒子少量

第3717号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒 褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 黒 褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 4 黒 褐色 ロームブロック少量, 白色粒子微量

第3718号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒 褐色 炭化ブロック・ローム粒子微量
- 3 黒 褐色 ローム粒子少量

第3719号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 黒 褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 3 暗 褐色 ロームブロック・焼土粒子微量

第3720号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 黒 褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 3 黒 褐色 ロームブロック微量

第3721号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 暗 暗褐色 ロームブロック少量

第3722号土坑土層解説

- 1 暗 暗褐色 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 黒 褐色 ロームブロック中量
- 3 黒 褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 黒 褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 5 黒 褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 6 黒 褐色 焼土ブロック少量

第3724号土坑土層解説

- 1 暗 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒 褐色 ロームブロック少量
- 3 暗 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 黒 褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量

第3725号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

第3727号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 黒 褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 3 黒 褐色 ロームブロック少量
- 4 黒 褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

## 第3728号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック少量

## 第3729号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
- 2 暗 褐色 ローム粒子中量
- 3 極暗褐色 ロームブロック少量

## 第3730号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック少量

## 第3731号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 2 暗 褐色 ロームブロック少量

## 第3732号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗 褐色 ローム粒子中量

## 第3733号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子微量
- 2 暗 褐色 ロームブロック少量

## 第3734号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ローム粒子多量
- 3 褐色 ロームブロック中量

## 第3735号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 焼土ブロック少量
- 2 黒 褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 3 暗 褐色 ロームブロック中量、炭化物少量
- 4 暗 褐色 ロームブロック中量
- 5 暗 褐色 ローム粒子少量
- 6 暗 褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量
- 7 黒 褐色 焼土ブロック微量

## 第3737号土坑土層解説

- 1 黒 色 ローム粒子少量
- 2 暗 褐色 ローム粒子中量

## 第3739号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック少量
- 2 極暗褐色 ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子微量

## 第3740号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗 褐色 ロームブロック少量

## 第3741号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック中量
- 2 暗 褐色 ローム粒子少量

## 第3742号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ローム粒子中量、焼土ブロック少量

## 第3743号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 にぶい褐色 ローム粒子中量
- 3 黒 褐色 ロームブロック少量

## 第3744号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子微量
- 2 黒 褐色 ロームブロック少量

## 第3745号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック少量
- 2 黒 褐色 ローム粒子少量

## 第3746号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
- 2 黒 褐色 ロームブロック少量
- 3 極暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
- 4 黒 褐色 ローム粒子少量
- 5 黒 褐色 ロームブロック微量
- 6 黒 色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 7 黒 褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 8 極暗褐色 ローム粒子少量

## 第3747号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
- 2 黒 褐色 ロームブロック少量

## 第3748号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック少量
- 2 黒 色 ロームブロック少量
- 3 黒 褐色 ローム粒子少量

## 第3749号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック少量
- 2 極暗褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック微量
- 3 極暗褐色 ロームブロック少量、砂質粘土ブロック微量
- 4 暗 褐色 ロームブロック中量、砂質粘土ブロック微量
- 5 暗 褐色 ロームブロック・焼土ブロック中量
- 6 褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

## 第3750号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック・炭化粒子少量

## 第3751号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 2 黒 色 ロームブロック少量
- 3 黒 褐色 ローム粒子少量

## 第3752号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 暗 褐色 ロームブロック少量
- 3 黒 褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

## 第3753号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量

## 第3754号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック少量
- 2 黒 褐色 ローム粒子・焼土粒子微量

## 第3755号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック少量
- 2 黒 褐色 ローム粒子・焼土粒子微量

## 第3756号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
- 2 黒 褐色 ロームブロック少量

## 第3757号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック少量

## 第3758号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック少量
- 2 黒 褐色 ロームブロック微量

## 第3759号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック少量

## 第3760号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック少量



第3761号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量

第3762号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 極暗褐色 ロームブロック微量

第3763号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 極暗褐色 ロームブロック微量

第3764号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 極暗褐色 ロームブロック微量

第3766号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子少量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量

第3767号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量
- 3 黒褐色 ローム粒子微量
- 4 黒褐色 ロームブロック少量

第3768号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量

第3769号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子・砂質粘土粒子微量
- 4 黒褐色 ローム粒子少量
- 5 黒褐色 ローム粒子微量

第3770号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子微量
- 4 黒褐色 ローム粒子微量
- 5 暗褐色 ローム粒子少量

第3771号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量
- 4 褐色 ローム粒子中量
- 5 暗褐色 ローム粒子微量
- 6 褐色 ロームブロック少量

第3773号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量
- 3 褐色 ロームブロック中量

第3774号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子微量

第3777号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子中量

第3778号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ロームブロック中量

第3779号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ローム粒子微量

第3781号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量
- 3 極暗褐色 ローム粒子微量
- 4 黒褐色 ロームブロック少量

第3782号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第3783号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子多量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量
- 3 極暗褐色 ローム粒子微量

第3784号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子多量, 焼土粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子中量
- 3 褐色 ロームブロック少量
- 4 暗褐色 ロームブロック中量

第3785号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量
- 4 褐色 ロームブロック中量

第3786号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子多量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第3787号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子微量
- 3 極暗褐色 ロームブロック少量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量

第3788号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量

第3790号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量
- 3 黒褐色 ロームブロック微量

第3791号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量, 炭化物少量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量

第3792号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量

第3793号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量
- 3 極暗褐色 ロームブロック中量

第3794号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量
- 3 褐色 ロームブロック中量
- 4 褐色 ロームブロック少量
- 5 褐色 ローム粒子少量

第3795号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック少量
- 2 種 暗 褐色 ロームブロック少量
- 3 種 暗 褐色 ロームブロック中量
- 4 種 暗 褐色 ロームブロック微量

第3796号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 焼土ブロック少量
- 2 暗 褐色 ロームブロック少量

第3797号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 焼土ブロック少量

第3798号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子少量
- 2 黒 褐色 ロームブロック少量

第3799号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック少量

第3800号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 2 黒 褐色 ローム粒子・砂質粘土ブロック微量
- 3 黒 褐色 ロームブロック少量
- 4 暗 褐色 ローム粒子中量, 白色粒子微量

第3801号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 2 種 暗 褐色 ローム粒子微量
- 3 黒 褐色 ローム粒子中量

第3802号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子少量
- 2 黒 褐色 ロームブロック微量
- 3 種 暗 褐色 ローム粒子少量
- 4 黒 褐色 ロームブロック少量
- 5 暗 褐色 ロームブロック中量

第3803号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック微量
- 2 暗 褐色 ローム粒子微量
- 3 暗 褐色 ローム粒子中量
- 4 暗 褐色 ロームブロック少量
- 5 暗 褐色 ローム粒子少量
- 6 暗 褐色 ロームブロック微量

第3804号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 種 暗 褐色 ローム粒子微量
- 3 暗 褐色 ローム粒子少量

第3806号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子微量
- 2 黒 褐色 ロームブロック微量

第3808号土坑土層解説

- 1 褐 色 ロームブロック多量
- 2 種 暗 褐色 ロームブロック少量

第3810号土坑土層解説

- 1 褐 色 ロームブロック中量
- 2 種 暗 褐色 ロームブロック少量
- 3 褐 色 ロームブロック多量

第3811号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック中量, 焼土ブロック微量
- 2 にんじん黄褐色 ロームブロック中量
- 3 暗 褐色 ロームブロック微量
- 4 暗 褐色 ロームブロック少量
- 5 暗 褐色 ローム粒子微量
- 6 褐 色 ロームブロック・鹿沼バミス粒子中量

第3813号土坑土層解説

- 1 褐 色 ロームブロック中量

第3814 A号土坑土層解説

- 1 褐 色 ロームブロック中量

第3814 B号土坑土層解説

- 1 褐 色 ローム粒子中量
- 2 褐 色 ロームブロック中量

第3814 C号土坑土層解説

- 1 種 暗 褐色 ローム粒子多量
- 2 褐 色 ロームブロック中量

第3815号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック中量

第3816 A号土坑土層解説

- 1 種 暗 褐色 ローム粒子多量

第3816 B号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ローム粒子中量
- 2 褐 色 ロームブロック多量

第3817号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック多量

第3818号土坑土層解説

- 1 種 暗 褐色 ロームブロック中量

第3819号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック少量

第3820号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック多量

第3821号土坑土層解説

- 1 褐 色 ロームブロック中量
- 2 暗 褐色 ロームブロック少量
- 3 暗 褐色 ローム粒子少量

第3823号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ローム粒子少量
- 2 暗 褐色 ロームブロック少量
- 3 暗 褐色 ローム粒子中量

第3824号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗 褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 3 暗 褐色 炭化粒子中量, ローム粒子・焼土粒子微量
- 4 黒 色 炭化物・ローム粒子中量, 焼土粒子少量

第3825号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ローム粒子少量
- 2 褐 色 ロームブロック中量
- 3 褐 色 ローム粒子中量

第3826号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 焼土粒子微量
- 2 黒 褐色 ローム粒子微量

第3827号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子少量
- 2 黒 褐色 ローム粒子微量

第3828号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子微量

第3829号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 焼土粒子微量
- 2 黒 褐色 焼土粒子少量, ローム粒子微量
- 3 黒 褐色 焼土粒子・ローム粒子微量

第3830号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子微量
- 2 黒 褐色 ローム粒子少量

第3831号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子微量
- 2 黒 褐色 ローム粒子少量
- 3 黒 褐色 ロームブロック微量

第3832号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 焼土粒子微量
- 2 黒 褐色 焼土粒子微量

第3833号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒 褐色 焼土粒子微量
- 3 黒 褐色 焼土粒子・ローム粒子微量

第3834号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 にぶい褐色 ロームブロック中量

第3835号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子微量
- 2 暗 褐色 ローム粒子中量

第3836号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック少量
- 2 暗 褐色 ロームブロック少量

第3837号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 2 黒 褐色 ロームブロック少量

第3839号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子微量
- 2 暗 褐色 ローム粒子少量

第3840号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 2 暗 褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子微量

第3841号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック少量
- 2 黒 褐色 ローム粒子微量
- 3 暗 褐色 ローム粒子少量

第3842号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック中量, 鹿沼バミス粒子少量
- 2 暗 褐色 ロームブロック少量
- 3 褐色 ロームブロック少量

第3843号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ローム粒子少量
- 2 暗 褐色 ロームブロック少量

第3851号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子微量
- 2 暗 褐色 ロームブロック中量

第3852号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック少量
- 2 暗 褐色 ローム粒子微量
- 3 にぶい褐色 ロームブロック少量
- 4 灰 褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 5 灰 褐色 ロームブロック少量

第3853号土坑土層解説

- 1 にぶい褐色 ローム粒子少量
- 2 褐色 ロームブロック少量
- 3 暗 褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子微量
- 4 にぶい褐色 ローム粒子少量
- 5 にぶい褐色 ロームブロック少量

第3854号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック中量
- 3 暗 褐色 ロームブロック微量

第3855号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ローム粒子少量
- 2 暗 褐色 ロームブロック微量
- 3 黒 褐色 ローム粒子中量
- 4 褐色 ローム粒子少量
- 5 黒 褐色 ローム粒子少量
- 6 暗 褐色 ローム粒子中量
- 7 黒 褐色 ローム粒子微量

第3856号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子微量
- 2 暗 褐色 ロームブロック微量

第3857号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 黒 褐色 ロームブロック・炭化物微量
- 3 黒 褐色 炭化物・ローム粒子微量
- 4 黒 褐色 ロームブロック微量
- 5 暗 褐色 ローム粒子微量
- 6 暗 褐色 ロームブロック微量
- 7 暗 褐色 ロームブロック少量
- 8 暗 褐色 ロームブロック中量
- 9 褐色 ロームブロック中量

第3858号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 灰 褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 3 灰 褐色 ローム粒子微量
- 4 にぶい褐色 焼土ブロック中量, ロームブロック少量
- 5 褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量

第3859号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ローム粒子微量
- 2 暗 褐色 ローム粒子少量
- 3 暗 褐色 ローム粒子少量
- 4 暗 褐色 ロームブロック少量
- 5 暗 褐色 ロームブロック微量
- 6 暗 褐色 ローム粒子中量
- 7 暗 褐色 ローム粒子微量

第3860号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子微量

第3861号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ローム粒子中量
- 2 暗 褐色 ローム粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子多量
- 4 暗 褐色 ローム粒子少量

第3862号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック微量
- 2 暗 褐色 ローム粒子微量

第3863号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック微量
- 2 黒 褐色 ローム粒子少量
- 3 褐色 ロームブロック中量
- 4 暗 褐色 ローム粒子少量
- 5 暗 褐色 ロームブロック少量
- 6 褐色 ローム粒子中量
- 7 暗 褐色 ロームブロック微量

第3864号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ローム粒子中量
- 2 暗 褐色 ローム粒子少量, 炭化物微量

第3865号土坑土層解説

- 1 灰 褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子中量

第3866号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック微量
- 2 にぶい褐色 ローム粒子少量
- 3 にぶい褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子微量

第3867号土坑土層解説

- 1 にぶい褐色 ロームブロック中量
- 2 褐色 ロームブロック少量
- 3 褐色 ロームブロック微量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量
- 5 にぶい褐色 ロームブロック微量

第3868号土坑土層解説

- 1 灰 褐色 ロームブロック少量

第3869号土坑土層解説

- 1 暗褐色 焼土ブロック・ローム粒子微量

第3870号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 4 にぶい褐色 ロームブロック微量
- 5 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 6 黒褐色 ロームブロック少量
- 7 極暗褐色 ロームブロック少量

第3871号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 褐色 ロームブロック少量

第3872号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量
- 4 褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 5 暗褐色 ロームブロック多量

第3873号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

第3873B号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量

第3874号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量

第3875号土坑土層解説

- 1 灰 褐色 ロームブロック中量
- 2 褐色 ロームブロック少量
- 3 にぶい褐色 ロームブロック中量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量
- 5 明褐色 ロームブロック少量
- 6 明褐色 ロームブロック中量

第3877号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック少量
- 3 にぶい褐色 ロームブロック中量
- 4 灰 褐色 ロームブロック中量

第3878号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 明褐色 焼土粒子中量, ローム粒子少量, 炭化物・砂質粘土ブロック微量
- 3 褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ロームブロック中量
- 6 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量

第3879号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 明褐色 焼土粒子中量, ローム粒子少量, 炭化物・砂質粘土ブロック微量
- 3 褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子微量

第3880号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 粘土ブロック微量

第3881号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 粘土ブロック微量

第3882号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量

第3883号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量

第3884号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量

第3885号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 2 暗褐色 炭化物・ローム粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック微量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量
- 5 褐色 ローム粒子中量

第3886号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量

第3887号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量

第3888号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量, 焼土ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量

第3889号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック中量
- 2 暗褐色 ローム粒子微量
- 3 極暗褐色 ロームブロック微量

第3890号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量
- 4 暗褐色 ロームブロック微量

第3891号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量

第3892号土坑土層解説

- 1 褐 色 ローム粒子少量
- 2 黒 褐色 ロームブロック少量

第3894号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック微量
- 2 黒 褐色 ロームブロック・焼土粒子少量

第3895号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 黒 褐色 ロームブロック微量

第3896号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 暗 褐色 ローム粒子少量
- 3 暗 褐色 ローム粒子中量

第3897号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック微量

第3898号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量

第3899号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 黒 褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 3 暗 褐色 ローム粒子少量

第3900号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子少量
- 2 暗 褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

第3901号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子少量
- 2 暗 褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

第3902号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子・炭化粒子微量

第3903号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子微量
- 2 黒 褐色 ロームブロック微量

第3904 A号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒 褐色 ローム粒子微量

第3904 B号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

第3905号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒 褐色 炭化物・ローム粒子微量
- 3 黒 褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 4 黒 褐色 ローム粒子微量
- 5 暗 褐色 ローム粒子少量
- 6 暗 褐色 ロームブロック微量

第3907号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック中量、炭化物・焼土粒子微量
- 2 黒 褐色 ロームブロック微量

第3908号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量
- 2 暗 褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 3 暗 褐色 ローム粒子中量

第3909号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒 褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 3 黒 褐色 ローム粒子中量

第3910号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 2 黒 褐色 ロームブロック微量
- 3 褐 色 ローム粒子中量

第3911号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック少量
- 2 暗 褐色 ローム粒子少量
- 3 暗 褐色 ロームブロック中量
- 4 黒 褐色 ロームブロック微量
- 5 暗 褐色 ロームブロック微量
- 6 暗 褐色 ローム粒子中量

第3912号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック少量

第3914号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒 褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 3 暗 褐色 ローム粒子中量

第3915号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子微量

第3916号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗 褐色 ローム粒子少量
- 3 暗 褐色 ロームブロック微量

第3918号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 2 黒 褐色 ローム粒子少量
- 3 暗 褐色 ローム粒子少量

第3920 A号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子少量

第3920 B号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量

第3921号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化ブロック微量
- 2 黒 褐色 ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量
- 3 褐 色 ロームブロック少量

第3922号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック少量

第3923号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒 褐色 ローム粒子中量
- 3 暗 褐色 ロームブロック少量
- 4 暗 褐色 ローム粒子中量
- 5 黒 褐色 ローム粒子微量
- 6 黒 褐色 ロームブロック微量
- 7 黒 褐色 ローム粒子少量

第3924号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ローム粒子中量
- 2 暗 褐色 ロームブロック少量
- 3 黒 褐色 ロームブロック微量
- 4 暗 褐色 ロームブロック微量
- 5 黒 褐色 ローム粒子少量
- 6 褐 色 ロームブロック中量
- 7 黒 褐色 ローム粒子微量

第3925号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗 褐色 ローム粒子中量
- 3 暗 褐色 ローム粒子微量

第3926号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック微量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量
- 5 暗褐色 ロームブロック中量
- 6 黒褐色 ローム粒子微量
- 7 暗褐色 ローム粒子少量
- 8 暗褐色 ロームブロック少量
- 9 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子微量

第3927号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量

第3928号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量

第3929号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量

第3930号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子中量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量
- 5 褐色 ロームブロック中量

第3931号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化物・焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量

第3932号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ロームブロック微量

第3933号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量
- 2 黒褐色 ローム粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量

第3936号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・砂質粘土ブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック少量

第3937号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化物微量
- 2 褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量
- 3 褐色 ローム粒子微量
- 4 褐色 ロームブロック少量

第3938号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量
- 2 にぶい褐色 ロームブロック微量
- 3 明褐色 ロームブロック中量

第3939号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック微量
- 2 にぶい褐色 ロームブロック中量

第3940号土坑土層解説

- 1 灰褐色 ロームブロック少量
- 2 にぶい褐色 ロームブロック微量

第3941号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量

第3942号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量
- 3 にぶい褐色 ロームブロック中量

第3943号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・砂質粘土ブロック微量
- 3 にぶい褐色 ロームブロック微量
- 4 黒褐色 ロームブロック少量

第3944号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量

第3945号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量

第3946号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量
- 2 黒褐色 ローム粒子微量
- 3 灰褐色 ロームブロック少量

第3947号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック中量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量

第3948号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 にぶい褐色 ロームブロック少量

第3949号土坑土層解説

- 1 灰褐色 ロームブロック中量
- 2 にぶい褐色 ロームブロック中量
- 3 にぶい褐色 ローム粒子中量

第3950号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ロームブロック少量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量

第3952号土坑土層解説

- 1 にぶい褐色 ロームブロック中量
- 2 褐色 ロームブロック少量
- 3 明褐色 ロームブロック中量

第3953号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ロームブロック中量
- 3 にぶい褐色 ロームブロック少量
- 4 褐色 ロームブロック少量

第3954号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子微量
- 2 極暗褐色 ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子中量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量
- 5 褐色 ローム粒子微量

第3955号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 極暗褐色 ローム粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 4 極暗褐色 ロームブロック微量
- 5 暗褐色 ロームブロック少量

## 第3956号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック微量
- 2 極 暗 褐色 ローム粒子微量
- 3 暗 褐色 ロームブロック微量
- 4 暗 褐色 ロームブロック少量
- 5 暗 褐色 ローム粒子少量

## 第3957号土坑土層解説

- 1 極 暗 褐色 ロームブロック微量
- 2 暗 褐色 ローム粒子少量
- 3 褐 色 ローム粒子中量

## 第3958号土坑土層解説

- 1 極 暗 褐色 ロームブロック少量
- 2 暗 褐色 ロームブロック少量
- 3 褐 色 ローム粒子多量

## 第3959号土坑土層解説

- 1 極 暗 褐色 ロームブロック少量
- 2 暗 褐色 ロームブロック少量

## 第3960号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック微量
- 2 暗 褐色 ローム粒子少量
- 3 暗 褐色 ローム粒子微量
- 4 暗 褐色 ロームブロック少量

## 第3968号土坑土層解説

- 1 褐 色 ロームブロック少量, 炭化物微量
- 2 灰 褐色 ロームブロック中量
- 3 暗 褐色 ロームブロック中量, 炭化物微量

## 第3969号土坑土層解説

- 1 明 褐色 ロームブロック微量
- 2 黒 褐色 ロームブロック少量, 炭化物・焼土粒子微量
- 3 明 褐色 ロームブロック少量
- 4 黒 褐色 ロームブロック少量
- 5 極 暗 褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量
- 6 褐 色 ロームブロック中量

## 第3970号土坑土層解説

- 1 褐 色 ロームブロック中量
- 2 暗 褐色 ロームブロック少量

## 第3971号土坑土層解説

- 1 褐 色 ロームブロック少量
- 2 褐 色 ローム粒子少量
- 3 明 褐色 ローム粒子中量
- 4 褐 色 ロームブロック微量
- 5 褐 色 ローム粒子微量

## 第3972号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック少量
- 2 極 暗 褐色 ロームブロック少量
- 3 暗 褐色 ローム粒子少量
- 4 極 暗 褐色 ローム粒子微量

## 第3973号土坑土層解説

- 1 褐 色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量
- 2 暗 褐色 ロームブロック少量
- 3 黒 褐色 ロームブロック微量

## 第3974号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック微量
- 2 褐 色 ローム粒子少量
- 3 褐 色 ロームブロック少量

## 第3975号土坑土層解説

- 1 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 褐 色 ロームブロック少量
- 3 明 褐色 ロームブロック少量

表14 その他の土坑一覧表

番号	位置	長軸(径)方向	平面形	規模			壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径[m]	短径[m]	深さ[cm]					
3586	A 1 e4	N-14°-W	楕円形	0.85 × 0.73	15	緩斜	平坦	人為	土師器片 須恵器片		
3587	A 1 h6	N-10°-E	[楕円形]	1.60 × (1.14)	33	外傾	平坦	人為			
3588	A 1 h6	N-0°	[楕円形]	(0.81) × 0.80	12	外傾	平坦	人為	土師器片		
3589	A 1 h6	N-18°-W	円形	1.16 × 1.08	17	外傾・緩斜	自然	自然	土師器片		
3590	A 1 i6	N-10°-W	[楕円形]	0.96 × (0.65)	13	外傾	平坦	自然	土師器片 須恵器片		
3591	A 1 i6	N-86°-W	楕円形	1.24 × 1.03	18	外傾	平坦	自然			
3592	A 1 h5	N-76°-W	楕円形	1.16 × 0.94	17	緩斜	平坦	人為	弥生土器片 土師器片		
3593	A 1 i5	N-0°	[円形]	[1.22] × 1.22	40	垂直	平坦	人為	土師器片		
3594	A 1 i4	N-49°-W	楕円形	1.17 × 1.01	29	外傾	皿状	人為	土師器片		
3595	A 1 i5	N-0°	円形	1.00 × 0.96	25	外傾	皿状	人為	弥生土器片 土師器片		
3596	A 1 i4	N-0°	円形	1.04 × 1.04	26	外傾	皿状	人為	弥生土器片 土師器片		
3597	A 1 i4	N-0°	[楕円形]	0.93 × (0.75)	10-14	外傾	凹凸	人為	弥生土器片 土師器片		
3598	A 1 i6	N-0°	[円形]	1.07 × 1.02	16	外傾	皿状	人為	土師器片		

番号	位置	長軸(径)方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径[m]>短径[m]	深さ[cm]					
3599	A 1 i 6	N - 0°	円形	1.09 × 1.06	19	繻斜	平坦	人為	弥生土器片 土師器片	
3600	A 1 j 5	N - 0°	円形	1.16 × 1.12	23	外傾	平坦	自然	土師器片	
3601	A 1 j 5	N - 13° - W	楕円形	3.80 × 0.92	36	外傾・垂直	平坦	人為	弥生土器片 土師器片 灰釉陶器片	
3602	B 1 a 6	N - 6° - W	楕円形	0.82 × 0.70	40	垂直・外傾	平坦	人為	弥生土器片 土師器片	
3603	A 1 j 6	N - 12° - W	楕円形	1.26 × 0.91	11 - 21	外傾	平坦	自然	土師器片	
3604	A 1 h 6	N - 0°	円形	1.04 × 1.00	47	垂直	平坦	人為	弥生土器片 土師器片	
3605	A 1 g 7	N - 80° - W	楕円形	0.67 × 0.53	17	外傾	平坦	自然		
3606	A 1 j 6	N - 0°	円形	1.00 × 1.00	40	繻斜	凹凸	人為	土師器片	
3607	A 1 i 5	N - 51° - E	[楕円形]	0.74 × [0.50]	30	繻斜	平坦	人為	土師器片	
3608	A 1 j 6	N - 41° - E	円形	0.68 × 0.60	18	繻斜	皿状	人為	弥生土器片 土師器片	
3609	A 1 g 7	N - 0°	[円形]	0.80 × 0.75	28	外傾	皿状	人為	弥生土器片 土師器片	
3611	A 1 g 5	N - 85° - W	隅丸長方形	1.18 × 0.78	14	繻斜・外傾	平坦	人為	弥生土器片 土師器片 須惠器片	
3612	A 1 d 6	N - 80° - E	[楕円形]	(1.08) × 0.80	18	外傾	平坦	人為	弥生土器片 土師器片	
3613	A 1 d 6	N - 79° - E	[楕円形]	(0.96) × 0.94	21	外傾	平坦	自然	土師器片 石器	
3614	A 1 c 6	N - 79° - W	楕円形	1.54 × 0.92	26	外傾	平坦	自然	弥生土器片 土師器片	
3615	A 1 e 7	N - 0°	長方形	1.38 × 0.72	21	外傾	平坦	自然	縄文土器片 弥生土器片 土師器片	
3616	A 1 e 6	N - 40° - W	円形	1.00 × 0.95	54	垂直	皿状	人為	弥生土器片 土師器片	
3617	A 1 e 5	N - 90° - E	楕円形	1.55 × 1.28	46	外傾	皿状	人為	弥生土器片 土師器片	
3618	A 1 g 6	N - 34° - W	円形	0.83 × 0.81	15	繻斜	平坦	人為	土師器片	
3619	A 1 h 6	N - 48° - W	楕円形	1.00 × 0.93	-	繻斜	平坦	-	土師器片	
3621	A 1 g 6	N - 88° - W	楕円形	0.94 × 0.92	-	繻斜	平坦	-	土師器片	
3622	A 1 g 5	N - 17° - W	不整楕円形	2.18 × 0.90	16	繻斜	平坦	人為		
3623	A 1 h 4	N - 80° - E	不定形	1.36 × 1.08	8	外傾	平坦	人為	土師器片	
3624	A 1 h 5	N - 53° - E	[楕円形]	1.43 × (0.94)	24	繻斜	平坦	人為		
3625	A 2 e 2	N - 50° - W	円形	[0.64] × 0.62	8	繻斜・外傾	平坦	人為		
3626	A 1 g 0	N - 40° - E	楕円形	0.94 × 0.86	12	外傾	平坦	自然		
3627	A 2 d 1	N - 40° - W	楕円形	0.91 × 0.81	22	外傾	平坦	人為	弥生土器片 土師器片 須惠器片	
3628	Z 2 i 2	N - 40° - W	[楕円形]	1.20 × 1.13	22	繻斜	皿状	自然	弥生土器片 土師器片	
3629	A 2 b 2	N - 3° - E	方形	0.77 × 0.76	16	垂直	平坦	自然	弥生土器片 土師器片	
3630	A 2 b 2	N - 83° - E	長方形	0.98 × 0.80	23	外傾・垂直	平坦	人為	弥生土器片 土師器片	
3631	A 2 b 3	N - 72° - W	不整長方形	1.04 × 0.84	18	繻斜	平坦	自然	弥生土器片 土師器片	
3632	A 2 b 2	N - 57° - W	楕円形	0.66 × (0.47)	12	繻斜	皿状	自然		
3633	A 2 g 3	N - 32° - W	楕円形	4.37 × 3.05	34 - 61	繻斜	平坦	人為	縄文土器片 土師器片 須惠器片 陶器片	
3634	A 1 b 0	N - 39° - E	[円形・楕円形]	1.18 × (0.60)	14	外傾・繻斜	平坦	自然	弥生土器片 土師器片	
3635	A 1 b 9	N - 24° - E	楕円形	1.05 × 0.90	16	外傾	平坦	自然	弥生土器片 土師器片	
3636	A 1 d 0	N - 4° - W	楕円形	1.32 × 0.80	13	外傾・繻斜	平坦	自然	弥生土器片 土師器片 須惠器片	
3637	A 1 b 9	N - 19° - W	楕円形	1.05 × 0.94	49 - 56	繻斜	平坦	人為	弥生土器片 土師器片	
3638	A 1 c 9	N - 0°	円形	0.80 × 0.76	14	外傾	平坦	自然	縄文土器片 土師器片	
3639	A 1 c 9	N - 8° - W	楕円形	1.06 × (0.70)	17	繻斜	平坦	自然	弥生土器片 土師器片	
3640	A 2 e 2	N - 75° - E	楕円形	0.94 × 0.84	35	垂直	平坦	人為	土師器片	
3642	A 1 e 0	N - 12° - E	隅丸長方形	1.03 × 0.67	32	外傾	平坦	人為	弥生土器片 土師器片	
3643	A 1 c 0	N - 2° - W	楕円形	1.10 × 0.85	14	外傾	平坦	人為	弥生土器片 土師器片	
3644	A 1 c 9	N - 49° - E	楕円形	1.00 × 0.85	8	垂直	平坦	人為	弥生土器片 土師器片	
3645	A 1 b 9	N - 0°	円形	1.10 × 1.04	14	垂直	平坦	人為	弥生土器片 土師器片 須惠器片	



番号	位置	長軸(径)方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径[m] > 短径[m]	深さ[cm]					
3646	Z 2 12	N- 42°- W	楕円形	0.99 × 0.84	53	外傾	血状	人為	弥生土器片 土師器片 土師質土器	
3647	A 1 b9	N- 43°- W	楕円形	0.60 × 0.53	30	外傾	平坦	人為	縄文土器片 弥生土器片 土師器片	
3648A	A 1 d0	N- 81°- E	楕円形	1.08 × 0.86	42	垂直	平坦	人為	弥生土器片 土師器片	
3648B	A 1 d0	N- 19°- W	楕円形	(1.54) × 1.28	61	外傾	平坦	人為		
3649	A 2 e1	N- 61°- E	楕円形	1.04 × 0.93	32	外傾	平坦	自然		
3650	Z 2 12	N- 40°- E	[ 円形・楕円形 ]	(1.20) × (0.40)	70	外傾	平坦	人為	土師器片 土師質土器	
3651	A 2 c2	N- 0°	円形	0.86 × 0.84	9	緩斜	平坦	自然		
3652	A 2 b2	N- 88°- W	長方形	1.94 × 0.96	16	外傾	平坦	自然	土師器片	
3653	A 1 f9	N- 13°- E	長方形	1.46 × 0.80	17	垂直・外傾	平坦	人為	弥生土器片 土師器片	
3654	A 1 f9	N- 72°- E	楕円形	2.06 × 0.88	20	外傾	平坦	人為	弥生土器片 土師器片	
3656	A 1 b8	N- 62°- E	楕円形	0.93 × (0.66)	30	外傾	血状	人為	土師器片	
3657	A 1 b9	N- 44°- E	[ 楕円形 ]	(0.48) × [0.48]	60	緩斜	血状	人為	土師器片 須惠器片	
3658	A 2 a4	N- 0°	円形	1.22 × 1.11	30	緩斜	平坦	人為	弥生土器片 土師器片	
3660	A 2 d1	N- 0°	不整楕円形	2.06 × 1.36	18	外傾・緩斜	平坦	自然	弥生土器片 土師器片	
3661	Z 2 14	N- 0°	[ 円形・楕円形 ]	(1.06) × 0.47	43	外傾	平坦	自然	土師器片 釘	
3662	A 2 d1	N- 32°- E	不明	0.42 × (0.38)	46	垂直	平坦	自然		
3663	A 2 f2	N- 0°	円形	0.83 × 0.81	21	外傾	平坦	人為		
3664	Z 2 j2	N- 76°- E	楕円形	0.56 × 0.42	47	外傾	血状	人為		
3665	A 2 h4	N- 2°- E	不明	(1.27) × (0.78)	45	外傾	平坦	人為	弥生土器片 土師器片	
3666	A 1 a0	N- 0°	円形	0.69 × 0.68	42	外傾	平坦	人為	土師器片 須惠器片	
3669	A 1 c8	N- 0°	長方形	2.54 × 1.42	60	外傾	平坦	人為	弥生土器片 土師器片	
3670	B 2 f0	N- 81°- W	長方形	1.57 × 1.03	22	外傾・緩斜	平坦	人為	弥生土器片 土師器片 須惠器片	
3671	B 2 f0	N- 0°	[ 隅丸長方形 ]	[1.37] × 0.82	16	緩斜	平坦	自然	弥生土器片 土師器片 須惠器片	
3673	B 2 e7	N- 7°- E	[ 楕円形 ]	1.34 × 0.97	14	緩斜	平坦	自然		
3675	B 3 g2	N- 83°- E	不整楕円形	1.38 × 1.05	17	緩斜	平坦	人為	弥生土器片 須惠器片	
3676	B 3 f1	N- 27°- E	長方形	2.15 × 1.06	38	垂直・外傾	平坦	人為	弥生土器片 土師器片	
3677	B 3 g1	N- 33°- E	不整楕円形	2.43 × 1.04	12	緩斜	平坦	自然	土師器片	
3678	B 3 h1	N- 72°- E	不整楕円形	0.90 × 0.80	24	外傾	血状	自然	土師器片	
3679	A 1 b0	N- 0°	楕円形	0.66 × 0.48	55	垂直	血状	自然	弥生土器片 土師器片	
3680	A 2 c1	N- 10°- W	[ 隅丸長方形 ]	0.96 × 0.75	10	緩斜	血状	人為		
3681	A 2 b1	N- 8°- E	不整長方形	1.62 × 0.90	9	緩斜	平坦	人為		
3682	A 2 c2	N- 10°- W	隅丸長方形	0.90 × [1.00]	25	垂直	平坦	不明	土師器片	
3683	B 2 f7	N- 6°- W	[ 長方形 ]	2.32 × (0.53)	24	外傾	平坦	人為		
3684	B 3 g6	N- 30°- W	[ 楕円形 ]	0.94 × 0.80	14	垂直・外傾	平坦	人為	土師器片 須惠器片	
3685	B 3 h7	N- 0°	円形	0.41 × 0.40	20	外傾	平坦	人為	土師器片	
3686	B 3 h7	N- 5°- W	楕円形	2.08 × 0.68	22	外傾	血状	自然	須惠器片	
3687	B 2 f7	N- 0°	楕円形	1.32 × 0.98	30	外傾	平坦	自然	弥生土器片 土師器片	
3688	B 2 f7	N- 9°- W	[ 長方形 ]	(1.04 × 0.65)	26	外傾	平坦	人為	弥生土器片 土師器片 須惠器片	
3689	B 3 h7	N- 59°- E	楕円形	0.80 × 0.58	54	外傾	血状	人為		
3690	B 2 f7	N- 19°- W	[ 長方形 ]	(0.95) × 0.66	30	外傾	平坦	人為	弥生土器片 土師器片 須惠器片	
3691	B 3 h5	N- 88°- W	楕円形	1.73 × 0.73	10	垂直・緩斜	凹凸	自然	土師器片	
3692	A 1 c7	N- 0°	円形	1.10 × 1.09	33	外傾	平坦	人為	弥生土器片 土師器片	
3693	A 1 c0	N- 83°- E	長方形	2.00 × 0.98	35	外傾	平坦	人為	弥生土器片 土師器片 須惠器片	
3694	A 1 c0	N- 90°- E	[ 長方形 ]	(2.34) × 0.88	18	外傾	平坦	人為	弥生土器片 土師器片 磁石	

番号	位置	長軸(径)方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径[m] > 短径[m]	深さ[cm]					
3696	A 1 d9	N- 85°- W	長方形	2.40 × 1.34	73	外傾	平坦	人為	土師器片	
3698	A 2 b1	N- 69°- E	[楕円形]	1.16 × (0.44)	31	外傾	平坦	人為	弥生土器片 土師器片	
3699	A 1 b0	N- 63°- E	[楕円形]	2.16 × (1.17)	16	傾斜	平坦	人為	弥生土器片 土師器片	
3700	A 1 b0	N- 64°- E	[楕円形]	1.62 × (0.80)	30	外傾	平坦	人為	土師器片	
3701	B 3 f1	N- 52°- E	不明	0.45 × (0.37)	60	外傾	皿状	人為		
3702	B 2 f0	N- 60°- E	不明	0.50 × (0.40)	42	外傾	平坦	不明		
3703	B 2 e7	N- 4°- E	[楕円形]	(1.74) × (0.43)	11	外傾	平坦	不明		
3704	B 3 h2	N- 70°- E	楕円形	1.34 × 1.00	25	外傾・傾斜	皿状	人為	土師器片 須惠器片	
3705	B 2 f8	N- 0°	円形	0.87 × 0.85	60	外傾	平坦	人為	弥生土器片 土師器片	
3706	B 2 f9	N- 0°	隅丸長方形	1.24 × 0.74	38	外傾	皿状	人為	弥生土器片 土師器片 須惠器片	
3708	B 2 f9	N- 56°- E	不定形	1.92 × 1.37	25	傾斜	平坦	自然	弥生土器片 土師器片	
3709	B 3 g5	N- 70°- W	不整長方形	2.70 × 0.75	13	傾斜	平坦	自然		
3710	B 3 i7	N- 0°	円形	0.90 × 0.84	12	傾斜・垂直	平坦	自然		
3711	B 3 i5	N- 77°- E	隅丸長方形	1.27 × 1.01	29	外傾	平坦	自然	弥生土器片 土師器片	
3712	B 3 i1	N- 36°- W	不整楕円形	1.50 × 1.31	34	傾斜	平坦	-		
3713	B 3 h1	N- 33°- W	隅丸長方形	2.10 × 1.13	40	外傾	平坦	-		
3714	A 2 c2	N- 70°- W	楕円形	0.33 × 0.27	31	垂直	皿状	人為	弥生土器片 土師器片 須惠器片	
3715	B 2 f9	N- 0°	円形	0.27 × 0.25	42	外傾	平坦	人為		
3716	B 3 h5	N- 88°- E	隅丸長方形	3.04 × 0.70	47	外傾	平坦	人為	土師器片 須惠器片	
3717	B 2 f9	N- 77°- W	不定形	1.32 × 0.88	25	傾斜	皿状	自然		
3718	A 2 f2	N- 0°	[円形]	0.77 × [0.75]	12	外傾・傾斜	皿状	自然		
3719	A 1 b8	N- 98°- W	楕円形	0.79 × 0.65	10	外傾	平坦	自然		
3720	C 3 a0	N- 70°- E	長方形	1.95 × (1.16)	43	外傾	平坦	人為	土師器片 須惠器片	
3721	B 2 h7	N- 30°- W	楕円形	1.34 × 1.12	18	外傾	平坦	自然	弥生土器片 土師器片 須惠器片	
3722	C 4 c2	N- 22°- E	長方形	1.37 × 1.26	87	垂直	平坦	人為	土師器片	
3724	C 4 d3	N- 80°- W	長方形	1.46 × 0.66	18	外傾	平坦	人為		
3725	C 3 b8	N- 0°	楕円形	1.17 × 0.65	28	外傾	平坦	不明		
3727	C 3 a8	N- 13°- E	不定形	(0.81) × (0.32)	36	外傾	平坦	人為	弥生土器片 土師器片	
3728	C 3 b9	N- 0°	円形	1.02 × 0.98	12	外傾	平坦	自然		
3729	B 3 j6	N- 90°- E	楕円形	1.31 × 0.92	18	傾斜	平坦	人為	土師器片 磁石	
3730	C 3 c9	N- 73°- W	楕円形	0.90 × 0.78	62	垂直	皿状	不明	土師器片	
3731	C 3 b9	N- 10°- E	円形	0.96 × 0.91	27-32	垂直	平坦	自然	土師器片 須惠器片	
3732	C 3 c9	N- 11°- E	長方形	1.20 × 0.70	17	外傾	平坦	人為	土師器片 須惠器片	
3733	C 3 c7	N- 0°	不整長方形	1.10 × 0.64	11	外傾	平坦	人為		
3734	C 4 g3	N- 8°- E	楕円形	2.64 × 0.84	56-65	外傾	平坦	人為	土師器片 須惠器片 陶器片	
3735	C 3 b0	N- 10°- E	長方形	2.05 × [1.24]	20-24	傾斜・外傾	平坦	人為	土師器片 須惠器片	
3736	C 4 b1	N- 10°- E	長方形	1.36 × 1.31	65	垂直	平坦	-	土師器片 陶器片	
3737	C 3 b0	N- 0°	円形	0.90 × 0.86	10-15	傾斜	平坦	人為		
3738	B 3 j5	N- 77°- W	不整長方形	1.34 × [1.10]	44-50	傾斜	平坦	人為	土師器片 馬歯	
3739	B 3 j8	N- 10°- E	長方形	(2.53) × 1.67	48	外傾	平坦	人為	弥生土器片 土師器片 須惠器片	
3740	B 2 h6	N- 0°	[円形]	0.44 × (0.29)	6	傾斜	平坦	自然		
3741	C 4 b1	N- 84°- W	楕円形	0.84 × 0.70	13	外傾	平坦	人為	土師器片	
3742	B 3 j0	N- 0°	円形	1.35 × 1.31	25-55	傾斜	凹凸	不明	土師器片 須惠器片	
3743	C 4 a2	N- 15°- E	隅丸長方形	1.63 × 0.71	59	外傾	皿状	人為	土師器片 須惠器片	

番号	位置	長軸(径)方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径[m]×短径[m]	深さ[cm]					
3744	B 3 j 6	N- 20°- E	円形	0.34 × 0.32	40	外傾	皿状	人為		
3745	B 3 j 6	N- 52°- W	長方形	0.83 × 0.59	21	繖斜	皿状	自然	弥生土器片	
3746	C 3 a 8	N- 7°- E	不整長方形	3.00 × 1.50	67	垂直	平垣	人為	土師器片 須惠器片 石器	
3747	B 3 h 7	N- 5°- W	不整長方形	1.12 × 0.95	15	繖斜	皿状	自然	土師器片	
3748	B 3 j 5	N- 85°- E	長方形	2.34 × 1.24	48	外傾	平垣	人為	土師器片	
3749	C 4 c 2	N- 81°- W	長方形	1.33 × 0.84	65	外傾	平垣	人為	土師器片 陶器片	
3750	C 4 f 1	N- 49°- W	不明	1.28 × 0.75	20-25	外傾	平垣	不明	土師器片 須惠器片	
3751	C 4 g 1	N- 10°- E	不整楕円形	[11.8] × [0.92]	40	外傾	平垣	自然	弥生土器片 土師器片 須惠器片	
3752	C 4 g 1	N- 50°- W	不整楕円形	0.64 × 0.62	68	外傾	皿状	人為	土師器片	
3753	C 4 g 2	N- 9°- E	楕円形	0.97 × 0.46	12	垂直	皿状	自然	土師器片	
3754	C 4 h 2	N- 59°- W	楕円形	0.52 × 0.47	32	外傾	皿状	自然		
3755	C 4 h 2	N- 6°- E	長方形	0.92 × 0.64	20	外傾・垂直	平垣	自然	土師器片	
3756	C 4 h 1	N- 0°	円形	0.57 × [0.55]	38	外傾	平垣	自然	土師器片	
3757	C 4 h 1	N- 10°- E	不整楕円形	0.78 × 0.58	68	繖斜・垂直	皿状	不明	土師器片	
3758	C 4 h 1	N- 80°- W	楕円形	0.51 × 0.45	61	垂直	皿状	人為	土師器片	
3759	C 4 h 1	N- 0°	楕円形	0.28 × 0.28	36	外傾	平垣	人為	土師器片 須惠器片	
3760	C 4 d 2	N- 66°- W	長方形	1.04 × 0.84	38	外傾	平垣	不明	土師器片 須惠器片	
3761	C 4 d 2	N- 25°- E	不整楕円形	1.40 × 1.00	12	繖斜	凹凸	人為	土師器片 須惠器片	
3762	C 4 h 2	N- 0°	円形	0.70 × 0.64	35	外傾	平垣	自然	土師器片	
3763	C 4 i 2	N- 0°	円形	0.61 × 0.60	37	外傾	皿状	人為	土師器片	
3764	C 4 b 1	N- 10°- E	不定形	2.68 × 1.02	46	垂直	凹凸	自然	弥生土器片 土師器片 須惠器片	
3765	B 3 h 4	N- 3°- W	隅丸長方形	2.16 × 0.72	13	外傾	平垣	不明	土師器片	
3766	C 4 a 4	N- 8°- E	[長方形]	(2.90) × 0.86	43	外傾	平垣	人為	土師器片 須惠器片	
3767	C 4 g 1	N- 30°- E	楕円形	0.26 × 0.22	64	外傾	漏斗状	人為		
3768	C 3 a 7	N- 74°- W	楕円形	0.94 × 0.80	27	外傾・繖斜	平垣	不明		
3769	C 3 f 0	N- 83°- W	隅丸長方形	1.92 × 1.21	32	外傾	平垣	自然	土師器片 須惠器片	
3770	C 4 h 4	N- 47°- E	楕円形	1.13 × 0.84	16	繖斜	平垣	人為		
3771	C 4 b 1	N- 10°- E	長方形	1.22 × 0.91	20	垂直・外傾	平垣	人為		
3772 A	C 4 e 1	N- 79°- E	楕円形	0.67 × 0.43	37	外傾	平垣	不明	土師器片 須惠器片 陶器片	
3772 B	C 4 e 1	N- 87°- E	[楕円形]	(0.55) × 0.43	36	外傾	平垣	不明	土師器片 須惠器片 陶器片	
3773	C 4 g 2	N- 74°- W	円形	0.49 × [0.51]	25	垂直	平垣	人為	土師器片	
3774	C 3 b 9	N- 67°- E	不定形	0.46 × 0.28	72	垂直	皿状	不明	土師器片 須惠器片	
3775	C 4 g 1	N- 10°- E	円形	[0.54] × [0.54]	38	垂直	皿状	不明		
3776	C 3 b 8	N- 75°- W	楕円形	0.55 × 0.36	70	垂直	皿状	不明		
3777	C 3 b 8	N- 85°- W	[楕円形]	(0.62) × 0.46	12	外傾	平垣	人為		
3778	C 3 b 9	N- 85°- W	[不整長方形]	0.92 × 0.65 (24)	外傾	不明	人為			
3779	C 4 d 1	N- 82°- E	[隅丸長方形]	1.28 × 0.65	32	外傾	平垣	自然	土師器片 須惠器片 陶器片	
3781	C 4 a 4	N- 55°- W	楕円形	1.00 × 0.96	32	外傾	平垣	人為		
3782	C 3 b 8	N- 69°- W	楕円形	1.00 × 0.84	18	外傾	皿状	自然		
3783	C 4 b 1	N- 20°- E	楕円形	0.66 × [0.38]	35	外傾	平垣	人為	土師器片 須惠器片	
3784	C 4 b 1	N- 20°- E	楕円形	0.88 × 0.80	67	外傾	皿状	人為	土師器片 須惠器片 陶器片	
3785	C 4 b 2	N- 70°- W	[隅丸長方形]	1.76 × 0.74	56	垂直	平垣	人為	弥生土器片 土師器片 須惠器片	
3786	C 4 a 2	N- 84°- W	[不整長方形]	1.18 × 0.92	12	外傾・繖斜	平垣	人為	土師器片	
3787	C 4 a 9	N- 10°- E	[長方形]	2.12 × [0.58]	40	外傾	皿状	自然	土師器片 須惠器片	

番号	位置	長軸(径)方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径[m] > 短径[m]	深さ[cm]					
3788	C 4 b5	N- 68°- W	楕円形	1.00 × 0.82	18	外傾・罐斜	平坦	自然	土師器片 鉄製品	
3789	C 3 g0	N- 74°- W	[ 隅丸長方形 ]	[ 1.63 ] × 0.43	54	垂直	平坦	不明	縄文土器片	
3790	C 3 g0	N- 19°- E	[ 隅丸長方形 ]	[ 3.93 ] × 0.73	24	外傾	皿状	人為	土師器片	
3791	C 3 g0	N- 87°- W	[ 長楕円形 ]	[ 1.94 ] × 0.53	5	罐斜	平坦	人為	土師器片	
3792	C 3 g9	N- 10°- E	[ 隅丸長方形 ]	1.64 × 0.64	53	外傾	平坦	人為	土師器片 須惠器片	
3793	C 4 b2	N- 0°	円形	1.08 × 1.04	35	垂直	皿状	人為	弥生土器片 土師器片 須惠器片	
3794	C 4 c3	N- 0°	円形	[ 0.97 ] × 0.97	32	罐斜	平坦	人為	土師器片	
3795	C 5 g4	N- 18°- E	板方形	1.60 × 0.97	28	罐斜	平坦	人為	土師器片 須惠器片	
3796	C 4 g5	N- 87°- W	楕円形	1.48 × 0.77	16	外傾	平坦	自然		
3797	C 4 f4	N- 15°- E	[ 隅丸長方形 ]	( 2.00 ) × 0.82	11	外傾	平坦	自然	土師器片 須惠器片	
3798	C 4 e4	N- 10°- E	不整長方形	2.56 × 0.88	45	外傾	凹凸	自然	土師器片 須惠器片	
3799	C 4 e5	N- 81°- W	[ 隅丸長方形 ]	( 1.54 ) × 0.76	18	外傾	平坦	自然	土師器片 須惠器片	
3800	C 4 e4	N- 7°- E	[ 隅丸長方形 ]	( 1.83 ) × 1.32	14	罐斜	平坦	人為	土師器片	
3801	C 4 e2	N- 0°	円形	1.12 × 1.06	18	罐斜	皿状	人為	土師器片 須惠器片	
3802	C 4 d4	N- 0°	円形	1.02 × 0.98	27	外傾	平坦	人為	土師器片 須惠器片 瓦	
3803	C 4 f1	N- 20°- W	不定形	1.46 × 0.74	37	外傾	平坦	人為	土師器片	
3804	C 4 f1	N- 0°	[ 円形 ]	0.90 × [ 0.88 ]	20	外傾	皿状	人為	土師器片 須惠器片	
3806	C 4 c5	N- 0°	[ 円形 ]	[ 0.79 ] × [ 0.78 ]	12	外傾	皿状	不明	土師器片	
3807	C 4 d4	N- 0°	[ 隅丸長方形 ]	[ 0.90 ] × 0.66	40	外傾	皿状	不明	土師器片	
3808	C 4 d3	N- 9°- E	[ 隅丸長方形 ]	[ 1.46 ] × 0.76	29	垂直	平坦	人為	土師器片	
3810	C 4 d4	N- 0°	楕円形	1.30 × 1.02	22	外傾	平坦	人為	土師器片 須惠器片	
3811	C 3 i7	N- 83°- W	不整長方形	1.56 × 1.02	21	外傾	平坦	人為	土師器片 須惠器片	
3813	C 4 c1	N- 12°- E	[ 板方形 ]	2.43 × 1.12	5	罐斜	平坦	人為	須惠器片	
3814A	C 4 c2	N- 16°- E	[ 板方形 ]	1.20 × [ 0.82 ]	14	罐斜	平坦	人為	土師器片 須惠器片	
3814B	C 4 c2	N- 15°- E	[ 長方形 ]	1.10 × ( 0.82 )	14	外傾	平坦	人為	土師器片 須惠器片	
3814C	C 4 c1	N- 30°- W	楕円形	0.86 × 0.70	20	罐斜	皿状	不明	土師器片 須惠器片	
3815	C 4 b1	N- 0°	円形	0.92 × 0.92	13	外傾	皿状	人為	土師器片 須惠器片	
3816A	C 2 e1	N- 0°	[ 楕円形 ]	0.90 × ( 0.72 )	8	罐斜	平坦	人為	土師器片	
3816B	C 2 e1	N- 0°	楕円形	0.40 × 0.30	36	垂直	皿状	人為	土師器片	
3817	C 4 d2	N- 12°- E	隅丸長方形	1.75 × 0.71	14	罐斜	平坦	人為	土師器片 須惠器片	
3818	C 4 d5	N- 6°- W	隅丸長方形	1.43 × 0.56	30	外傾	皿状	人為	土師器片	
3819	C 4 c5	N- 69°- W	楕円形	1.19 × 1.04	14	罐斜	平坦	自然	磁器片	
3820	C 4 c6	N- 80°- E	楕円形	0.98 × 0.80	24	罐斜	平坦	人為		
3821	C 3 g8	N- 83°- E	不整長方形	1.34 × 0.55	18	罐斜	皿状	人為		
3823	C 3 i7	N- 80°- W	不整長方形	1.64 × 0.71	20	外傾・垂直	平坦	人為	土師器片 須惠器片	
3824	C 3 i7	N- 15°- E	隅丸長方形	1.07 × 0.58	11	罐斜・垂直	平坦	人為		
3825	C 3 j8	N- 0°	板方形	2.62 × 0.96	19	外傾	平坦	自然	土師器片	
3826	D 4 a4	N- 10°- E	不整長方形	1.94 × 0.97	14	外傾	平坦	自然	土師器片	
3827	C 4 j5	N- 75°- W	楕円形	( 1.72 ) × 1.04	20	外傾	平坦	自然		
3828	C 4 j5	N- 8°- E	楕円形	2.51 × 0.80	14	外傾	平坦	不明	縄文土器片 土師器片	
3829	D 4 b4	N- 5°- E	楕円形	1.18 × 0.84	21	外傾	平坦	自然	土師器片	
3830	D 4 a5	N- 11°- E	不整長方形	2.78 × 0.90	18	垂直	平坦	自然	縄文土器片 土師器片	
3831	D 4 a4	N- 10°- E	不定形	( 3.10 ) × ( 0.94 )	22	垂直	平坦	自然	土師器片 須惠器片	
3832	D 4 a4	N- 12°- E	楕円形	2.14 × 0.73	24	外傾	皿状	自然	土師器片 須惠器片	

番号	位置	長軸(径)方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径[m] > 短径[m]	深さ[cm]					
3833	D 4 a4	N- 40°- E	楕円形	1.68 × 0.86	22	垂直	平坦	自然	土師器片	
3834	C 4 a1	N- 12°- E	長方形	1.00 × 0.60	23	外傾	皿状	人為		
3835	C 4 g2	N- 55°- W	楕円形	0.73 × 0.61	35	外傾	皿状	人為	土師器片 須惠器片	
3836	D 4 c6	N- 0°	円形	0.96 × 0.84	22	雑斜	皿状	自然	土師器片	
3837	C 4 h1	N- 0°	円形	0.72 × 0.66	32	外傾	皿状	人為	須惠器片	
3839	C 4 i1	N- 0°	円形	0.72 × 0.70	42	外傾	皿状	不明	土師器片	
3840	C 4 h1	N- 0°	楕円形	0.70 × 0.51	38	外傾	皿状	人為	弥生土器片 土師器片	
3841	C 3 c8	N- 21°- E	不整楕円形	1.38 × 1.04	40	外傾	皿状	自然		
3842	D 4 c5	N- 89°- E	不整楕円形	1.00 × 0.72	28	外傾	皿状	人為	土師器片	
3843	B 4 j1	N- 8°- E	長方形	1.56 × 1.02	36	外傾	平坦	自然		
3851	C 6 j1	N- 76°- W	楕円形	0.61 × 0.47	31	外傾	平坦	人為	土師器片	
3852	C 5 j0	N- 13°- E	長方形	1.92 × 1.42	9-42	垂直・雑斜	平坦	人為	土師器片	
3853	C 5 j9	N- 30°- W	楕円形	1.44 × 0.97	15-42	外傾	平坦	人為	土師器片	
3854	D 5 a9	N- 73°- E	不定形	1.40 × 0.80	29-51	外傾	凹凸	人為		
3855	D 6 b1	N- 0°	円形	0.84 × 0.82	78	外傾	凹凸	人為	土師器片	
3856	C 5 j7	N- 0°	円形	0.37 × 0.35	62	外傾	皿状	不明	弥生土器片 土師器片	
3857	C 5 i9	N- 25°- E	[楕円形]	[1.86] × [1.64]	43-70	垂直	平坦	自然	土師器片	
3858	C 5 j7	N- 90°- E	楕円形	1.04 × 0.95	8-40	外傾・雑斜	平坦	人為	土師器片	
3859	D 5 a8	N- 13°- E	円形	1.58 × [1.44]	28	外傾	皿状	人為	土師器片	
3860	D 5 a8	N- 80°- W	[長方形]	[0.54] × [0.48]	10	外傾	平坦	人為		
3861	D 5 a8	N- 21°- E	[楕円形]	[0.92] × [0.82]	14	外傾	平坦	人為	縄文土器片 土師器片 須惠器片	
3862	C 5 j8	N- 30°- E	[楕円形]	[0.76] × [0.76]	8	雑斜	平坦	自然	土師器片	
3863	C 5 j7	N- 13°- E	長方形	0.75 × 0.63	50	垂直	平坦	人為		
3864	C 5 j7	N- 18°- E	長方形	0.92 × 0.75	34	外傾	平坦	人為	縄文土器片 土師器片	
3865	C 5 j7	N- 29°- W	不定形	0.85 × 0.60	10	雑斜	平坦	人為	須惠器片	
3866	C 5 j7	N- 44°- E	長方形	0.65 × 0.43	60	外傾	皿状	人為	土師器片	
3867	C 5 j7	N- 29°- E	楕円形	0.95 × 0.83	20-74	外傾	皿状	人為		
3868	C 5 j7	N- 57°- E	不明	(0.40) × (0.30)	20	雑斜	皿状	人為		
3869	C 5 j7	N- 30°- E	不定形	(0.40) × 0.31	66	雑斜	皿状	人為		
3870	C 5 j0	N- 90°- E	楕円形	1.01 × 0.90	54	外傾	平坦	人為	土師器片	
3871	C 6 j1	N- 37°- W	不定形	(0.61) × 0.55	74	外傾	平坦	人為	土師器片	
3872	C 5 i6	N- 10°- E	楕円形	0.73 × 0.34	28	外傾	平坦	人為		
3873A	C 5 i7	N- 30°- W	円形	0.32 × 0.26	34	外傾	平坦	人為	土師器片	
3873B	C 5 i7	N- 0°	円形	0.30 × 0.24	24	外傾	平坦	人為	土師器片	
3874	C 5 i7	N- 27°- E	楕円形	0.65 × 0.44	30	外傾	平坦	人為	土師器片	
3875	D 5 a8	N- 74°- W	円形	1.44 × 1.36	10-72	雑斜・垂直	凹凸	人為	縄文土器片 土師器片 須惠器片	
3877	C 5 j8	N- 85°- W	楕円形	1.42 × 1.40	24-36	外傾	凹凸	人為	土師器片	
3878	C 5 i0	N- 30°- E	不定形	(0.86) × 0.84	22-36	外傾	凹凸	人為	土師器片	
3879	C 5 i6	N- 20°- E	不定形	0.57 × 0.45	67	外傾	凹凸	人為	縄文土器片 土師器片	
3880	C 5 j7	N- 0°	不定形	0.55 × 0.35	40	外傾	皿状	人為	土師器片	
3881	C 5 i7	N- 0°	円形	0.38 × 0.35	58	外傾	皿状	人為	土師器片	
3882	C 5 j6	N- 0°	円形	0.38 × 0.35	46	外傾	平坦	人為	土師器片	
3883	C 5 j6	N- 43°- E	楕円形	0.35 × 0.29	14	外傾	平坦	人為	人為	
3884	C 5 i7	N- 0°	円形	0.33 × 0.32	18	外傾	皿状	人為		

番号	位置	長軸(径)方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径[m] > 短径[m]	深さ[cm]					
3885	C 5 j 0	N- 0°	円形	1.17 × 1.17	54	繖斜	皿状	人為	土師器片	
3886	C 5 h 7	N- 0°	円形	0.35 × 0.34	20	外傾	皿状	自然		
3887	C 5 h 7	N- 63°- W	円形	0.34 × 0.30	42	外傾	皿状	人為	土師器片	
3888	C 5 h 7	N- 86°- E	楕円形	0.44 × 0.40	72	垂直	平坦	人為		
3889	C 5 h 8	N- 38°- E	不定形	0.50 × 0.24	14-45	垂直	凹凸	人為		
3890	C 5 j 6	N- 30°- E	楕円形	0.88 × 0.41	45	垂直	平坦	人為	土師器片	
3891	D 6 b 1	N- 80°- W	楕円形	1.06 × 0.87	44	外傾	平坦	人為	土師器片	
3892	C 5 h 7	N- 64°- E	楕円形	0.40 × 0.38	46	外傾	皿状	人為	土師器片 須惠器片	
3894	C 5 i 6	N- 0°	円形	0.31 × 0.30	46	外傾	皿状	人為		
3895	C 5 i 6	N- 40°- W	楕円形	0.35 × 0.31	38	外傾	皿状	人為		
3896	C 5 i 6	N- 0°	[円形]	0.42 × (0.31)	61	外傾	皿状	人為		
3897	C 5 i 6	N- 0°	円形	0.27 × 0.26	24	外傾	皿状	人為		
3898	C 5 i 6	N- 0°	[円形]	0.35 × (0.22)	37	外傾	皿状	人為		
3899	C 5 i 7	N- 0°	円形	0.65 × 0.60	32	繖斜	皿状	人為	土師器片	
3900	C 5 i 7	N- 0°	円形	0.40 × 0.37	54	外傾	皿状	人為		
3901	C 5 i 6	N- 0°	円形	0.35 × 0.33	43	外傾	皿状	人為		
3902	C 5 i 6	N- 0°	円形	0.33 × 0.32	34	外傾	皿状	人為		
3903	C 5 i 6	N- 10°- E	楕円形	0.49 × 0.38	22	繖斜	皿状	人為	土師器片	
3904A	C 5 i 7	N- 90°- E	円形	0.27 × 0.26	61	垂直	皿状	人為		
3904B	C 5 i 6	N- 90°- E	円形	0.31 × 0.29	21	外傾	皿状	人為		
3905	C 6 j 2	N- 0°	[円形]	(0.55) × (0.45)	50	外傾	平坦	人為	土師器片 須惠器片	
3907	C 5 i 5	N- 90°- E	長方形	0.94 × 0.72	38	外傾	平坦	人為	土師器片	
3908	C 5 h 7	N- 30°- E	円形	1.10 × 1.00	36	垂直・繖斜	凹凸	人為	土師器片	
3909	C 5 g 5	N- 0°	円形	0.97 × 0.96	26	垂直	平坦	人為	土師器片	
3910	C 5 g 5	N- 0°	楕円形	0.45 × [0.40]	24	外傾	凹凸	人為		
3911	D 5 a 8	N- 60°- W	不定形	0.52 × 0.48	56	外傾	凹凸	人為		
3912	C 5 f 3	N- 17°- E	長方形	1.73 × 0.90	13	繖斜	平坦	自然		
3914	D 6 b 1	N- 87°- W	隅丸長方形	1.74 × 0.71	14	繖斜	平坦	人為	土師器片	
3915	C 5 i 5	N- 0°	長方形	0.34 × 0.20	28	垂直	凹凸	人為		
3916	C 5 i 5	N- 55°- E	不定形	0.48 × 0.37	49	外傾	皿状	人為		
3918	D 6 a 1	N- 0°	楕円形	0.62 × 0.54	49	外傾	皿状	人為	土師器片	
3920A	C 5 g 5	N- 0°	円形	1.12 × 1.08	14	外傾	平坦	人為	土師器片	
3920B	C 5 g 5	N- 0°	[円形]	0.18 × (0.10)	38	垂直	皿状	人為	土師器片	
3921	D 5 a 9	N- 10°- E	楕円形	1.08 × 0.78	25	外傾	皿状	人為	土師器片 須惠器片	
3922	C 5 i 2	N- 80°- W	[楕円形]	(0.34) × (0.32)	10	外傾	平坦	人為	須惠器片	
3923	D 6 b 1	N- 82°- W	楕円形	0.73 × 0.64	89	外傾	凹凸	人為	土師器片	
3924	D 6 a 1	N- 0°	楕円形	0.82 × 0.78	61	外傾	平坦	人為	土師器片	
3925	D 5 a 4	N- 85°- W	長方形	1.16 × 0.80	46	外傾	平坦	人為	土師器片 須惠器片	
3926	D 5 a 4	N- 85°- E	不正長方形	2.85 × 2.12	38	外傾	凹凸	自然	縄文土器片 弥生土器片 土師器片 須惠器片	
3927	C 5 g 5	N- 28°- W	[円形]	0.18 × (0.08)	30	垂直	皿状	人為	土師器片 須惠器片	
3928	C 5 g 6	N- 29°- W	[円形]	0.22 × (0.12)	28	垂直	皿状	人為		
3929	C 5 g 6	N- 28°- W	[楕円形]	0.40 × (0.25)	42	外傾	平坦	人為		
3930	C 5 j 4	N- 40°- E	円形	0.41 × 0.32	35	外傾	皿状	人為		
3931	D 5 a 4	N- 73°- W	長方形	1.16 × 1.22	22	外傾	平坦	人為	土師器片 須惠器片	

番号	位置	長軸(径)方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径[m] > 短径[m]	深さ[cm]					
3932	D 5 a3	N- 64°- W	楕円形	1.14 × 0.96	22	外傾	皿状	人為	土師器片	
3933	C 5 i1	N- 0°	円形	0.62 × 0.60	22	外傾	皿状	人為	土師器片 須恵器片	
3936	C 5 h5	N- 0°	楕円形	0.48 × 0.33	24	外傾	平坦	人為		
3937	C 5 h5	N- 0°	円形	0.42 × 0.42	28	外傾	皿状	人為		
3938	C 5 h5	N- 19°- E	楕円形	0.46 × 0.34	30	外傾	皿状	人為		
3939	C 5 h5	N- 0°	円形	0.38 × 0.35	22	外傾	平坦	人為		
3940	C 5 h5	N- 0°	円形	0.32 × 0.28	49	外傾	平坦	人為		
3941	C 5 h5	N- 10°- E	楕円形	0.40 × 0.28	22	外傾	皿状	人為		
3942	C 5 h5	N- 60°- W	楕円形	0.58 × 0.45	53	外傾	皿状	人為	土師器片	
3943	C 5 h5	N- 10°- E	楕円形	0.64 × 0.42	51	外傾	皿状	人為	土師器片	
3944	C 5 h6	N- 80°- W	楕円形	0.62 × 0.30	12	外傾	平坦	不明		
3945	C 5 h6	N- 90°- E	楕円形	0.51 × 0.44	34	外傾	平坦	人為		
3946	C 5 h6	N- 23°- E	楕円形	0.48 × 0.32	32	外傾	皿状	人為		
3947	C 5 h6	N- 16°- E	楕円形	0.76 × 0.52	22	外傾	皿状	人為		
3948	C 5 h6	N- 0°	円形	0.32 × 0.30	48	外傾	平坦	人為		
3949	C 5 h6	N- 71°- W	楕円形	0.83 × 0.63	18	外傾	平坦	人為		
3950	C 5 h5	N- 10°- W	楕円形	0.48 × 0.30	22	外傾	平坦	人為		
3951	C 5 h5	N- 78°- W	楕円形	0.74 × 0.61	57	外傾	凹凸	-	土師器片	
3952	C 5 h6	N- 80°- W	楕円形	0.59 × 0.46	13	外傾	平坦	人為		
3953	C 5 h6	N- 40°- E	楕円形	0.38 × 0.33	54	外傾	皿状	人為		
3954	C 5 h6	N- 0°	円形	0.40 × 0.38	30	外傾	皿状	人為		
3955	C 5 h6	N- 10°- E	楕円形	0.66 × 0.58	58	外傾	皿状	人為		
3956	C 5 g6	N- 71°- W	不定形	0.73 × (0.44)	54	垂直	凹凸	人為		
3957	C 5 h6	N- 0°	円形	0.43 × 0.40	39	外傾	皿状	人為	土師器片	
3958	C 5 h6	N- 0°	楕円形	0.77 × 0.61	75	外傾	皿状	-		
3959	C 5 g6	N- 0°	楕円形	0.72 × 0.60	10	外傾	平坦	人為		
3960	C 5 g6	N- 0°	円形	0.43 × 0.41	39	外傾	皿状	人為		
3968	C 5 i6	N- 85°- W	楕円形	0.82 × 0.60	46-78	垂直	平坦	人為	土師器片	
3969	C 5 h5	N- 83°- E	長方形	1.54 × 0.80	60	垂直	平坦	人為	土師器片 須恵器片	
3970	C 5 j6	N- 7°- E	不定形	1.05 × 0.40	34	外傾	平坦	人為		
3971	C 5 j6	N- 78°- W	不定形	0.97 × 0.47	33	罐斜	皿状	人為		
3972	C 5 j6	N- 0°	不定形	1.54 × 0.80	10-22	罐斜	凹凸	人為		
3973	C 5 j5	N- 8°- E	長方形	1.20 × 1.10	30	外傾	平坦	自然		
3974	C 5 j5	N- 69°- E	長方形	1.05 × 0.90	10	罐斜	平坦	自然		
3975	C 5 j4	N- 85°- W	楕円形	0.94 × 0.80	27-48	罐斜	凹凸	人為	土師器片	
3976	C 5 j7	N- 23°- W	楕円形	0.60 × 0.56	46	不明	凹凸	-		
3977	A 1 c7	N- 0°	円形	0.52 × 0.52	28	垂直	皿状	不明		

(7) 溝跡

第66号溝跡 (第345図・付図)

位置 西部3区西区のA1h6 - A1i6区で、標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第3588・3587号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 A1h6区から南方向(N-3°-E)へ直線的に延びている。長さは3.22mで、上幅0.63~0.73m、下幅0.35~0.46m、深さ18cmである。底面は平坦で断面形は血状である。壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 2層に分層される。ブロック状の堆積状況を呈しており、人為堆積と考えられる。

土層解説

1 暗褐色 ロームブロック少量

2 褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片11点(坏1, 椀10)が出土している。いずれも細片で、埋め戻す際に混入したものと考えられる。

所見 時期は、出土土器が混入したものであり、不明である。



第345図 第66号溝跡実測図

第67号溝跡 (第346図・付図)

位置 西部3区西部のA1g7 - A1g8区で、標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第310・311・330号住居跡を掘り込み、第3605・3609号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 A1g8区から西方向(N-81°-W)へ直線的に延び、西部・東部は削平されているため、確認できた長さは6.30mで、上幅0.54~0.87m、下幅0.30~0.50m、深さ14cmである。底面は平坦で、断面形はU字状である。壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 単一層であり、ロームブロックが含まれている状況から、人為堆積と考えられる。

土層解説

1 暗褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片10点(坏2, 椀8)が出土しているが、いずれも細片のため図示できない。また、流れ込んだ弥生土器片4点も出土している。

所見 時期は、平安時代の住居跡を掘り込んでいるが、詳細は不明である。



第346図 第67号溝跡実測図



#### 第68号溝跡（第347図・付図）

位置 西部3区東部のA2 d3 - A2 g3区で、標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第319・322・341号住居跡、第69号溝跡を掘り込み、第3633号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 A2 g3区から北方向（N-5°-W）へ直線的に延び、A2 d3区で東方向（N-30°-E）に屈曲し、調査区域外に延びているため、全体は不明である。確認できた長さは13.20mで、上幅0.80-1.04m、下幅0.32-0.40m、深さ32cmである。底面は皿状で、断面形はU字状である。壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 4層に分層される。ブロック状に堆積した様相から、人為堆積と考えられる。

##### 土層解説

- |                 |                 |
|-----------------|-----------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子少量   | 3 暗褐色 ローム粒子少量   |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量 | 4 暗褐色 ロームブロック微量 |

遺物出土状況 土師器片50点（環10，高環1，襷39），須恵器片1点（蓋）が出土している。いずれも細片のため図示できない。また、流れ込んだ弥生土器片1点，石器1点（砥石）も出土している。

所見 時期は、重複関係から中世以降と考えられるが、詳細は不明である。



第347図 第68・69号溝跡実測図

#### 第69号溝跡（第347図・付図）

位置 西部3区東部のA2 c1 - A2 g3区で、標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第321・322・334号住居跡を掘り込み、第68号溝、第3682・3718号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 A2 g3区から北方向（N-5°-E）へほぼ直線的に延び、A2 c3区で西方向（N-80°-W）へ屈曲している。確認できた長さは20.80mで、上幅0.64-1.20m、下幅0.32-0.48m、深さ28cmである。底面は皿状で、断面形はU字状である。壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 5層に分層される。ブロック状に堆積した様相から、人為堆積と考えられる。

##### 土層解説

- |                 |                 |
|-----------------|-----------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック少量 | 4 暗褐色 ロームブロック微量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量 | 5 褐色 ロームブロック中量  |
| 3 褐色 ローム粒子微量    |                 |

遺物出土状況 土師器片52点（環7，高環3，襷42），土師質土器片2点（内耳鍋）が出土している。いずれも細片のため図示できない。また、流れ込んだ弥生土器片3点も出土している。

所見 時期は、重複関係及び出土土器から中世以降と考えられるが、詳細は不明である。

### 第70号溝跡（第348図・付図）

位置 西部3区東部のA 1 a9 - A 2 a2区で、標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第337・339・340号住居跡、第3666号土坑を掘り込み、第3647号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 A 2 a2区から西方向（N-87°-E）へ直線的に延び、さらに調査区域外へと続いているため、全体は不明である。確認できた長さは12.60mで、上幅0.80m、下幅0.24-0.44m、深さ22cmである。底面は皿状で、断面形はU字状である。壁は外傾して立ち上がっている。

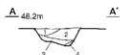
覆土 4層に分層される。ブロック状に堆積した様相から、人為堆積と考えられる。

#### 土層解説

- |       |         |       |           |
|-------|---------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子微量 | 3 暗褐色 | ローム粒子少量   |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量 | 4 黒褐色 | ロームブロック少量 |

遺物出土状況 土師器片46点（坏6，高坏1，甕37，高台付坏2）が出土しているが、いずれも細片であり、図示できない。また、流れ込んだ弥生土器片3点も出土している。

所見 時期は、重複関係から平安時代以降と考えられるが、詳細は不明である。



第348図 第70号溝跡実測図

### 第71号溝跡（第349図・付図）

位置 西部4区西部のB 2 c6 - B 2 h6区で、標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第141・383号住居跡を掘り込んでいる。第1号道路跡が上面に確認されている。

規模と形状 B 2 h6区から北東方向（N-5°-E）へ直線的に延び、さらに調査区域外へと続いているため、全体は不明である。確認できた長さは20.40mで、上幅2.80m、下幅0.35-0.50m、深さ80cmである。底面は平坦で、断面形は逆台形状である。壁は緩やかに立ち上がっている。

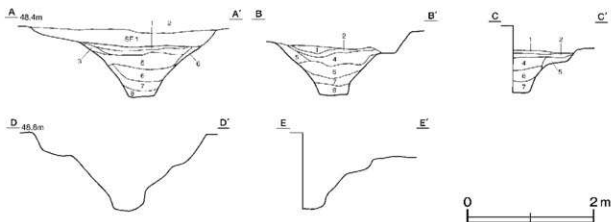
覆土 8層に分層される。ロームブロックや鹿沼バミスブロックを含んでおり、人為堆積と考えられる。

#### 土層解説

- |       |           |       |                       |
|-------|-----------|-------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量   | 5 暗褐色 | ロームブロック少量             |
| 2 黒褐色 | ロームブロック微量 | 6 暗褐色 | ローム粒子微量               |
| 3 暗褐色 | ロームブロック微量 | 7 暗褐色 | ローム粒子・鹿沼バミス粒子微量       |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量 | 8 暗褐色 | 鹿沼バミスブロック少量、ロームブロック微量 |

遺物出土状況 土師器片200点（坏18，高坏3，鉢2，甕177），須恵器片24（坏9，蓋1，甕14），弥生土器片1点，石器1点（磨石），土製品1点（支脚）が出土している。土器片は、流れ込んだものと考えられる。

所見 時期は、重複関係から第1号道路跡が使用された以前と推測されるが、詳細は不明である。



第349図 第71号溝跡実測図

第72号溝跡 (第350図・付図)

位置 西部4区西部のB 2 e7 - B 2 g9区で、標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第349号住居跡、第3683・3688・3703号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 B 2 g9区から西方向(N-75°-W)へほぼ直線的に延び、B 2 g8区で北方向(N-0°)に屈曲し、そのまま調査区域外に延びているため、全体は不明である。確認できた長さは15.40mで、上幅0.38-0.48m、下幅0.20-0.36m、深さ20cmである。底面は平坦で、断面形はU字状である。壁は外傾して立ち上がっている。

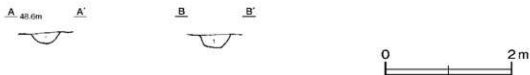
覆土 単一層であり、ロームブロックを含んだ様相から、人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量

遺物出土状況 土師器片94点(坏25,高坏6,横63),須恵器片6点(坏3,高台付坏1,横2)が出土しているが、いずれも細片のため図示できない。また、流れ込んだ弥生土器片4点も出土している。

所見 時期は、平安時代の住居跡を掘り込んでいるが、詳細は不明である。



第350図 第72号溝跡実測図

第75号溝跡 (第351図・付図)

位置 西部4区西部のB 3 h9 - B 3 j9区で、標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 B 3 j9区から北方向(N-13°-W)へ直線的に延び、さらに調査区域外へと続いているため、全体は不明である。確認できた長さは8.06mで、上幅1.94m、下幅1.40-1.62m、深さ20-40cmである。底面は凹凸があり、断面形はU字状である。壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 2層に分層される。ブロック状に堆積した様相から、人為堆積と考えられる。

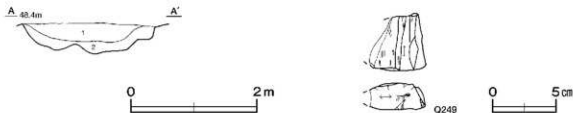
土層解説

1 黒褐色 ロームブロック少量

2 極暗褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片40点(坏8, 高台付坏1, 襖30, 搦鉢1), 須恵器片5点(高台付坏1, 襖4), 陶器片3点(碗), 石器1点(砥石), 鉄滓1点が出土している。Q249は覆土中から出土している。

所見 時期は, 出土土器が細片であるため不明である。



第351図 第75号溝跡・出土遺物実測図

第75号溝跡出土遺物観察表(第351図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q249	砥石	4.5	(4.4)	2.0	(35.5)	凝灰岩	砥面2面 刃跡有	覆土中	PL87

#### 第77号溝跡(第352図・付図)

位置 西部4区中央部のC3h9-D4a9区で, 標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第386号住居跡, 第81号溝跡を掘り込み, 第112-118号井戸, 第3839号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 D4a9区から西方向(N-80°-W)へ直線的に延びている。確認できた長さは41.50mで, 上幅1.52-3.00m, 下幅0.23-0.66m, 深さ41cmである。底面は皿状で, 断面形はU字状である。壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 9層に分層される。ブロック状に堆積した様相から, 人為堆積と考えられる。

土層解説

1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量

6 暗褐色 ロームブロック微量

2 黒褐色 ロームブロック微量

7 極暗褐色 ローム粒子少量

3 極暗褐色 ロームブロック少量

8 極暗褐色 ロームブロック微量

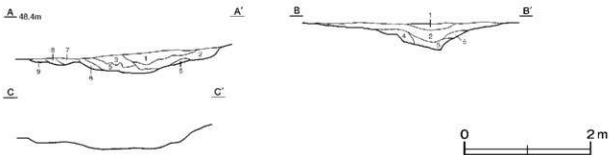
4 暗褐色 ロームブロック中量

9 極暗褐色 ローム粒子微量

5 暗褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片270点(坏34, 高坏13, 襖213, 高台付坏10), 須恵器片43点(坏16, 高台付坏1, 盤1, 襖25), 陶器片4点(常滑), 土師質土器片1点(内耳鍋), 瓦質土器片1点(出土している。いずれも細片のため図示できない。また, 流れ込んだ縄文土器片7点, 弥生土器片3点, 鉄滓2点も出土している。

所見 時期は, 重複関係から中世以降と考えられる。



第352図 第77号溝跡実測図

第79号溝跡 (第353図・付図)

位置 西部4区東部のC4h0 - D4g0区で、標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第415 - 417・419号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 D4g0区から北方向(N-8°-E)に直線的に延びている。確認できた長さは34.60mで、上幅3.68m、下幅0.51 - 1.79m、深さ150cmである。底面は凹凸で、断面形は逆台形状である。壁は外傾して立ち上がっている。

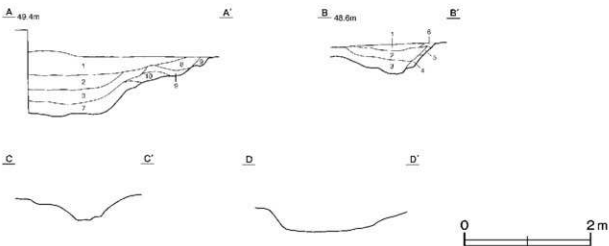
覆土 10層に分層される。第1 - 3層は周囲から土砂が流入した様相から、自然堆積と考えられる。第4 - 6層はブロック状に不規則に堆積した様相から、人為堆積と考えられる。

土層解説

- |        |                     |        |                     |
|--------|---------------------|--------|---------------------|
| 1 黒 褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量   | 6 暗 褐色 | ロームブロック少量           |
| 2 黒 褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 暗 褐色 | ロームブロック中量           |
| 3 黒    | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 黒 褐色 | ローム粒子少量、炭化物・焼土粒子微量  |
| 4 黒 褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量    | 9 暗 褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 5 暗 褐色 | ローム粒子少量             | 10 褐 色 | ローム粒子少量、粘土ブロック微量    |

遺物出土状況 縄文土器片72点、土師器片694点(坏641、高坏6、高台付坏1、皿1、椀4、甕2、不明1)、須恵器片44点(坏21、高台付坏1、蓋1、椀21)、土師質土器片4点(小皿2、内耳鍋2)、陶器片2点(椀)、不明土製品1点、礎9点が出土している。いずれも細片で、埋め戻す際の混入と考えられる。

所見 時期は、平安時代の住居跡を掘り込んでいるが、詳細は不明である。



第353図 第79号溝跡実測図

表15 その他の時代の溝跡一覧表

番号	位置	主軸方向	形状	規模				断面	底面	覆土	出土遺物	備考 (時期)
				長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)	深さ(cm)					
66	A 1 h6 - A 1 i6	N- 3°- E	直線	(3.22)	0.63 - 0.73	0.35 - 0.46	18	皿状	平坦	人為	土師器片	
67	A 1 g7 - A 1 g8	N- 81°- W	直線	(6.30)	0.54 - 0.87	0.30 - 0.50	14	U字状	平坦	人為	弥生土器片 土師器片	
68	A 2 d3 - A 2 g3	N- 5°- W	直線	(13.20)	0.80 - 1.04	0.32 - 0.40	32	U字状	皿状	人為	弥生土器片 土師器片 須恵器片 石器	
69	A 2 c 1 - A 2 g3	N- 5°- E N- 80°- W	L字状	(20.80)	0.64 - 1.20	0.32 - 0.48	28	U字状	皿状	人為	弥生土器片 土師器片 土師質土器片	
70	A 1 a9 - A 2 a2	N- 87°- E	直線	(12.60)	0.80	0.24 - 0.44	22	U字状	皿状	人為	弥生土器片 土師器片	
71	B 2 c6 - B 2 h6	N- 5°- E	直線	(20.40)	2.80	0.35 - 0.50	80	逆台形	平坦	人為	弥生土器片 土師器片 須恵器片 石器	
72	B 2 e7 - B 2 g9	N- 75°- W N- 0°	L字状	(15.40)	0.38 - 0.48	0.20 - 0.36	20	U字状	平坦	人為	弥生土器片 土師器片 須恵器片 石器	
75	B 3 h9 - B 3 J9	N- 13°- E	直線	(8.06)	1.94	1.40 - 1.62	40	U字状	凹凸	人為	土師器片 須恵器片 陶器片	
77	C 3 h9 - D 4 a9	N- 80°- W	直線	(41.50)	1.52 - 3.00	0.23 - 0.66	41	U字状	皿状	人為	縄文土器 弥生土器片 土師器片 須恵器片 陶器片	
79	C 4 h0 - D 4 g0	N- 8°- E	直線	(34.60)	3.68	0.51 - 1.79	150	逆台形	凹凸	人為	縄文土器 土師器片 須恵器片 土師質土器片 陶器片	

## (8) ビット群

ビットの集中地点が5か所確認されている。ビットの配列に規則性が認められないことから、性格を明らかにすることができなかった。以下、ビット群として記述し、各ビットの規模などをまとめた表を併せて記載する。

## 第31号ビット群 (第354図)

位置 西部3区西区のA 1 f4 - B 1 a6 区で、標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第3594・3603号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 南北7.4m、東西8.0mの範囲に19か所のビットが確認された。最大のものは長さ66cm、短径44cmの楕円形で、最小のものは径30cmほどの円形である。深さは33-92cmである。

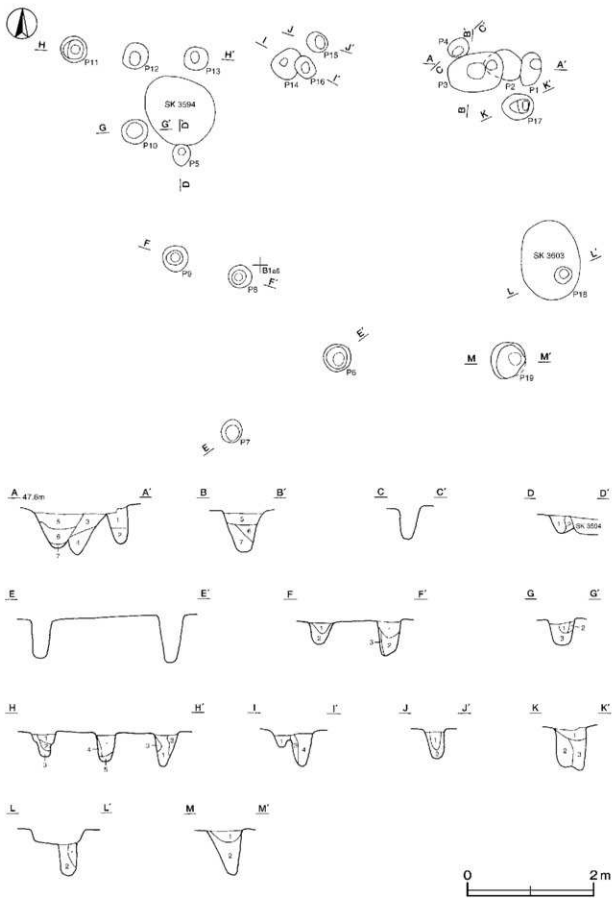
覆土 7層に分層される。柱痕跡や柱抜き取り痕跡は確認できなかった。

## 土層解説

1 暗褐色	ロームブロック少量	5 褐色	ロームブロック微量
2 暗褐色	ロームブロック微量	6 暗褐色	ローム粒子少量
3 褐色	ロームブロック少量	7 褐色	ローム粒子微量
4 暗褐色	ロームブロック少量		

遺物出土状況 縄文土器片1点、弥生土器片1点、土師器片31点(坏1, 高坏1, 椀29), 須恵器片3点(坏2, 蓋1)が出土している。いずれも細片で、混入したものと考えられる。

所見 各ビット間に配列の規則性がなく、建物跡を想定できなかったため、性格不明のビット群とした。時期は、出土土器がいずれも混入であり、重複関係及び周囲の遺構との関連からも不明である。



第354図 第31号ビット群実測図

第31号ビット群計測表 (第354図)

番号	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	番号	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	番号	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)
P 1	52	30	56	P 8	36	36	61	P 15	34	30	50
P 2	50	(28)	66	P 9	40	40	51	P 16	38	28	62
P 3	92	66	54	P 10	40	40	68	P 17	50	40	73
P 4	36	26	49	P 11	40	40	42	P 18	30	30	75
P 5	36	28	42	P 12	40	38	56	P 19	30	30	75
P 6	44	44	86	P 13	40	38	56				
P 7	36	32	60	P 14	50	42	33				

第33号ビット群 (第355図)

位置 西部4区西部のB3f1 - B3h2区で、標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 南北8m、東西5mの範囲に35か所のビットが確認された。最大のものは長径80cm、短径62cmの楕円形及び、最小のものは径18cmほどの円形で、深さは8 - 77cmである。

覆土 21層に分層される。柱痕跡や柱抜き取り痕跡は確認できなかった。

土層解説

- |        |                       |         |                         |
|--------|-----------------------|---------|-------------------------|
| 1 黒褐色  | ロームブロック少量             | 12 暗褐色  | ロームブロック微量               |
| 2 暗褐色  | ローム粒子微量               | 13 黒褐色  | ローム粒子・白色粒子微量            |
| 3 黒褐色  | ロームブロック少量、焼土粒子微量      | 14 黒褐色  | ローム粒子中量、焼土粒子微量          |
| 4 黒褐色  | ローム粒子少量、焼土ブロック・白色粒子微量 | 15 黒褐色  | ローム粒子・焼土粒子微量            |
| 5 黒褐色  | ローム粒子少量               | 16 暗褐色  | ロームブロック・焼土粒子・白色粒子微量     |
| 6 暗褐色  | ロームブロック少量、焼土粒子微量      | 17 暗褐色  | ロームブロック・炭化物・焼土粒子・白色粒子微量 |
| 7 極暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量      | 18 極暗褐色 | ローム粒子少量、白色粒子微量          |
| 8 暗褐色  | ロームブロック中量             | 19 褐色   | ロームブロック少量               |
| 9 黒褐色  | ロームブロック微量             | 20 極暗褐色 | ロームブロック少量               |
| 10 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量      | 21 黒褐色  | ローム粒子中量                 |
| 11 黒褐色 | ロームブロック中量             |         |                         |

遺物出土状況 弥生土器片1点、土師器片23点(坏4, 甕19), 須恵器片5点(坏3, 蓋2)が出土している。

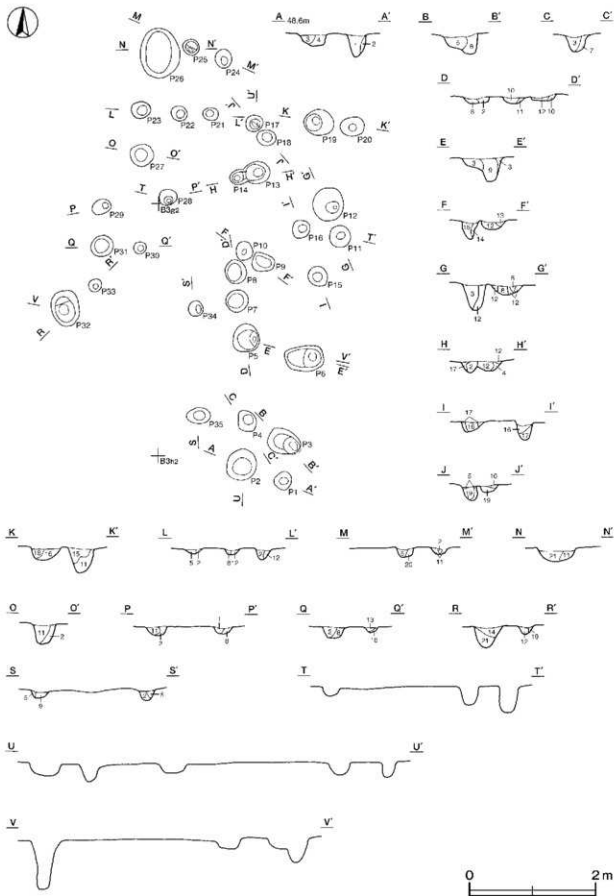
いずれも細片で、混入したものと考えられる。

所見 各ビット間に配列の規則性がなく、建物跡を想定できなかったため、性格不明のビット群とした。時期は、出土土器がいずれも混入で、重複関係や周囲の遺構との関連からも不明である。

第33号ビット群計測表 (第355図)

番号	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	番号	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	番号	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)
P 1	30	28	41	P 13	40	34	19	P 25	24	22	14
P 2	50	46	20	P 14	24	24	19	P 26	80	62	23
P 3	52	40	34	P 15	34	30	11	P 27	36	36	35
P 4	34	30	26	P 16	30	26	28	P 28	38	36	15
P 5	44	40	24	P 17	28	26	25	P 29	32	24	17
P 6	60	40	40	P 18	30	24	10	P 30	18	18	12
P 7	36	34	12	P 19	46	38	25	P 31	36	32	23
P 8	38	34	8	P 20	38	30	36	P 32	56	42	77
P 9	56	28	14	P 21	24	20	15	P 33	20	18	17
P 10	30	28	31	P 22	26	24	9	P 34	24	22	16
P 11	38	34	43	P 23	30	26	10	P 35	40	26	16
P 12	52	48	36	P 24	30	24	14				





第355図 第33号ピット群実測図

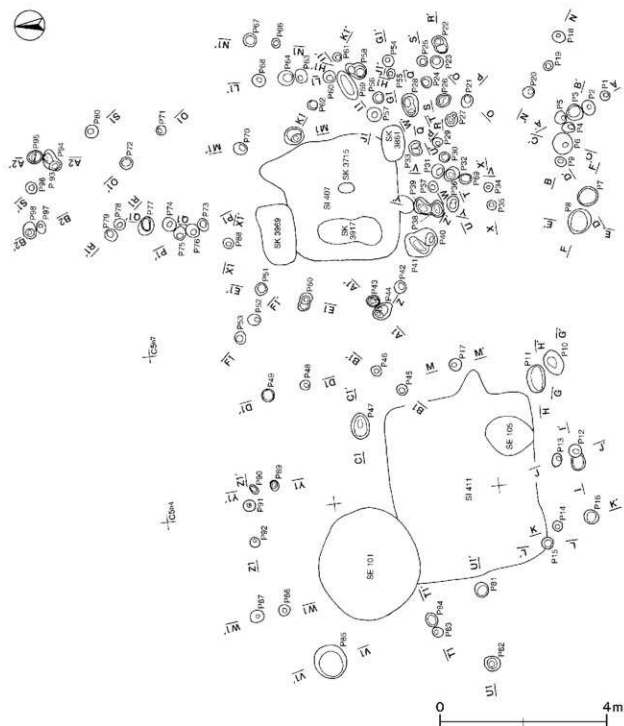
第34号ビット群 (第356図)

位置 西部4区東部のC5g5 - C5j6区で、標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第411号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 南北15.9m、東西15.6mの範囲に98か所のビットが確認された。最大のは長径78cm、短径34cmで、最小のものは径20cmの円形である。深さは10 - 84cmである。

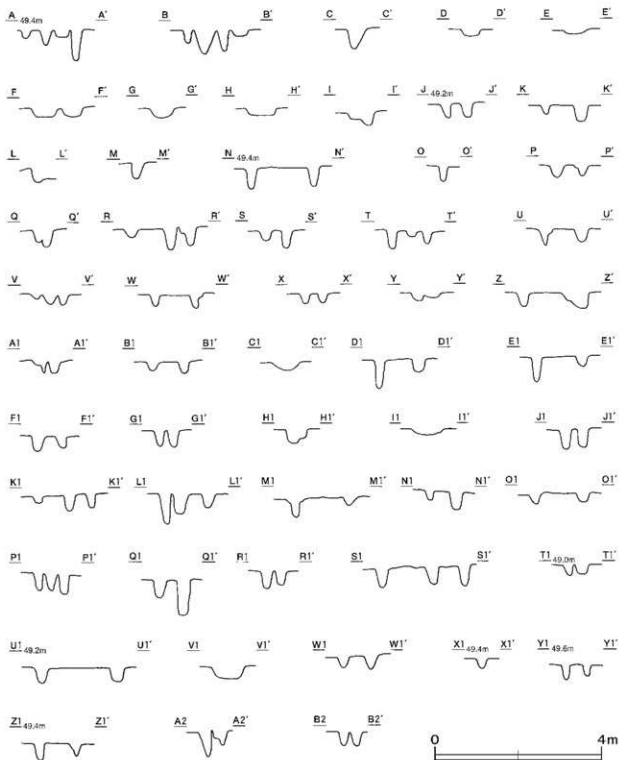
覆土 柱痕跡や柱抜き取り痕跡は確認できず、暗褐色土で崩まりが弱い。



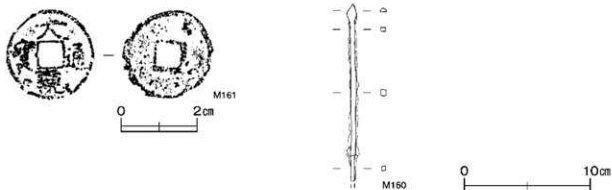
第356図 第34号ビット群実測図(1)

遺物出土状況 縄文土器片1点，土師器片32点（坏4，礎28），須恵器片5点（坏）が出土している。いずれも細片で，混入したものと考えられる。

所見 各ピット間に配列の規則性がなく，建物跡を想定できなかったため，性格不明のピット群とした。時期は，出土土器がいずれも混入で，重複関係や周囲の遺構との関連からも不明である。



第357図 第34号ピット群実測図(2)



第358図 第34号ピット群出土遺物実測図

第34号ピット群遺物観察表 (第358図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M160	鏝	〈14.00〉	1.00	0.46	〈10.00〉	鉄	断面方形の棒状	覆土中	PL90

番号	銭名	径	孔	厚さ	重さ	初鋳年	材質	特徴	出土位置	備考
M161	大観造貨	2.45	0.63	0.15	2.32	1107	銅	真書	覆土中	PL90

第34号ピット群集計表 (第356図)

番号	長さ (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	番号	長さ (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	番号	長さ (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)
P 1	24	20	20	P 26	38	32	18	P 51	30	26	22
P 2	34	30	40	P 27	32	30	24	P 52	30	24	28
P 3	40	36	16	P 28	54	30	40	P 53	28	26	36
P 4	32	24	50	P 29	25	23	30	P 54	28	26	38
P 5	28	32	70	P 30	24	22	14	P 55	24	20	36
P 6	54	46	48	P 31	22	22	30	P 56	28	26	42
P 7	48	46	16	P 32	38	30	44	P 57	34	32	46
P 8	62	54	10	P 33	34	24	30	P 58	50	36	30
P 9	26	22	32	P 34	22	22	20	P 59	78	34	12
P 10	64	42	22	P 35	22	22	22	P 60	32	28	40
P 11	66	40	16	P 36	36	28	40	P 61	20	20	34
P 12	61	34	28	P 37	24	20	26	P 62	22	20	16
P 13	34	22	34	P 38	40	36	18	P 63	34	28	72
P 14	26	24	22	P 39	44	24	14	P 64	40	36	48
P 15	28	26	32	P 40	50	40	38	P 65	46	40	42
P 16	36	34	40	P 41	70	44	18	P 66	24	20	20
P 17	30	30	38	P 42	32	28	32	P 67	34	30	44
P 18	30	24	48	P 43	30	24	30	P 68	30	28	32
P 19	26	20	23	P 44	48	34	30	P 69	28	24	10
P 20	28	26	46	P 45	28	26	20	P 70	32	28	20
P 21	34	28	28	P 46	24	24	30	P 71	26	22	26
P 22	44	32	44	P 47	62	42	16	P 72	30	30	22
P 23	32	30	52	P 48	24	22	68	P 73	30	24	44
P 24	28	26	24	P 49	30	30	30	P 74	36	32	42
P 25	26	24	44	P 50	30	24	48	P 75	34	30	48

番号	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	番号	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	番号	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)
P76	36	30	40	P84	36	30	24	P92	34	34	40
P77	46	34	84	P85	80	76	30	P93	30	22	40
P78	28	26	40	P86	28	26	34	P94	40	30	60
P79	30	26	30	P87	34	30	34	P95	34	30	34
P80	30	30	44	P88	26	24	24	P96	28	28	50
P81	34	30	32	P89	22	20	34	P97	28	22	34
P82	40	36	39	P90	26	14	26	P98	40	32	34
P83	28	22	26	P91	28	30	26				

### 第35号ピット群 (第359図)

位置 西部4区中央部のC4c5～C4d7区で、標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 南北6.0m,東西8.4mの範囲に21か所のピットが確認された。最大のものは径50cmのほぼ円形で、最小のものは長径20cm,短径16cmの楕円形である。深さは12～52cmである。

覆土 6層に分層される。柱痕跡や柱抜き取り痕跡は確認できなかった。

#### 土層解説

- |         |           |         |                  |
|---------|-----------|---------|------------------|
| 1 暗褐色   | ロームブロック少量 | 4 黒褐色   | ロームブロック少量,炭化粒子微量 |
| 2 褐色    | ロームブロック少量 | 5 暗褐色   | ローム粒子中量          |
| 3 にぶい褐色 | ロームブロック中量 | 6 にぶい褐色 | ロームブロック少量        |

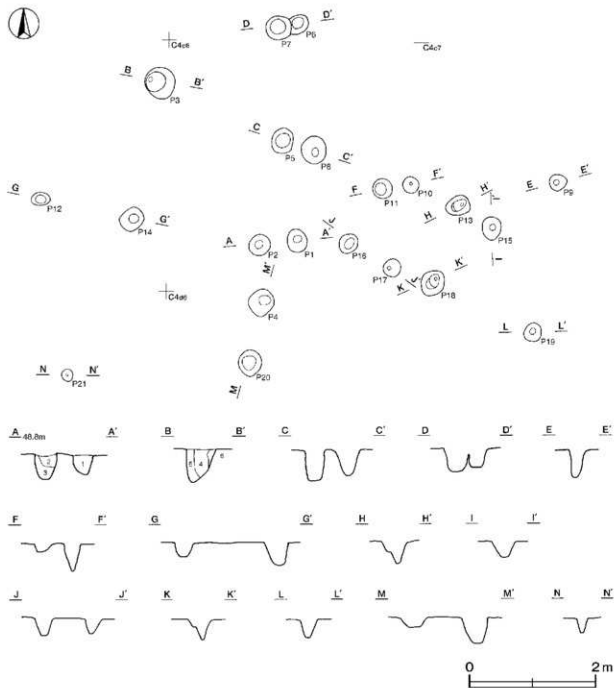
遺物出土状況 弥生土器片1点,土師器片23点(坏4,甕19),須恵器片5点(坏3,蓋2)が出土している。

いずれも細片で、混入したものと考えられる。

所見 各ピット間に配列の規則性がなく、建物跡を想定できなかったため、性格不明のピット群とした。時期は、出土土器がいずれも混入で、重複関係や周囲の遺構との関連からも不明である。

### 第35号ピット群集計表 (第359図)

番号	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	番号	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	番号	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)
P 1	36	30	32	P 8	42	40	40	P 15	38	30	24
P 2	34	34	42	P 9	28	26	42	P 16	30	30	28
P 3	50	42	52	P 10	26	24	42	P 17	30	28	24
P 4	42	40	42	P 11	30	30	12	P 18	40	36	34
P 5	40	34	50	P 12	30	22	22	P 19	28	28	29
P 6	30	28	32	P 13	38	30	34	P 20	42	36	16
P 7	40	38	38	P 14	38	32	36	P 21	20	16	24



第359図 第35号ビット群実測図

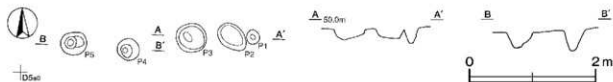
### 第36号ビット群（第360図）

位置 西部4区中央部のC 5 j0 区で、標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 南北0.8m、東西3.2mの範囲に5か所のビットが確認された。最大のものは長径50cm、短径36cmの楕円形で、最小のものは径24cmのほぼ円形で、深さは14～32cmである。

覆土 柱痕跡や柱抜き取り痕跡は確認できず、暗褐色土で締まりが弱い。

所見 各ビット間に配列の規則性がなく、建物跡を想定できなかったため、性格不明のビット群とした。時期は、出土土器がいずれも混入で、重複関係や周囲の遺構との関連からも不明である。



第360図 第36号ビット群実測図

第36号ビット群集計表(第360図)

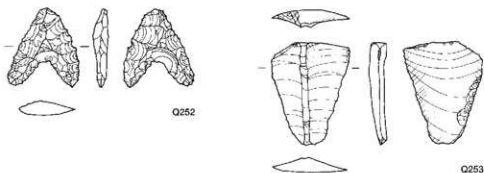
番号	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	番号	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	番号	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)
P 1	24	22	24	P 3	46	46	16	P 5	42	34	24
P 2	50	36	14	P 4	36	36	32				

表16 ビット群一覧表

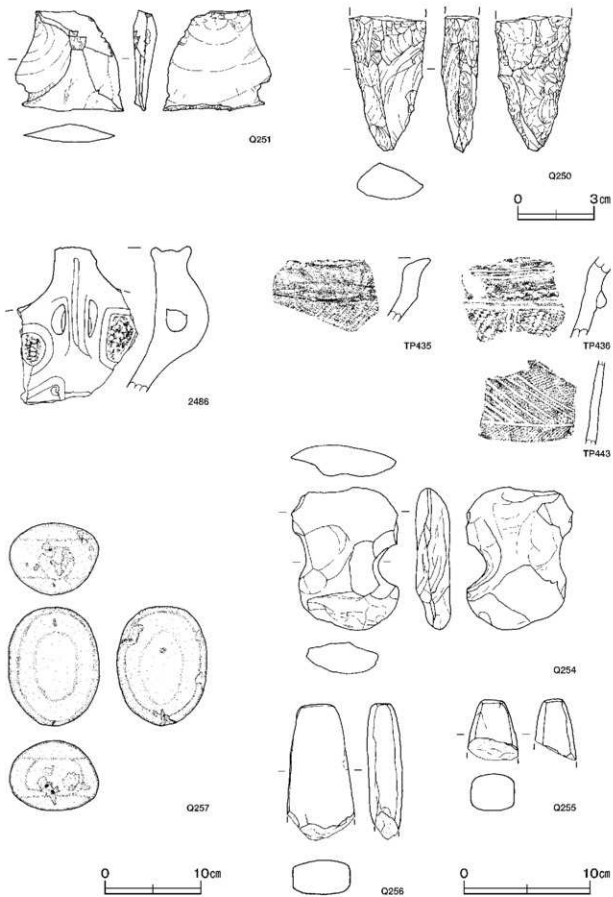
番号	位置	ビット数	大ビット			小ビット			深さ (cm)	出土遺物	備考
			長径 (m)	短径 (m)	平面形	長径 (m)	短径 (m)	平面形			
31	A 1 f4 - B 1 a6	19	1.44	0.66	楕円形	0.3	0.3	円形	33-92	縄文土器片 弥生土器片 土師器片 須恵器片	
33	B 3 f1 - B 3 h2	35	0.80	0.62	楕円形	0.18	0.18	円形	8-71	弥生土器片 土師器片 須恵器片	
34	C 5 g5 - C 5 j6	98	0.80	0.76	円形	0.2	0.2	円形	16-84	縄文土器片 土師器片 須恵器片 古銭 鉄錐	
35	C 4 c5 - C 4 d7	21	0.50	0.42	円形	0.2	0.16	楕円形	12-50	土師器片 須恵器片	
36	C 5 j0	5	0.50	0.36	楕円形	0.24	0.22	円形	14-22		

(9) 遺構外出土遺物 (第361~365図)

今回の調査で出土した遺構に伴わない遺物について、実測図及び観察表で掲載する。

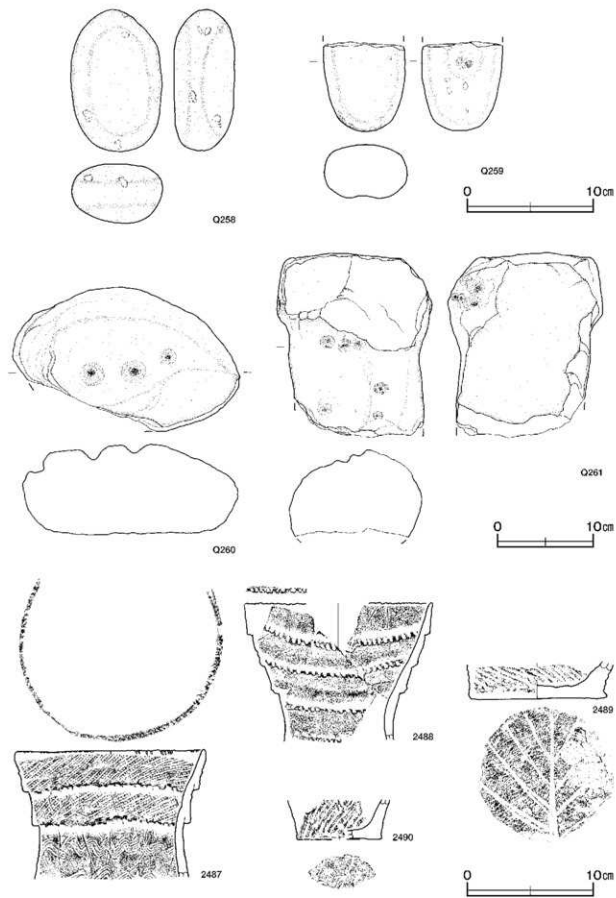


第361図 遺構外出土遺物実測図(1)

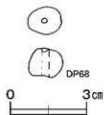
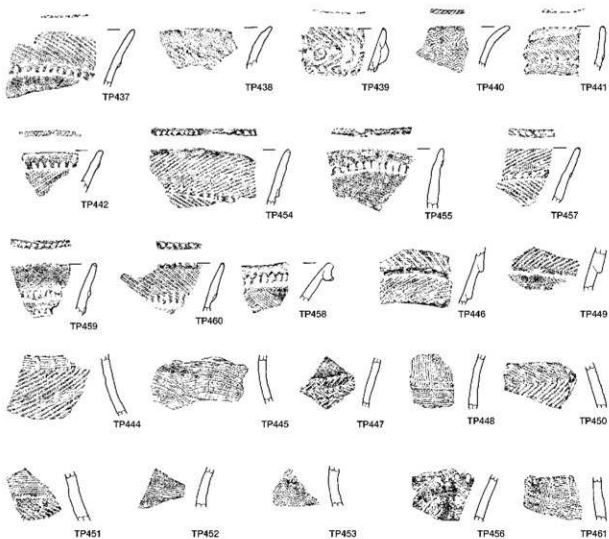


第362図 遺構外出土遺物実測図(2)

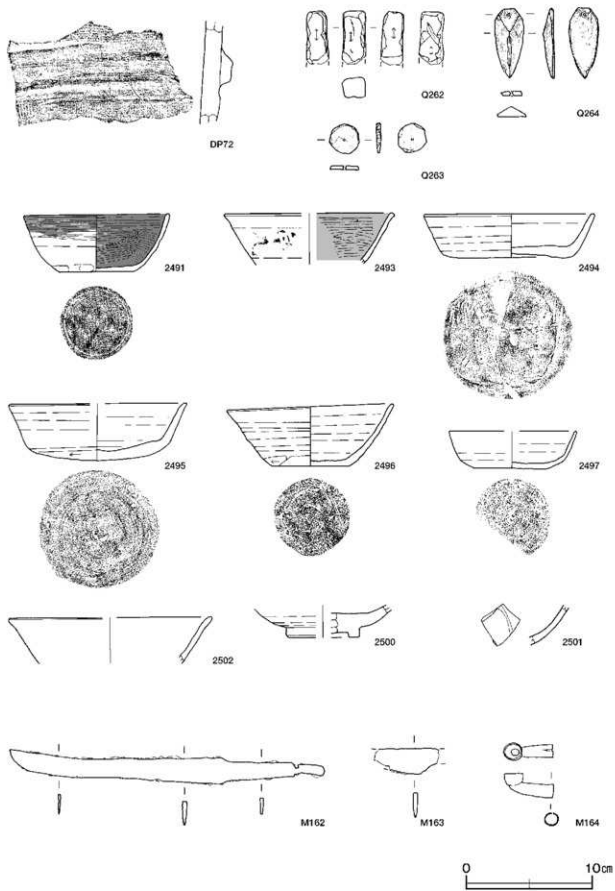




第363図 遺構外出土遺物実測図(3)



第364图 遺構外出土遺物実測图(4)



第365図 遺構外出土遺物実測図(5)

遺構外出土遺物観察表 (第361～365図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様及び手法の特徴	出土位置	備考
2486	縄文土器	深鉢	-	(12.6)	-	石英・長石・雲母	にぶい 橙	普通	沈線による区画内に縄文施文 波頭部から口唇部に沈線文施文	SE107	10%
2487	弥生土器	壺	14.8	(10.1)	-	長石・雲母	にぶい 橙	普通	口唇部縄文施文 口縁部附加条二種(付加2条) 縄文施文 頸部櫛歯状工具(5本櫛歯)による波状文施文	S1352 覆土中	10% PL79
2488	弥生土器	壺	14.8	(10.8)	-	長石・石英・雲母	にぶい 黄緑	普通	口縁貼付け 口縁部縄文施文 口唇部に縄文胴押圧	表土	5% PL79
2489	弥生土器	壺	-	(2.9)	10.8	石英・長石・雲母	にぶい 黄緑	普通	胴部附加条一種(付加2条) 縄文施文 底部木葉痕	S1326 覆土中	10%
2490	弥生土器	壺	-	(3.1)	[6.6]	石英・雲母	にぶい 黄緑	普通	胴部附加条二種(付加2条) 縄文施文 底部木葉痕	S1361 覆土中	5%
2491	土師器	坏	11.4	4.5	5.8	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部外面横ナデ後磨き 内面磨き 体部下端へラ削り 外面不明瞭な磨き	4区表土	70% PL75
2492	土師器	坏	13.3	6.0	-	石英・雲母	橙	普通	口縁部 体部内・外面横方向のへラ磨き	表土	50%
2493	土師器	坏	[13.2]	(4.0)	-	石英・雲母	明赤褐	普通	内面磨き	表土	5% 墨書「口口」 PL82
2494	須恵器	坏	13.4	3.5	10.0	長石	灰	普通	口口調整 底部一方のへラ削り	表土	70% PL75
2495	須恵器	坏	[13.8]	4.5	9.7	石英・黒色粒子	灰	普通	体部外面一部自然磨 底部回転へラ切り後ナデ	4区表土	80% PL75
2496	須恵器	坏	13.2	4.9	6.0	石英・長石	灰	普通	口口調整 底部一方のへラ削り 体部下端へラ削り	4区表土	70% PL75
2497	須恵器	坏	[10.0]	2.9	5.7	長石	灰	普通	底部回転へラ削り	表土	40% PL75
2498	土師器	高坏	-	(4.6)	-	石英・長石・雲母	橙	普通	坏部内面磨き	表土	5%
2499	ニチャ土器	-	4.7	2.8	3.5	長石・雲母	にぶい 橙	普通	体部外面削り	表土	100% PL77

番号	器質	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	給付	釉色	釉薬	産地	年代	出土位置	備考
2500	磁器	碗	-	(2.6)	[5.4]	緻密	灰黄	-	灰オリブ	灰釉	瀬戸・美濃	13～14世紀	S1409 覆土中	20%
2501	青磁	碗	-	(3.2)	-	緻密	灰	-	緑灰	青磁釉	龍泉原系	-	S1388 覆土中	5%
2502	青磁	碗	[16.0]	(3.6)	-	緻密	灰	-	灰オリブ	青磁釉	龍泉原系	-	S1357 覆土中	5%

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様及び手法の特徴	出土位置	備考
T P435	縄文土器	深鉢	石英・長石・雲母	橙	普通	口縁部無文 体部R Lの縄文施文	3区表土	PL84
T P436	縄文土器	深鉢	石英・長石・雲母	にぶい 橙	普通	口縁部襷帯貼付け L Rの縄文施文後2条の平行沈線による区画	S1398	PL84
T P443	縄文土器	深鉢	石英・長石・雲母	にぶい 黄緑	普通	胴部縄文施文 斜位の平行沈線施文	S1344	PL84
T P438	弥生土器	高坏	石英・長石	にぶい 黄緑	普通	ナデ後へラ磨き	S1361	PL84
T P439	弥生土器	壺	石英・雲母	黒褐	普通	口唇部縄文原形押圧 口縁部附加条一種(付加2条) 縄文施文 縄文原形押圧 襷貼付け	S1348	PL84
T P440	弥生土器	壺	石英・雲母	灰黄	普通	口唇部縄文施文 頸部波状文	S1324	PL84
T P441	弥生土器	壺	石英・長石・雲母	灰黄	普通	口唇部縄文施文 口縁部単部R L縄文施文 櫛歯状工具(6本櫛歯)による歯状施文	S1334	PL84
T P442	弥生土器	壺	石英・長石・雲母	橙	普通	口唇部縄文施文 口縁部折り返し状へラ状工具押圧 口縁部附加条一種(付加1条) 縄文施文	S1361	PL84
T P437	弥生土器	壺	石英・長石・雲母	明褐	普通	口唇部縄文施文 口縁部附加条一種(付加2条) 縄文施文	S1357	PL84
T P444	弥生土器	壺	石英・長石・雲母	にぶい 橙	普通	頸部櫛歯状工具(6本櫛歯)による櫛状文施文 胴部附加条一種(付加1条) 縄文施文	S1361	PL84
T P445	弥生土器	壺	石英・長石・雲母	にぶい 橙	普通	頸部沈線による瀬弧文	S1335	PL84
T P446	弥生土器	壺	白色粒子	にぶい 橙	普通	口縁部附加条一種(付加2条) 縄文施文	S K 3693	PL84
T P447	弥生土器	壺	雲母	橙	普通	頸部無文 胴部附加条一種(付加2条) 縄文を羽状に構成	S1334	PL84
T P448	弥生土器	壺	石英・長石・雲母	明赤褐	普通	頸部櫛歯状工具(4本櫛歯)の縄文施文後同一工具による櫛状文施文	S1334	PL84
T P449	弥生土器	壺	石英・長石・雲母	にぶい 黄緑	普通	口縁部附加条一種(軸線不明) 縄文施文 頸部半沈線文施文	S1334	PL84
T P450	弥生土器	壺	長石・雲母	橙	普通	胴部附加条一種(軸線不明) 縄文を羽状に構成	S1348	PL84

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様及び手法の特徴	出土位置	備考
T P451	弥生土器	壺	石英・長石・雲母	にぶい 黄橙	普通	頸部縹歯状工具（10本縹歯）による横走文施文 胴部付加糸一種（付加2条）縹文施文	S1348	PL84
T P452	弥生土器	壺	石英・長石・雲母	黒褐	普通	頸部縹歯状工具（5本縹歯）による波状文施文	S1334	PL84
T P453	弥生土器	壺	石英・長石・雲母	にぶい 青	普通	頸部縹歯状工具（7本縹歯）による波状文施文	S1348	PL84
T P454	弥生土器	壺	石英・雲母	明赤褐	普通	口唇部縹文原体押圧 口縁部付加糸一種（軸縹不明）縹文を羽状に構成 羽状の中心に結節部押圧	3区表土	PL84
T P455	弥生土器	壺	石英・長石・雲母・白色粒子	橙	普通	口唇部縹文 口縁部下端縹文原体押圧 頸部沈線による斜格子文施文	3区表土	PL84
T P456	弥生土器	壺	石英・長石・雲母	にぶい 青	普通	頸部縹文原体押圧 縦方向に赤彩後斜め方向の沈線施文	3区表土	PL84
T P457	弥生土器	壺	石英・長石・雲母	にぶい 赤褐	普通	口唇部縹文原体押圧 口縁部付加糸一種（軸縹不明）縹文を羽状に構成 羽状の中心に結節部押圧	3区表土	PL84
T P458	弥生土器	壺	石英・長石・白色粒子	にぶい 赤褐	普通	口縁部折り返し状に縹帯作り出し 縹文原体押圧 頸部縹歯状工具（8本縹歯）による山形文施文力	3区表土	PL84
T P459	弥生土器	壺	石英・長石・雲母	にぶい 黄橙	普通	口唇部縹文原体押圧 口縁部二段に縹文原体押圧の複合口縁上・下段とも縹文原体押圧 口縁部無文	表土	PL84
T P460	弥生土器	壺	石英・長石・白色粒子	黒褐	普通	口唇部縹文原体押圧 口縁部付加糸一種（付加2条）縹文を羽状に構成 羽状の中心に結節部押圧	3区表土	PL84
T P461	弥生土器	壺	石英・長石・雲母	明赤褐	普通	頸部縹歯状工具（5本縹歯）による縦区画 区画内に波状文（5本）施文	3区表土	PL84

番号	器種	径	厚さ	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP68	小玉	1.07-1.31	1.05	1.4	雲母	外形炒がみ 孔径0.20cm	表土（B1b3）	PL85

番号	器種	長さ	幅	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP69	土埴	6.47	4.02	1.37	106.90	石英・長石	ナデ	表土	PL85

番号	器種	径	幅	厚さ	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP70	支脚	16.5	7.5	6.1	807.0	石英・長石	円柱形で裾部がやや開く 側面ナデ	表土	PL85

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
DP71	不明	3.48	3.52	1.0	10.30	石英・長石・雲母	明褐	普通	指頭による押さ久 孔径0.22cm	表土	

番号	器種	高さ	最大径	最大厚	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
DP72	円筒埴輪	(8.1)	(27.0)	(2.3)	石英・長石・雲母	明赤褐	普通	外面上位横方向のハケ目 下位縦方向のハケ目	表土	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q250	尖頭器	(5.36)	3.02	1.46	(22.6)	チャート	両面押圧剥離による加工	5K3619	PL89
Q251	剥片	3.98	4.31	0.91	10.7	チャート	二次加工を有する	3区表土	PL89
Q252	石皿	2.06	1.88	0.36	0.94	黒曜石	両面押圧剥離による加工 無茎	5K3877	PL86
Q253	剥片	2.65	2.07	0.45	1.90	黒曜石	二次加工を有する	5K3746	PL86
Q254	打製石斧	11.3	8.5	2.7	332.0	輝石安山岩	分銅形 刃部は片面加工	5K3812	PL88
Q255	磨製石斧	(4.8)	3.9	3.1	(77.2)	ホルンフェルス	刃部は両面加工 器面研磨	3区表土	
Q256	磨製石斧	(10.8)	5.25	2.75	(241.0)	ホルンフェルス	定角式 器面研磨	S067	PL88
Q257	磨石	12.4	9.3	7.4	1230.0	輝石安山岩	全面にすり痕 叩き痕有	5K3729	PL88
Q258	磨石	11.8	7.2	4.6	580.0	輝石安山岩	両面にすり痕	S071	PL88
Q259	磨石	(7.1)	6.4	4.3	(298.0)	輝石安山岩	凹部有	表土	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q260	凹石	25.6	(15.1)	9.4	4040.0	花崗閃緑岩	凹部3か所	SI391	PL88
Q261	凹石	(19.3)	16.1	(9.1)	(3760.0)	花崗閃緑岩	表6か所 裏5か所 側面2か所の凹部有	表土	
Q262	砥石	(4.2)	1.9	1.7	(20.3)	凝灰岩	砥面4面	4区表土	
Q263	有孔円板	2.29	2.22	0.35	(3.36)	滑石	両面研磨 孔径0.11cm	表土	
Q264	鉋形模造品	5.46	2.29	0.77	10.6	蛇紋岩	基部に1孔 片面に溝有 磨痕顕著 孔径0.32cm	SI358	PL89

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M162	小刀	25.0	2.8	0.4	59.2	鉄	両面片刃	4区表土	PL90
M163	小刀カ	(5.1)	2.1	0.38	(11.8)	鉄	片簡 刃部基部欠損	表土	PL90
M164	煙管	3.91	1.41	1.93	5.05	銅	火皿部孔径0.68cm 上部に縦目 断面円形	SI324	

## 第4節 ま と め

当遺跡は、平成14・15・17年度に調査が行われ、これまでに縄文時代から中・近世にかけての遺構が多数確認されている。本節では、今回の調査の成果に既報告の内容を併せ、当遺跡についての若干の考察を加え、主に住居跡を中心として概観を述べていくこととしたい。時期については既報告を踏襲することとし、土器の編年については「犬田神社前遺跡1」<sup>31)</sup>(以下、「犬田1」)「犬田神社前遺跡2」<sup>32)</sup>(以下、「犬田2」)を準拠するとともに、「辰海道遺跡1」<sup>33)</sup>(以下「辰街道1」)を参考にしている。なお、住居跡の時期については、その後の調査を含め、遺構や遺物の様相、遺構間の重複関係から検討し、細分するように努めた。また、時期の不明確な住居に関しては、得られた情報では細分できない場合もあった。

### 1 縄文時代(第366図)

縄文時代の遺構としては、「犬田1」で竪穴住居跡6軒、土坑10基が報告されている。今回の調査では確認されていないので、住居跡の位置の掲載にとどめておく。

### 2 弥生時代(第366図)

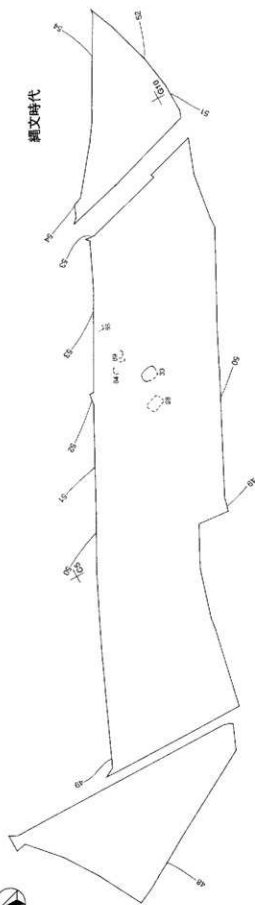
弥生時代の遺構としては、今回の調査で、竪穴住居跡5軒が確認されている。「犬田2」で、竪穴住居跡9軒確認されているので、合わせて14軒となる。該当する住居跡は、第134・142・147・168・175・193・195・208・236・307・315・316・322・340号住居跡である。

出土遺物は、主に壘形土器片、高坏形土器片、紡錘車などである。弥生土器の破片は、古墳・奈良・平安時代の住居跡や土坑、溝跡、中世以降の方形竪穴遺構や地下式坑、溝跡などからも出土しており、弥生時代の遺構が重複する遺構によって削平を受け、多くの遺物が調査区内に散見するようになったと考えられる。土器片のほとんどが壘形土器で、その文様は大別すると口縁部、頸部、胴部の3つの文様帯で構成されているものが多い。口縁部は、折り返し口縁と複合口縁、単純口縁のものが見られる。頸部は多様な文様が施されている。櫛歯状工具により多条櫛描文が施されたものには、鋸歯状文、山形文、横位の波状文などの構成が見られる。胴部には、付加条一種(付加2条)縄文が施文されたものが最も多く、中には付加条一種(付加1条)縄文と単節縄文を施文したものも見られる。施文の方向は、一方向のものと羽状構成をとるものがある。

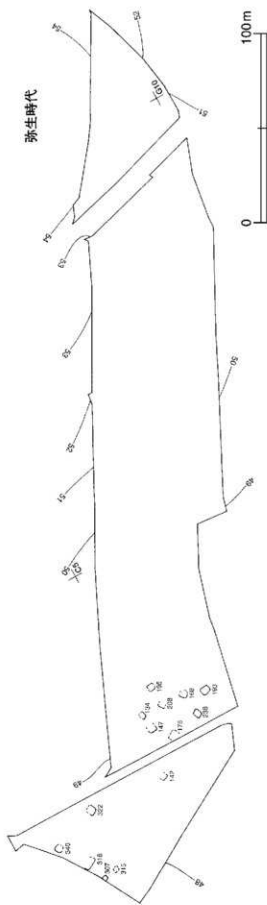
住居跡の規模は、第316号住居跡の南北軸7.40m、東西軸6.13mが残存しているものとしては最大であり、第195号住居跡の一辺3.1mが最小である。ほとんどの住居跡は、一辺が3～5mを軸長としており、この時期の平均的な住居跡の規模である。平面形は長方形や方形を主体としている。残存している壁高は10～20cmで確認された住居跡が多く、30cmを超える深さを確認できたのは、第193号住居跡と第307号住居跡の2軒である。主柱穴は、第236・322・340号住居跡など10軒で、出入り口施設に伴うピットは、第316・322号住居跡など9軒で確認されている。炉跡は、第134・208号住居跡を除くすべての住居跡で確認されており、第236号住居跡では2か所、第316号住居跡では3か所確認されている。これらの炉は、すべて地床炉であり、第142・147・236・315・316・340号住居跡の炉には炉石が付設されていた。これまでに十王台式土器と上稲吉式土器の文化圏において確認された住居跡では比較的炉石を伴う例が多いことが指摘されている<sup>34)</sup>。近隣の遺跡では、松田古墳群<sup>35)</sup>、加茂遺跡<sup>36)</sup>、当向遺跡1<sup>37)</sup>などで、炉石が敷設された住居跡が報告されている。これらの事例は、県西域における炉石の導入と時期について、文化圏とあわせて検討していくために意味をも



繩文時代



弥生時代



第366図 犬田神社前遺跡遺構変遷図(1)



つものと考えられる。

これらの住居跡は、調査区の西部にまとまって確認されている。第134・142・147・168・175・193・195・208・236号住居跡は、単位集落を形成しており、10mほどの距離を置いて住居跡が隣接している。第307・315・316・322号住居跡は、前述の集落から80mほど北側の位置に形成された集落である。これらの集落は、調査区の中で最も低地に望む地域にあり、生業のため土地に利便性を求めたものと考えられる。

### 3 古墳時代（第367・368図）

#### (1) 前期（4世紀頃）

この時期に該当する住居跡は、本報告で1軒、「犬田2」で1軒の計2軒である。時期は、第164号住居跡が4世紀中葉、第347号住居跡が4世紀後葉である。

第164・347号住居跡は、標高約48mの緩やかな台地上に所在している。この時期の集落は、北西部の調査区域外に広がっていく可能性が高い。

住居跡の規模は、第347号住居跡の残存している床面積が約32㎡であるのに対し、第164号住居跡は約20㎡と小規模である。

出土土器は、埴・器台・高坏・壺・甕・小形甕・甔などの供膳具と煮沸具が出土している。その中で、当遺跡から出土している台付甕に見られる特徴は、球形からやや長胴化したもので、全体に斜位のハゲ目調整が施されている。近隣に存在する辰海道遺跡から出土している台付甕は胴部上半にハゲ目調整、胴部下半はヘラ削りが施されているが、器種の特徴からほぼ同時期と判断できる。

#### (2) 中期（5世紀頃）

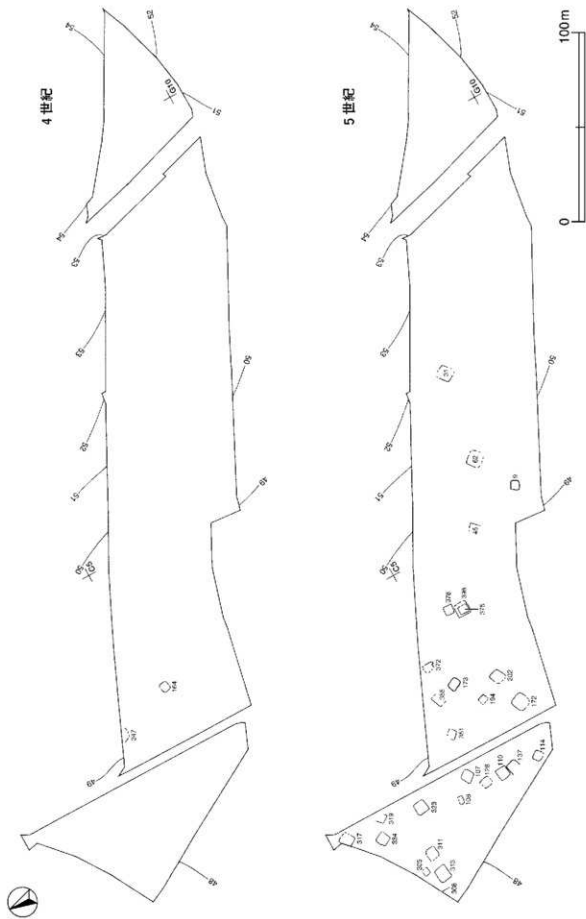
この時期の住居跡と判断されるのは、本報告で14軒、「犬田1」で4軒、「犬田2」で10軒の計28軒である。時期は、第107号住居跡が5世紀前葉、第305・311・313・319・323・334・351・355号住居跡の8軒が5世紀中葉、第9・31・45・62・108・110・114・128・137・172・173・194・202・308・317・372・375・378・396号住居跡の19軒が5世紀後葉に該当している。当遺跡において、大きな集落が形成される時期といえる。

5世紀前葉の住居跡は、標高47～48mの中央部西側の台地上に存在している。集落としては前代同様住居跡数が少なく、集落の中心は調査区域外にあったと推定される。

5世紀中葉の住居跡は、北西部にまとまって確認されており、集落の配置や主軸方向から、2つの単位集団の存在が認められる。第305・311・313・319・323・334号住居跡の6軒は調査区北西部の北側において、数m間隔で隣接しており、単位集団を形成している。第351・355号住居跡の2軒は、中央部の西部に主軸方向をほぼ同じにしており、小集団が形成されている。

5世紀後葉では、2か所の単位集団を確認することができる。第108・110・114・128・137・172・173・194・202号住居跡が、調査区北西部の南側から中央部にかけて集落を形成していると考えられる。また、調査区中央部には、第372・375・378・396号住居跡が隣接しており、4軒の小さな集落を形成している。

この時期の住居跡の主軸方向は、ほとんどが北西を指している。規模は、5世紀中葉の住居跡の床面積を平均すると、床面積約30㎡である。この中で、第313号住居跡は、床面積53.6㎡と大規模な住居跡である。出土遺物では、甕に酷似した須恵器の短頸壺が出土しており、威信財的な役割を担っていた遺物ではないかと考えられる。第313号住居跡は、この集団の中心的役割を果たしていたと考えられる。後葉においては、第172号住居跡は床面積60.7㎡、第375号住居跡は床面積50.49㎡で、比較的規模の大きい住居跡



第367圖 犬田神社前遺跡遺構變遷圖(2)

であり、単位集団の中心的役割を担っていたものと考えられる。住居形態において、5世紀後半から6世紀初頭にかけでは、炉から竈に移行する時期である。炉を有する住居跡が26軒、炉と竈を有する住居跡が2軒、確認されている。その中で第172・396号住居跡は、炉と竈を併設している住居跡で、壁に粘土を貼り付けた「初期竈」であり、注目される。

中期における土器は、第305・319号住居跡でみられるような平底の坏が主体である。また、第311・334号住居跡から出土した高坏は、器高が高く、脚部がエンタシス状の特徴をもつもので、辰海道遺跡の第5期に見られる高坏と同様の形状をしている。中期の後葉になると、坏、高坏、椀等が中心に出土するようになる。坏の底部は平底から丸底へ変化し、口縁部外面に稜を持ち直立するような器形が認められるようになる。また、第308・378号住居跡から出土した坏（1782・2013・2015）は、丸底で頸部のくびれが強いことが特徴で、当遺跡では、5世紀後半から6世紀中葉の住居跡において多く出土している。

また、前代に引き続いて、祭祀に関係すると考えられる遺物として白玉や手捏土器がみられる。2019は須恵器の蓋（第378号住居跡）であり、860は須恵器の坏（第114号住居跡）であって、搬入品であることが確認されている。辰海道遺跡においても、須恵器の坏や蓋の模倣坏が増えてくるのがこの時期である。この点において、他地域との交流から、新たな物資と文化の流入を考えることができる。

第323号住居跡からは剣形品が出土している。剣形品等の石製模造品は、中期終わり頃から後期初頭、すなわち5世紀後半から6世紀頃になると盛んに生産されるようになる<sup>5)</sup>。第323号住居跡は、出土土器から中葉と判断したので、ほぼこの時期と一致する。当遺跡においては、石製模造品工房は確認されていないので、調査区域外に工房があった可能性も考えられるが、流通によってもたらされた可能性も推測される。つくば市の元宮本前山遺跡においては、5世紀前半の石製模造品工房跡が確認されたと報告されているが<sup>6)</sup>、当遺跡との関連を言及することはできない。一方、「犬田2」において、第108号住居跡出土の白玉の石材は、常陸太田市付近の里川流域のものという報告がある。この常陸太田市産の原材料について、ひたちなか市の武田西嶋遺跡では、石製模造品工房が、集落内における石製模造品祭祀の隆盛に伴って、その製作技法等と共に竈を有するという新しい住居形態が伝わってきたのではないかと示している<sup>7)</sup>。当遺跡と他地域との交流を考えると、これらの報告を参照にすると、いかにして新しい文化や物資が搬入されたのか、その手段と担い手について考察することが今後の課題である。

### (3) 後期（6・7世紀頃）

#### ア 6世紀

6世紀の住居跡と判断されるのは、本報告で13軒、「犬田1」で8軒、「犬田2」で6軒の計27軒である。時期は、第1・51・65・66・73・88・125・155・184・218・352・369・385・392号住居跡の14軒が6世紀前葉、第102・354・379・387・388号住居跡の5軒が6世紀中葉、第6・24・213・306・348・357・376・383号住居跡の8軒が6世紀後半に該当している。

前葉では、調査区南東部の西側において、第51・65・66・73号住居跡は隣接しており、単位集団が形成されている。この単位集団の中で、第73号住居跡が最大の規模といえ、床面積は33.1㎡である。

中葉では、第354・357・379号住居跡が調査区中央部の西側において3軒隣接しており、単位集団を形成していると考えられる。第387・388号住居跡の2軒も中央部で隣接している。

後葉では、調査区中央部の西側で、第213・348・383号住居跡がまとまっており、単位集団を形成している。第348号住居跡は床面積4.2㎡と大規模で、この集団の中心と考えられる。

規模は、6世紀前葉において前時期より小規模化しており、軸長は3～4mで約1mずつ小さくなっ

ている。中葉においては床面積20㎡以下から40㎡以上のものであり、一律ではない。第354号住居跡の床面積は43.0㎡で最大である。後葉において平均的な住居跡の規模は、1辺5m台で、床面積は28～30㎡である。第348号住居跡は、長軸8.10m、短軸7.93m、床面積64.2㎡と大規模で、この集団の中心的存在と考えられる。

出土土器では、前葉には坏や甕が多くみられる。坏は前代に比べて口縁部が外傾するようになってきており、甕の胴部は球形からやや長胴化してきている。高坏もみられるが、脚部が太く短いものに変化してきている。これらの傾向は辰海道遺跡出土の土器とほぼ同様であるが、埴の出土状況において差異が見られる。埴は後期にはあまり出土しないとされており、辰海道遺跡でも確認されていないが、当遺跡では埴がこの時期にも出土しているのが特徴的である。中葉になると、第354号住居跡出土の坏(1980)と辰海道遺跡出土の732に類似性が見られる。また、第387号住居跡出土の坏(2034)は、頸部のくびれの大きい当遺跡に特徴的なものである。後葉になると、坏類の内面の磨きや外面の削りが減少し、ナデ調整が多く見られるようになってくる。

## イ 7世紀

7世紀の住居跡は、本報告で8軒、「犬田1」で2軒、「犬田2」で14軒の計24軒である。時期は、第61・101・104・106・117・150・162・178・201・209・237・304・326・332・343号住居跡の15軒が7世紀前葉、第23・169号住居跡の2軒が7世紀中葉、第109・187・203・205・309・312・318号住居跡の7軒が7世紀後葉に該当している。

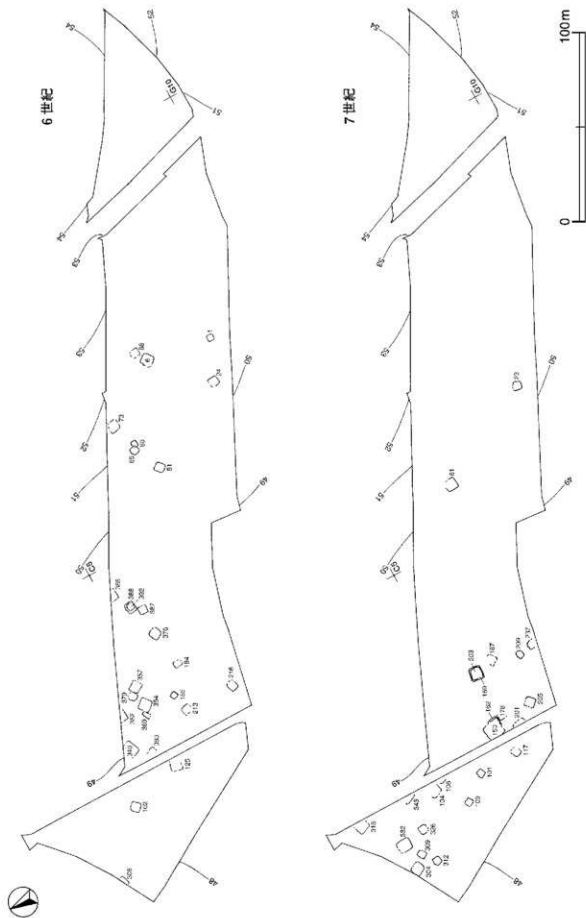
前葉では、調査区北西部の北側において、第104・304・326・332・343号住居跡が隣接しており、単位集団を形成している。また、調査区北西部の南側から調査区中央部にかけて、第101・117・150・169・178・201号住居跡が隣接しており、別の単位集団を形成している。第332号住居跡は床面積が46.1㎡で、第150号住居跡は床面積が64.4㎡で、それぞれの単位集団の中で最大の規模を誇り、中心的存在と考えられる。

中葉に該当する2軒は、それぞれ独立して存在しており、この時期に住居跡の存在が希薄になると考えられる。

後葉では調査区北西部の北側において、第109・309・312・318号住居跡が隣接しており、単位集団と見られ、第309号住居跡がやや規模が大きく中心的存在と考えられる。調査区中央部の西部において、第187・203・205号住居跡は隣接しており、3軒とも規模の同様な住居跡で、小集団を形成していたと考えられる。

規模では、小規模(床面積において20～25㎡程度)の住居跡が多く、その中に中規模(床面積において36㎡程度)の住居跡が少数存在している。さらに大規模(床面積において約70㎡)の住居跡が1軒存在して構成されている。内部施設では、竈を有する住居跡は、前葉で16軒中10軒、中葉で2軒中2軒、後葉で7軒中6軒である。貯蔵穴を有するのは前葉の住居跡で3軒だけである。

出土遺物では、前葉では前時期同様に坏や甕が多い。坏の器形では、扁平に変化し、外面の稜が不明瞭になってきている。また、甕の調整では、内面の磨きが少なくなってきている。甕では、長胴形のものとの胴部の丸形のものとの混在している傾向がみられる。中葉の時期においては、前葉との差異、後葉との差異について今後検討の余地がある。今回、中葉に区分した土器が前葉または後葉に含まれる可能性もある。後葉においては、坏・甕が中心であり、坏は前代と同様に扁平な形状である。第318号住居跡出土の甕(1836)は、前葉に見られる長胴のものとはやや異なり、中葉から後葉にかけての特徴的な



第368図 大田神社前遺跡遺構変遷図(3)

形状といえる。第309号出土の土師器の坏(1784)は、模倣坏でやはりこの時期に多く見られるものである。

#### 4 奈良・平安時代(第369・370図)

##### (1) 奈良時代

この時期の住居跡は、本報告で17軒、「犬田1」で3軒、「犬田2」で11軒の計31軒である。時期は、第34・103・161B・231・342・356・366・380・382・389・409・415号住居跡の12軒が8世紀前葉、第2・112・115・154・161A・181・198・346・353・361(131)・374・394号住居跡の12軒が8世紀中葉、第4・149・314・331・371・381・408号住居跡の7軒が8世紀後葉に該当している。

8世紀前葉の住居跡は、調査区中央部から北西部にかけて点在しており、集落が調査区の北部よりに見られることから、集落の中心はさらに北側に延びていく可能性がある。8世紀中葉の住居跡も中央部から北西部にかけて存在しており、前葉とはほぼ同様の範囲内であるが、調査区南側に住居跡が多く見られるようになり、集落の範囲はやや南側に移動していると考えられる。8世紀後葉の住居跡は、これまでの住居跡の確認された範囲よりもやや東側に存在しており、集落は東部に移動していると考えられる。奈良時代の住居跡は、中央部から北西部において集落の中心を北部、南部、東部と移動させながら存在していたと考えられる。

住居跡の主軸方向は、N-0°からN-45°-Eの間を指す住居跡が9軒、N-0°からN-45°-Wの間を指す住居跡が19軒で、北から北西方向を主軸としている例が多い。N-0°を主軸方向としている住居跡は2軒である。また、N-45°-Eを超える住居跡は2軒、N-45°-Wを超える住居跡は1軒確認されている。

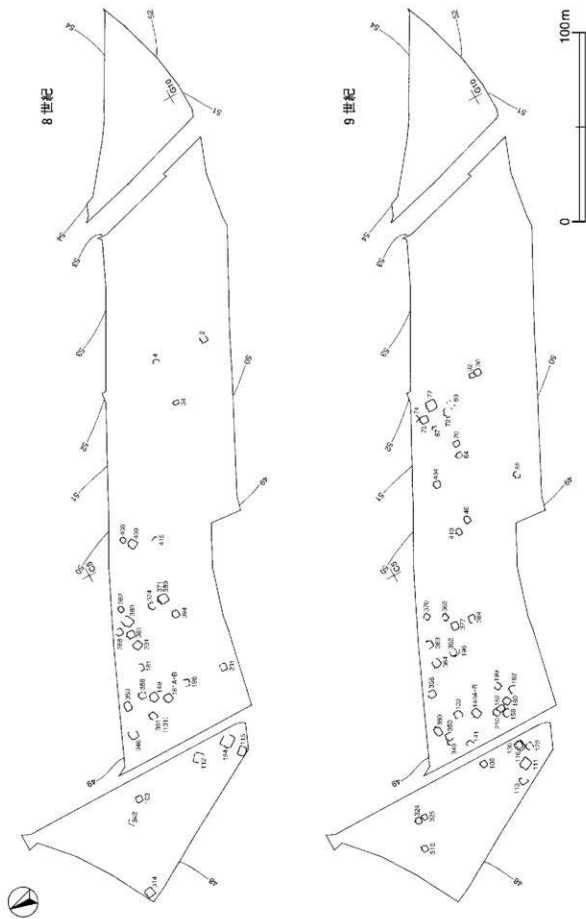
住居跡の規模は一辺が3～5mで、平面形は方形が多く、長方形は少ない。床面積の平均は15㎡である。第154号住居跡は、長軸6.7m、短軸6.2mで、この時期の住居としては最大規模であり、床面積を推定すると41㎡ほどになる。第408号住居跡は最小規模であり、長軸2.7m、短軸2.5mで、床面積を推定すると6㎡ほどである。支柱穴の確認されているのは16軒で全体の約半数である。出入り口施設に伴うピットは、19軒で確認され、全体の61%を占めている。

当該期の主な出土土器は、土師器の坏や甕、須恵器の坏、高台付坏、蓋、壺、甕などである。土師器は、出土量が減少し、当該期中葉から堀ノ内古窯跡群が操業を開始することにより<sup>31)</sup>、須恵器の出土量が増加する。土師器の坏は、扁平で丸みを帯びた器形であり、内面に放射状の磨きを施したものが見られる。須恵器の坏は断面箱型で、厚みのある底部を有するものが多い。高台付坏は、高台部が短いものや八の字に開くものが見られ、高台の貼付けは底径の外周部分に位置するものとやや内側に位置するものみ見られる。

##### (2) 平安時代

##### ア 9世紀

この時期には住居跡数が増加し、本報告で16軒、「犬田1」で12軒、「犬田2」で17軒の計45軒となる。時期は、第30・60・75・111・113・116・130・140A・140B・141・158・199・210・349・358・370・377・384・410号住居跡の19軒が9世紀前葉、第72・74・133・152・180・196・360・362・363号住居跡の9軒が9世紀中葉、第32・46・55・64・70・77・87・105・123・182・310・324・325・350・364・365・404号住居跡の17軒が9世紀後葉にそれぞれ該当している。



第369図 大田神社前遺跡遺構変遷図(4)

9世紀前葉の住居跡は、北西部に大きなまとまりが見られ、8世紀後葉に形成されていた集落とほぼ同じ位置に存在している。中央部には3軒の小集団が見られ、今後この区域に集落が形成される先駆けととらえることができる。9世紀中葉の住居跡は、軒数が減少するものの中央部と北西部に分化されたまま継続している。9世紀後葉の住居跡は、北西部ではさらに西に広がりを見せ、中央部では、軒数が増加し、集落を形成するようになる。集落は、北西側の区域では8世紀の状況からやや広がりを見せ、北西部にも住居跡数がわずかながら増えている。中央部ではこれまで以上に住居跡の密度が高まってきている。8世紀に見られた住居跡の立地が東側に広がる状況は、9世紀に入り顕著になる。

当該期には、住居跡の拡張も確認され、第140A・140B号住居跡、第409号住居跡に事例を求めることができる。第140A・140B号住居跡においては、東部に壁溝が2条確認されており、段差のついた床面が設けられていたことから、東部への拡張が示唆されている。第409号住居跡においては、西部に確認された2条の壁溝と西側に張り出した掘り込みから拡張が行われたと考えられている。これらの事例から、この時期は、住居の再構築や改築等を繰り返しながら、現在の区域に定住していたと推測され、住居跡軒数の増加とともに集落の盛期を迎えることとなるのである。

住居跡の主軸方向は、N-0°からN-45°-Eの間を指す住居跡が15軒、N-0°からN-45°-Wの間を指す住居跡が19軒である。さらに、N-45°-Eを超え、東方向を主軸とする住居跡は6軒確認されている。北東方向を主軸とする住居跡は、北西方向を主軸とする住居跡とほぼ同数になってきている。前時期には、北から北西方向を主軸とする住居跡が主体であったが、本期には、相対的に北東方向や東方向への主軸の転換が図られているといえよう。また、N-45°-Wを超え西方向を主軸とする住居跡は2軒、N-0°を主軸方向としている住居跡は3軒確認されている。

住居跡の規模は一辺が3～5mで、床面積は11.2㎡で前時期よりも3.8㎡ほど小さくなっている。最大規模の住居跡は、第111号住居跡の長軸5.7m、短軸4.3mで、床面積は24㎡である。第70号住居跡は最小規模であり、長軸2.9m、短軸2.8mで、床面積は8㎡である。主柱穴の確認されている住居跡は、17軒で37%の数値を示し、前時期よりさらに主柱穴の存在が減ってきている。出入り口施設に伴うピットは、23軒で51%を占め、これも減少傾向にある。前時期と比較すると、住居跡の床面積が小さくなり、主柱穴や出入り口施設に伴うピットの確認数が減ってきている。

主な出土土器は、土師器の坏・椀や甕、須恵器の坏や高台付坏、盤、蓋などである。当該期の前半は、引き続き須恵器の供給が安定しており、主体となっている。須恵器の坏は、前時期のものより器高が高く、底径が小さいものが多く確認されている。須恵器の盤の出土が数多く確認されるようになるのも当該期である。後半になるに従い土師器の坏・椀類の出土が多く見られるようになり、須恵器の出土量は減少傾向にある。この時期から器種構成に加わる土師器の坏・椀類は、口クロ成形され、薄手のものになる。底面から口縁にかけて内髷するものが主体であり、高台を有するものが見られるようになる。これらの坏や椀類には内面黒色処理と丁寧な磨きが施されているものが多い。

#### イ 10世紀

この時期になると、住居跡数はさらに増加し、本報告で29軒、「犬田1」で18軒、「犬田2」で19軒の計66軒となる。時期は、第17・118・215・230・328・336・338・393・399・400・424号住居跡の11軒が10世紀前葉、第7・16・47・59・67・68・78・91・120・136・151・160B・163B・217A・217B・221・226・327・335・402・403・407・413・422・423号住居跡の25軒が10世紀中葉、第12・18・19・69・82・83・135・143・160A・163A・229・320・321・337・345・386・391・405・406・411・412・427号住居



跡の22軒が10世紀後葉にそれぞれ該当している。なお、第3・8・15・126・166・329・333・373号住居跡8軒は10世紀代とされている。

10世紀前葉になると、これまで集落の中心とされてきた北西部では住居跡の存在がやや少なくなる。10世紀中葉には、再び住居跡数が増加し、北西部と中央部にそれぞれ集落が見られ、盛期を迎える事となる。10世紀後葉にはほぼ同数の住居跡数で推移しており、北西部と中央部に形成された集落は継続されている。10世紀代とされている住居跡数も含めると、これまででもっとも住居跡の軒数が多く、この時期が集落の最盛期ととらえることができる。

住居跡の主軸方向は、N-0°からN-45°-Eの間を指す住居跡が14軒、N-0°からN-45°-Wの間を指す住居跡が4軒、N-0°を指す住居跡は2軒である。N-45°-Eを超えている住居跡は、42軒であり、そのほとんどがN-70°-EからN-105°-Eの間を指している。前時期に見られた、北西方向から北東方向への主軸の転換は当該期に入り顕著になる。住居跡66軒中68%が東方向を主軸としており、北東方向も合わせると84%が総じて東方向を主軸としているといえる。

住居跡の規模は一辺が3～4mほどで、床面積の平均は8.9㎡である。一辺が3m以下の住居跡が14軒確認されていることや住居跡の床面積の平均値から、住居跡の規模はこの時期になりさらに縮小化するといえ、奈良時代以降最も小形になる。最大規模の住居跡は、第229号住居跡で、長軸4.3m、短軸3.7mで、床面積は15㎡である。最小規模の住居跡は、第328号住居跡で、長軸2.4m、短軸2.2mで、床面積は5㎡である。支柱穴の確認されているのは10軒で、66軒中の15%を占めるに過ぎない。出入口施設に伴うピットは、13軒で、19%である。前時期に述べたように施設の簡略化、構築方法の変化がさらに進んだ時期と考えられる。

主な出土遺物は、土師器の坏・椀類、甕で、須恵器はほとんど見られなくなる。土師器の椀類には高台がつくものが主流となり、中には高い高台のものも見られるようになる。内面黒色処理と内面磨きが施された土器は引き続き多く見られるが、後半には内面が無調整のものも混じるようになる。口径10cmほどの小皿が出現するものこの時期である。

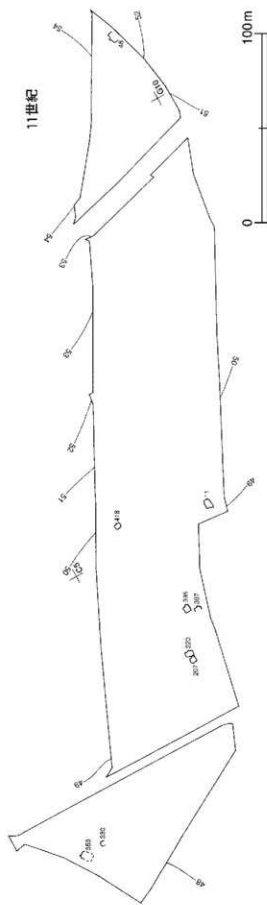
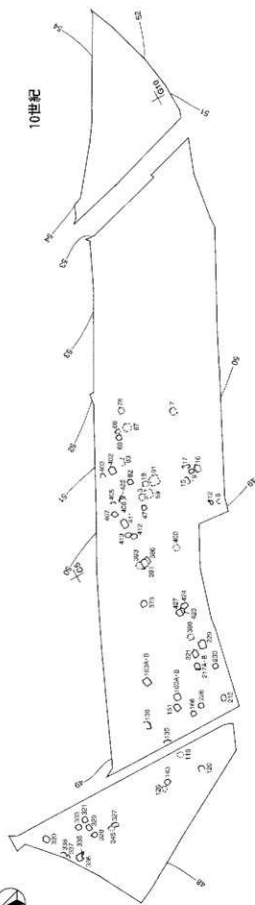
## ウ 11世紀

この時期の住居跡数は、本報告で5軒、「犬田1」で2軒、「犬田2」で2軒の計9軒と減少する。第11・48・207・220・330・359・395・397・418号住居跡が該当しており、時期は、11世紀前半及び11世紀代と比定されている。これまで調査区全面に展開されてきた集落は終焉を迎えようとしており、中央部から北西部にかけて住居跡が点在し、小規模な集落が営まれている。また、南東部にも住居跡の存在が確認されている。

住居跡の主軸方向は、N-45°-Eを超えている住居跡が7軒と多数を占め、そのほとんどがN-80°-EからN-130°-Eの間で、この時期も引き続き東方向へ主軸を向けている。

住居跡の規模は、長軸・短軸ともに3～6mで、平面形は方形や長方形である。前時期に見られた一辺3m以下の小規模な住居跡は見られなくなり、やや大きくなったといえる。支柱穴の確認されているのは1軒で、出入口施設に伴うピットは、4軒で確認されている。

出土土器の中心は、土師器の坏・椀類、甕である。底部の切り離し技法は、回転糸切りのものが多く認められるようになる。前時期に器種構成に加わった小皿は、口径がやや縮小している。また、内面無調整の坏・椀類は、前時期より多く見られるようになる。



第370圖 大田神社前遺跡遺構變遷圖(5)

## 5 中・近世（第371図）

今回の調査において方形竪穴遺構2基、井戸跡12基、溝跡4条、道路跡1条が確認された。「犬田1」と「犬田2」の双方では、掘立柱建物跡14棟、方形竪穴遺構31基、地下式坑20基、土壇墓15基、土坑群1か所、土坑128基、溝跡28条が確認されている。

### (1) 方形竪穴遺構

「犬田2」においては、方形竪穴遺構の考察として、全体数の71%を占める床面積5.0㎡以下の小規模ものは、収穫物の加工・貯蔵施設であるという見方をとっている。また、床面積が5.0㎡以上の大規模なものについては、住居跡などの別な用途も考えられるが、不明であるとしている。今回の調査においてもそれに準拠すると、第48号方形竪穴遺構は規模的に前者、第50号方形竪穴遺構は規模的に後者である。

### (2) 溝跡

同様に「犬田2」において、溝跡28条のうち10条については、17世紀後半から18世紀初頭に廃絶されたものとし、調査区域に隣接する名主仙波氏に準じる階層との関連を想定している。本報告においては、時期を推定できたものは、第73・74・76・81号溝跡の4条である。この溝の位置をみてみると、調査区の西部4区中央部の西端を南北に流れるもの（第76・81号溝跡）、北端を北東から南西に流れるもの（第73・74号溝跡）である。出土土器は、土師質土器片（内耳鍋・小皿）が多い。第74号溝跡出土の小皿（2465）は、「犬田2」において17世紀後半から18世紀初頭の時期と報告された第23号溝跡出土の1605と形状が類似している。また、第74号溝跡からは同時期と推定される陶器片（2467・2468）も出土している。時期的には、同様に17世紀後半から18世紀初頭と考えられる可能性が推測される。なお、この第74号溝跡は、第73号溝跡と平行して重複し、前述の仙波氏敷地との北部境界のように位置している。また、第76号溝跡の南端と第81号溝跡の北端は接しており、一直線に南北に走っているかのようである。その接点から、ほぼ90度東へ第77号溝跡（時期は不明）が走り、Eの字のように調査区を区分けしているように見ることができるとは興味深い。

調査区4区中央部と東部を区切るかのよう南北に第79号溝跡が位置しているが、この東側には中世の時期とされている井戸跡などの遺構が、「犬田1」「犬田2」では報告されている。本報告ではそれら中世の遺構が確認できなかったが、他の用途に使用されていた区域と考えることもできる。今後の調査・研究の課題である。

東部のほぼ中央に位置（D7j4～F7b1区）し南北に流れる第1号溝跡は、「犬田1」報告によれば、中世の館跡の一部と報告されている。この溝跡の東西からは方形竪穴遺構・竪穴状遺構・地下式坑・井戸跡が多く確認されている。そして、第1号溝跡を中心に第15号溝跡など他の中世の溝跡によって、区画されている様子を見ることができる。この区域は、「犬田1」で指摘されているように、商業活動の展開された空間であるとする館主との関係、あるいは今回の調査において中世の溝に囲まれた区域との関係についても視点をもつことができるであろう。

## 6 むすびにかえて

当遺跡は、縄文時代から中・近世にかけて断続的に集落が営まれていることが判明した。縄文時代には標高50mの位置に小さな集落が形成され、弥生時代になると標高48mほどの低地に面した位置に集落が移動している。古墳時代の前期には、新たな集落が形成し、以降古墳時代を通して標高48～49mの中央部から北西部にかけて集落が展開する。古墳時代においては、いくつかの単位集団が盛衰を繰り返しながら集落を継続



第371图 大田神社前遺跡構造平面図(6)

させている。奈良時代になると住居跡数が増加し、平安時代にはさらに住居跡数の増加の一途をたどる。当集落の最盛期は、10世紀に見ることができ、その後、集落は衰退していく。次代への変容の時期が訪れるのである。中・近世になると、遺構の中心的な空間は東部に移り、西側にも中・近世の遺構の存在が確認された。このように概観すると、この地は人々の生活に適しており、集落が連続と展開されていったといえる。

#### 註

- 1) 榊雅彦・石川武志「犬田神社前遺跡1 北関東自動車道(協和-友部)建設事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅲ」『茨城県教育財団調査報告』第229集 2004年3月
- 2) 鴨志田祐一・早川麗司「犬田神社前遺跡2 北関東自動車道(協和-友部)建設事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅳ」『茨城県教育財団調査報告』第248集 2005年3月
- 3) 仲村浩一・後藤一成・宮田和男・芳賀友博・鴨志田祐一「辰海道遺跡1 北関東自動車道(協和-友部)建設事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ」『茨城県教育財団調査報告』第222集 2004年3月
- 4) 鶴見貞雄「炉石住居覚書」『研究ノート』5号 茨城県教育財団 1996年6月
- 5) 横倉要次「松田古墳群 北関東自動車道(協和-友部)建設事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅴ」『茨城県教育財団調査報告』第226集 2004年3月
- 6) 島田和宏「加茂遺跡 北関東自動車道(協和-友部)建設事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅵ」『茨城県教育財団調査報告』第249集 2005年3月
- 7) 小澤重雄・小野克敏「当向遺跡1 北関東自動車道(協和-友部)建設事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅲ」『茨城県教育財団調査報告』第224集 2004年3月
- 8) 寺村光晴「玉作とその流通」『ものづくりの考古学- 原始- 古代の人々の知恵と工夫』大田区立郷土博物館2001年2月発行、論文は1998年7月の講演記録をまとめたもの
- 9) 高野裕置「元宮本前山遺跡 上河原崎- 中西特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書2」『茨城県教育財団文化財調査報告』第265集 2006年3月
- 10) 白石真理「炉址の位置が変わる時- 武田遺跡における事例より-」『茨城県考古学協会誌』第17号 2005年5月
- 11) 高井梯三郎他『常陸国新治郡上代遺跡の研究Ⅱ』甲陽史学会 1988年1月

#### 参考文献

- ・大塚雅昭・小松崎和治「金谷遺跡1 北関東自動車道(協和-友部)建設事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅳ」『茨城県教育財団調査報告』第225集 2004年3月
- ・越田真太郎「辰海道遺跡2 北関東自動車道(協和-友部)建設事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ」『茨城県教育財団調査報告』第223集 2004年3月
- ・榊雅彦・小林健太郎「辰海道遺跡3 一般国道50号(岩瀬IC)改築事業地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団調査報告』第235集 2005年3月
- ・瓦吹堅「岩瀬盆地考古学点描」『領域の研究- 阿久津久先生遺暦論集-』2003年4月 p.240
- ・稲田義弘「熊の山遺跡出土の平安時代の土器様相- 土師器を中心として-」『領域の研究- 阿久津久先生遺暦記念論集-』阿久津久先生遺暦記念事業実行委員会 2003年3月
- ・佐々木義則「茨城県北半部における土師器橋の形式変遷」『婆良岐考古』第21号 婆良岐考古同人会 1999年5月

## 写真図版



西部3区東部完掘状況

第 307 号住居跡  
完掘狀況



第 316 号住居跡  
完掘狀況



第 316 号住居跡  
P 1 遺物出土狀況





第 322 号住居跡  
完 掘 状 況



第 322 号住居跡  
炉 完 掘 状 況



第 340 号住居跡  
完 掘 状 況



第306号住居跡  
完掘状況



第306号住居跡  
遺物出土状況



第306号住居跡  
遺物出土状況





第309号住居跡  
完掘状況



第309号住居跡  
遺物出土状況



第311号住居跡  
完掘状況

第 313 号 住居 跡  
遺物 出土 狀況



第 317 号 住居 跡  
遺物 出土 狀況



第 317 号 住居 跡  
遺物 出土 狀況





第 317 号 住居 跡  
炉 遺物 出土 状 況



第 323 号 住居 跡  
完 掘 状 況



第 323 号 住居 跡  
遺物 出土 状 況

第 323 号 住居跡  
貯蔵穴遺物出土状況



第 326 号 住居跡  
遺物出土状況



第 326 号 住居跡  
遺物出土状況





第 326 号住居跡  
竈遺物出土状況



第 332 号住居跡  
完掘状況



第 332 号住居跡  
遺物出土状況

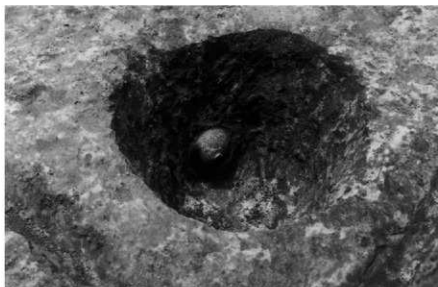
第 332 号 住居 跡  
貯蔵穴遺物出土状況



第 334 号 住居 跡  
完 掘 状 況



第 334 号 住居 跡  
貯蔵穴遺物出土状況





第 347 号住居跡  
遺物出土状況



第 347 号住居跡  
遺物出土状況



第 348 号住居跡  
完掘状況





第 348 号住居跡  
遺物出土狀況



第 348 号住居跡  
P 1 遺物出土狀況



第 352 号住居跡  
完掘狀況



第 352 号住居跡  
遺物出土状況



第 354 号住居跡  
竈完掘状況



第 354 号住居跡  
貯蔵穴遺物出土状況

第 355 号住居跡  
遺物出土狀況



第 369 号住居跡  
遺物出土狀況



第 369 号住居跡  
竈遺物出土狀況





第 375 号住居跡  
完 掘 状 況

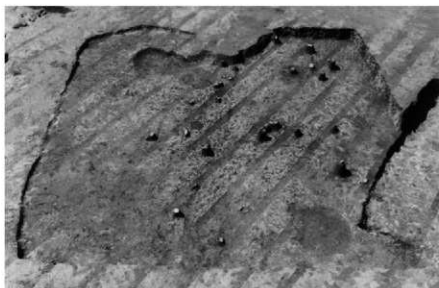


第 375 号住居跡  
炉 完 掘 状 況



第 376 号住居跡  
完 掘 状 況

第 376 号住居跡  
遺物出土狀況



第 378 号住居跡  
完掘狀況



第 378 号住居跡  
遺物出土狀況





第 378 号住居跡  
遺物出土状況



第 387 号住居跡  
完掘状況



第 387 号住居跡  
遺物出土状況

第 388 号 住居 跡  
完 掘 状 况



第 388 号 住居 跡  
壙 遺 物 出 土 状 况



第 392 号 住居 跡  
完 掘 状 况





第 396 号住居跡  
完 掘 状 況



第 396 号住居跡  
完 掘 状 況



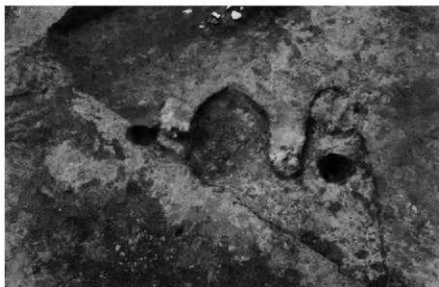
第 78 号溝跡  
完 掘 状 況



第 78 号 溝 跡  
遺物 出土 狀況



第 141 号 住居 跡  
第 3740 号 土 坑  
完 掘 状 況



第 141 号 住居 跡  
竈 遺物 出土 狀況





第 310 号 住居 跡  
完 掘 状 況



第 310 号 住居 跡  
竈 遺 物 出 土 状 況



第 314 号 住居 跡  
完 掘 状 況

第 314 号住居跡  
遺物出土狀況



第 314 号住居跡  
完掘狀況



第 320 号住居跡  
完掘狀況





第 320 号 住居 跡  
竈 遺物 出土 状 況



第 320 号 住居 跡  
竈 遺物 出土 状 況



第 324 号 住居 跡  
完 掘 状 況

第 327 号住居跡  
完掘狀況



第 327 号住居跡  
遺物出土狀況

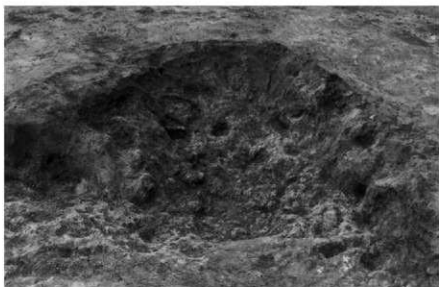


第 327 号住居跡  
竪完掘狀況





第 327 号住居跡  
竈遺物出土状況



第 328 号住居跡  
竈完掘状況



第 330 号住居跡  
竈完掘状況

第 330 号 住居 跡  
竈 遺物 出土 狀況



第 331 号 住居 跡  
完 掘 状 況



第 331 号 住居 跡  
竈 遺物 出土 狀況





第 335 号 住居 跡  
完 掘 状 况



第 335 号 住居 跡  
遺 物 出 土 状 况



第 345 号 住居 跡  
遺 物 出 土 状 况





第 345 号 住 居 跡  
甕 遺 物 出 土 状 況



第 346 号 住 居 跡  
完 掘 状 況



第 346 号 住 居 跡  
遺 物 出 土 状 況



第 346 号住居跡  
遺物出土状況



第 346 号住居跡  
完掘状況



第 349 号住居跡  
完掘状況

第 349 号 住居 跡  
竈 遺物 出土 狀況



第 350 号 住居 跡  
完 掘 状 況



第 350 号 住居 跡  
遺物 出土 狀況





第 353 号 住居 跡  
完 掘 状 況



第 353 号 住居 跡  
完 掘 状 況

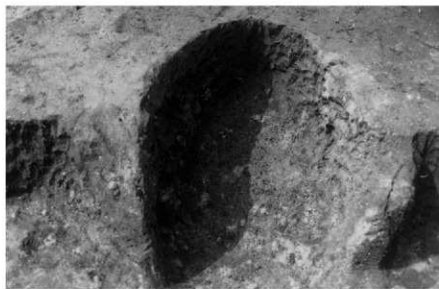


第 356 号 住居 跡  
完 掘 状 況

第 356 号住居跡  
遺物出土狀況



第 356 号住居跡  
完掘狀況



第 358 号住居跡  
完掘狀況





第 358 号住居跡  
遺物出土状況



第 358 号住居跡  
遺物出土状況



第 359 号住居跡  
完掘状況

第 359 号住居跡  
竈完掘狀況



第 359 号住居跡  
竈遺物出土狀況

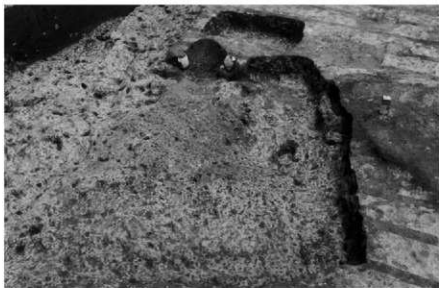


第 360 号住居跡  
竈遺物出土狀況

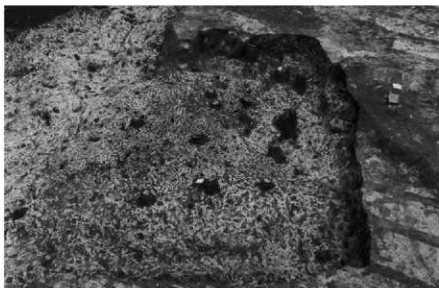




第 361 号 住居跡  
遺物出土状況



第 363 号 住居跡  
完 掘 状 況



第 363 号 住居跡  
遺物出土状況



第 363 号住居跡  
竈完掘狀況



第 363 号住居跡  
遺物出土狀況

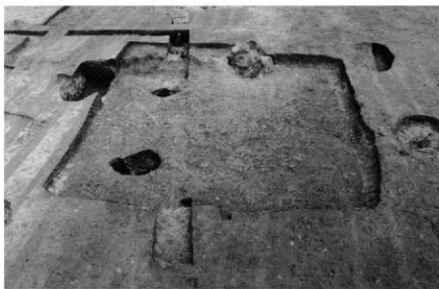


第 365 号住居跡  
完掘狀況





第 370 号 住居 跡  
完 掘 状 況



第 371 号 住居 跡  
完 掘 状 況



第 374 号 住居 跡  
完 掘 状 況

第 374 号 住居 跡  
遺物 出土 状況



第 374 号 住居 跡  
遺物 出土 状況



第 374 号 住居 跡  
遺物 出土 状況





第 377 号 住 居 跡  
完 掘 状 況



第 377 号 住 居 跡  
遺 物 出 土 状 況



第 377 号 住 居 跡  
産 遺 物 出 土 状 況

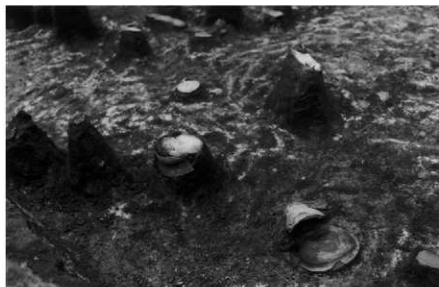
第380号住居跡  
完掘状況



第380号住居跡  
遺物出土状況



第380号住居跡  
遺物出土状況





第381号住居跡  
完掘状況



第382号住居跡  
完掘状況



第382号住居跡  
竈遺物出土状況

第384号住居跡  
完掘状況



第384号住居跡  
遺物出土状況



第389号住居跡  
完掘状況





第 391 号 住居 跡  
完 掘 状 况



第 391 号 住居 跡  
竈 遺 物 出 土 状 况



第 394 号 住居 跡  
完 掘 状 况



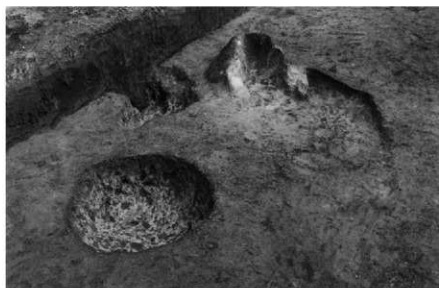
第 394 号 住居 跡  
竈 遺物 出土 狀況



第 402 号 住居 跡  
完 掘 状 況



第 403 号 住居 跡  
完 掘 状 況





第403号住居跡  
竈遺物出土状況



第404号住居跡  
完掘状況



第405号住居跡  
遺物出土状況

第 407 号 住居 跡  
第 3917 号 土 坑  
完 掘 状 况



第 407 号 住居 跡  
完 掘 状 况



第 408 号 住居 跡  
完 掘 状 况





第408号住居跡  
遺物出土状況



第409号住居跡  
完掘状況



第409号住居跡  
完掘状況

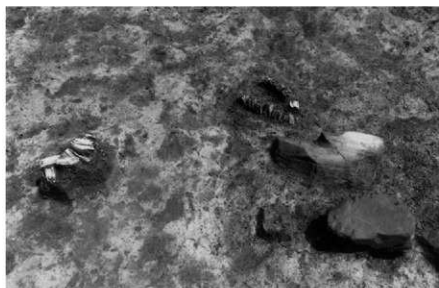
第 410 号 住居 跡  
完 掘 状 况



第 410 号 住居 跡  
竈 遺 物 出 土 状 况



第 411 号 住居 跡  
遺 物 出 土 状 况 (馬 齒)





第411号住居跡  
竈遺物出土状況

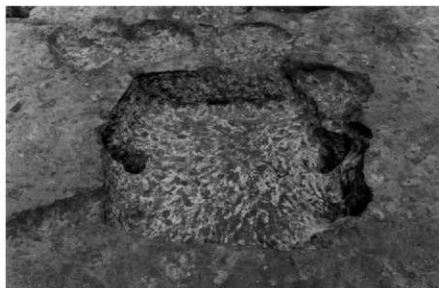


第412号住居跡  
第102号井戸跡  
完掘状況



第412号住居跡  
竈遺物出土状況

第48号方形竖穴遺構  
完掘状況



第49号方形竖穴遺構  
完掘状況



第50号方形竖穴遺構  
完掘状況





第35号掘立柱建物跡  
完掘状況



第35号掘立柱建物跡  
P 1 遺物出土状況



第 99 号 井 戸 跡  
第 3781 号 土 坑  
完掘状況



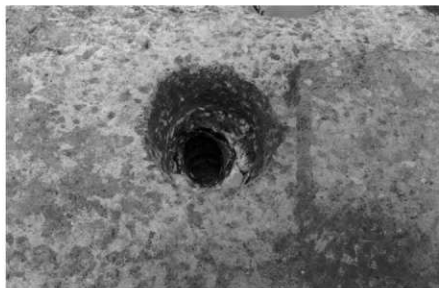
第 99 号 井 戸 跡  
遺 物 出 土 状 況



第 105 号 井 戸 跡  
完 掘 状 況



第 118 号 井 戸 跡  
完 掘 状 況





第129号井戸跡  
完掘状況



第129号井戸跡  
遺物出土状況



第71号溝跡  
完掘状況

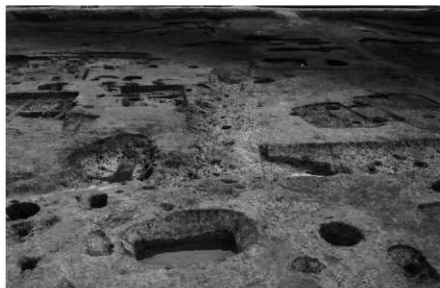
第73・74号溝跡  
遺物出土状況



第76・81号溝跡  
完掘状況



第77号溝跡  
完掘状況





第 79 号 溝 跡  
遺 物 出 土 状 況



第 80 号 溝 跡  
完 掘 状 況



第 80 号 溝 跡  
遺 物 出 土 状 況

第 81 号 溝 跡  
完 掘 状 況



第 82 号 溝 跡  
完 掘 状 況

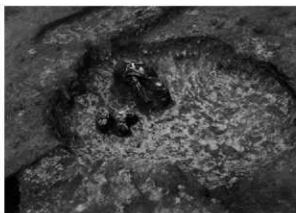


第 1 号 道 路 跡  
遺 物 出 土 状 況

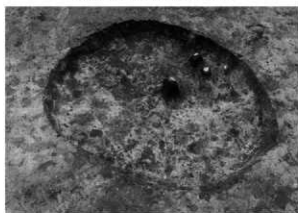




第21号土墳墓遺物出土状況



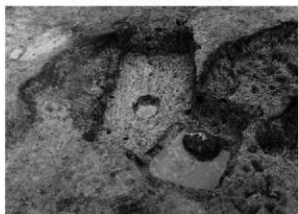
第3712号土坑遺物出土状況



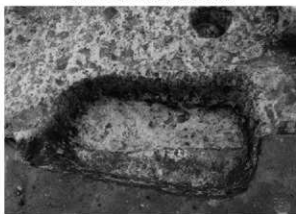
第3721号土坑遺物出土状況



第3729号土坑遺物出土状況



第3738・3748号土坑完掘状況



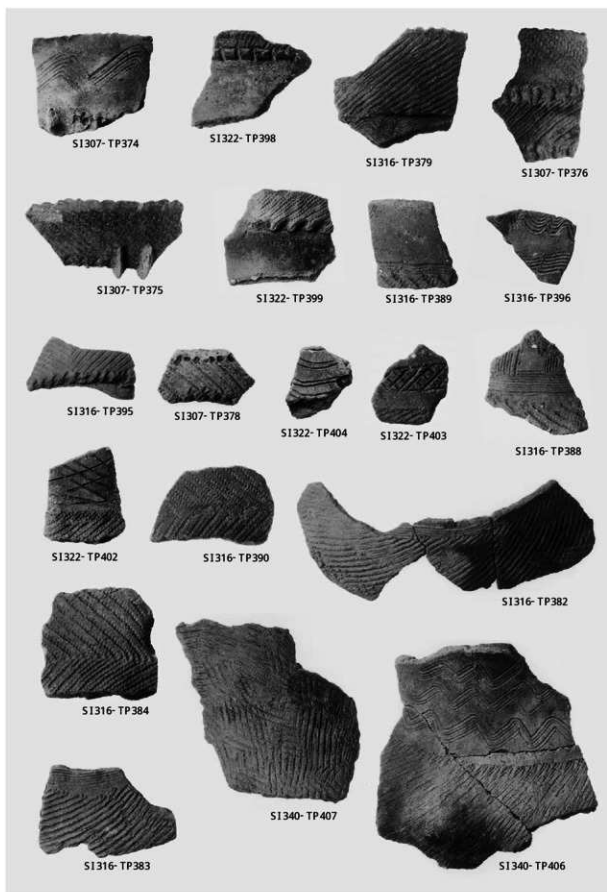
第3749号土坑完掘状況



第3788号土坑遺物出土状況



第3857号土坑完掘状況







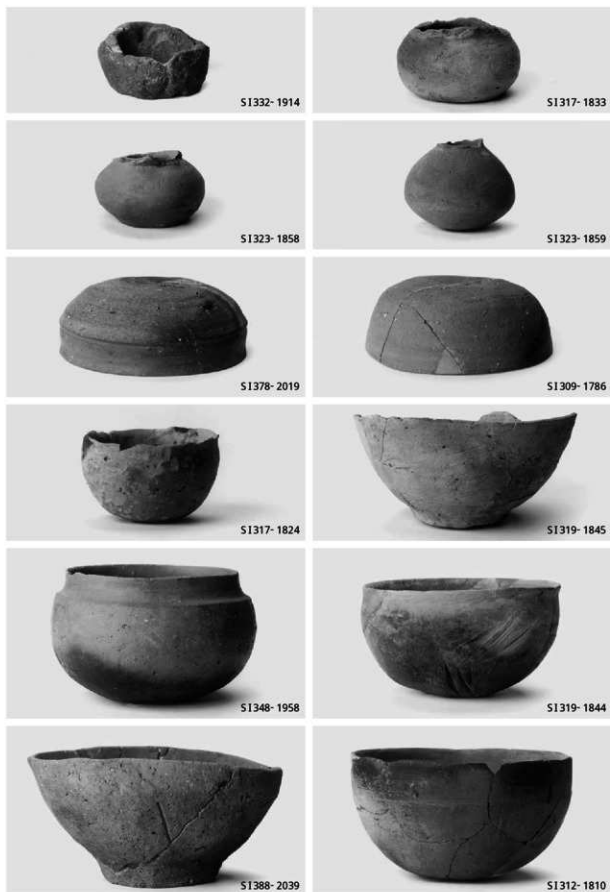










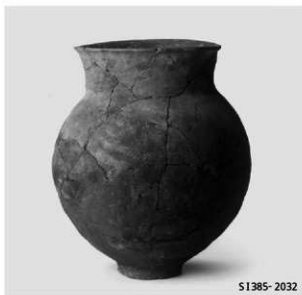






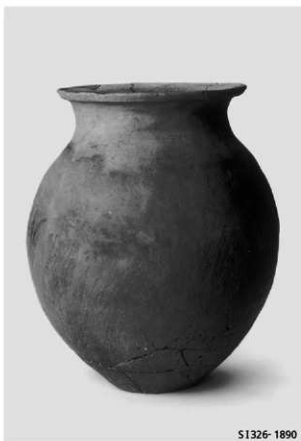
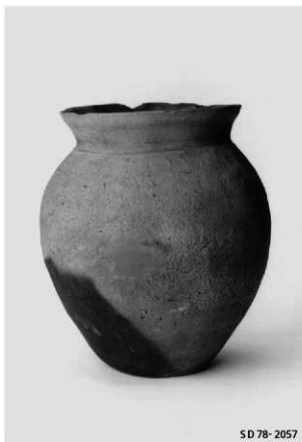












第326号住居跡，第78号溝跡出土遺物







第377·380·391·408·409·410号住居跡，第35号掘立柱建物跡，第108号井戸跡，第3713号土坑，第80号溝跡出土遺物





第128号井戸跡，第80号溝跡，遺構外出土遺物









S1361-2171



S1380-2237



SD80-2445



S1380-2236

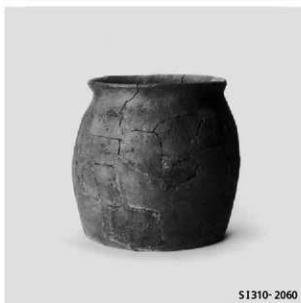
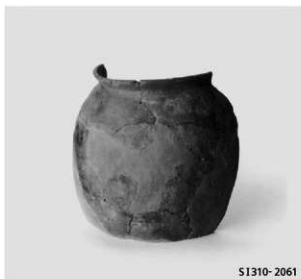


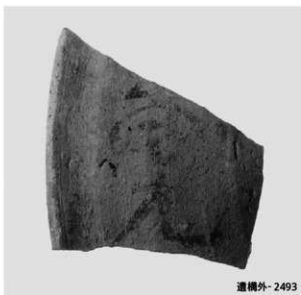
遺構外-2487



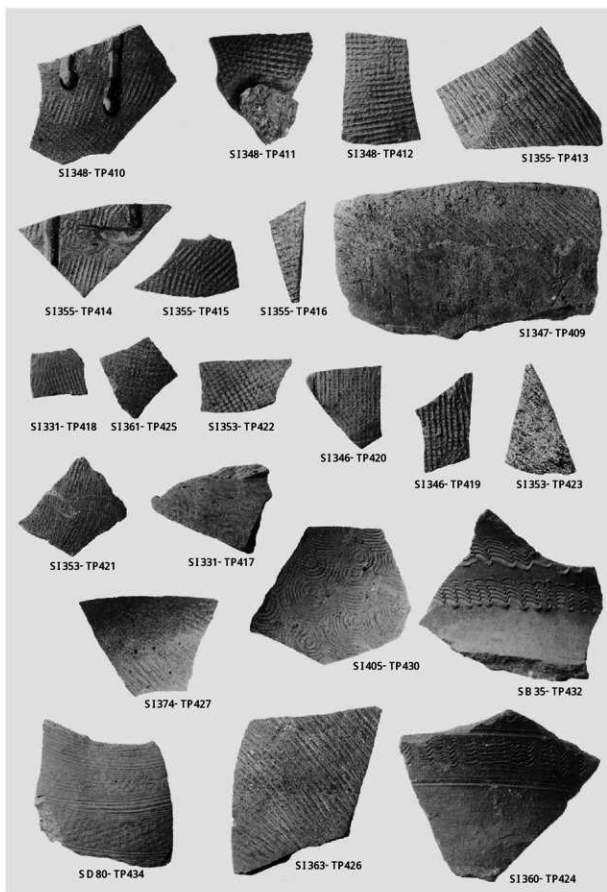
遺構外-2488



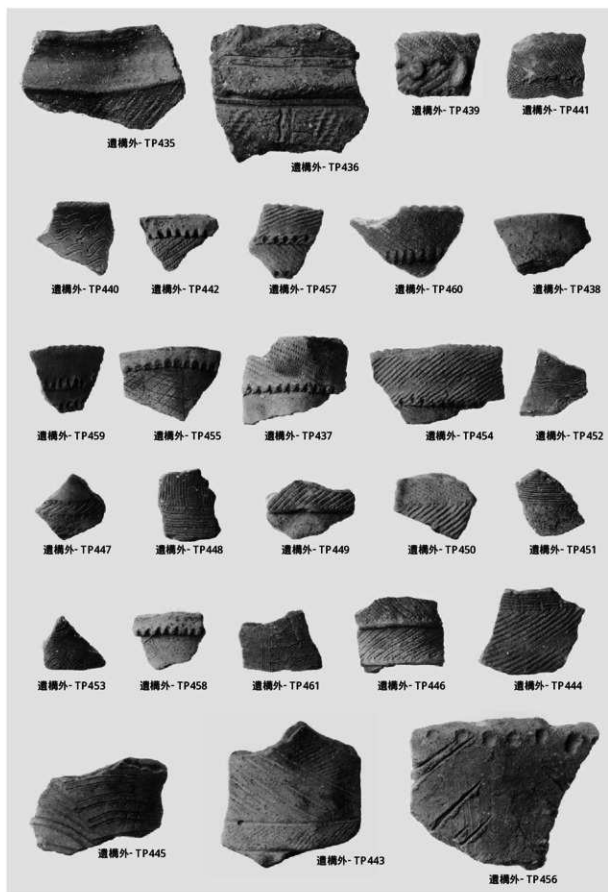




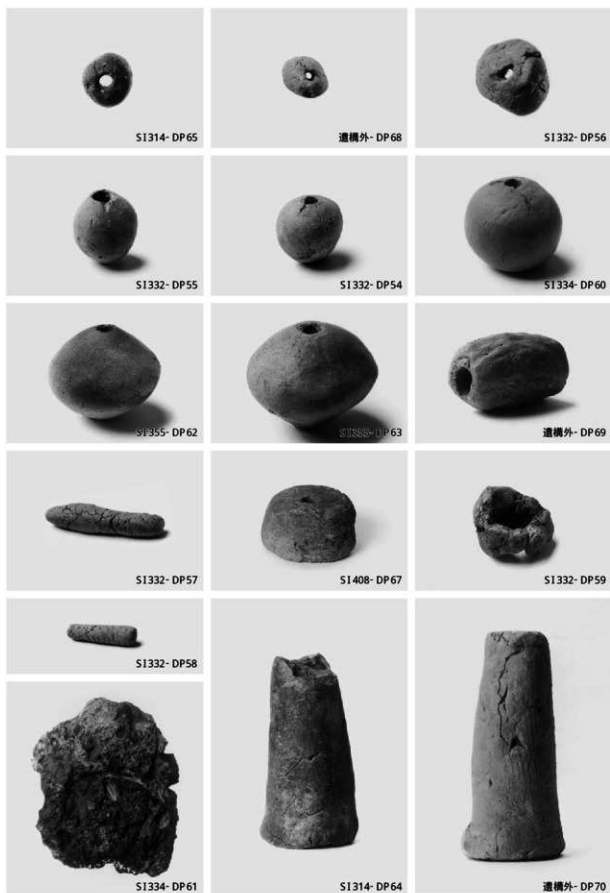




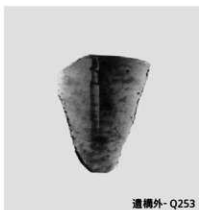
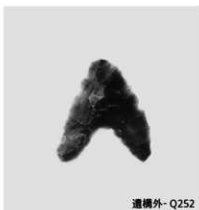
第331·346·348·353·355·360·361·363·374·405号住居跡，第35号掘立柱建物跡，第80号溝跡出土遺物



遺構外出土遺物

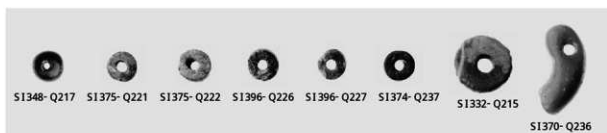


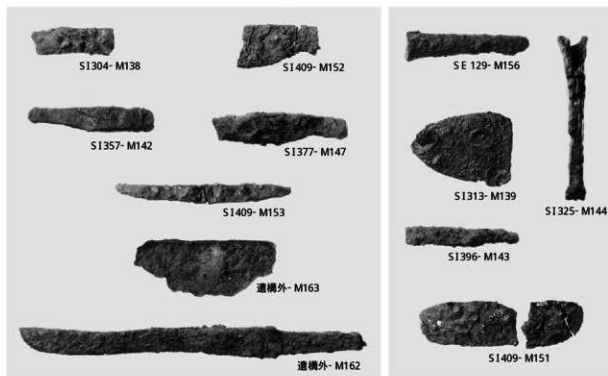
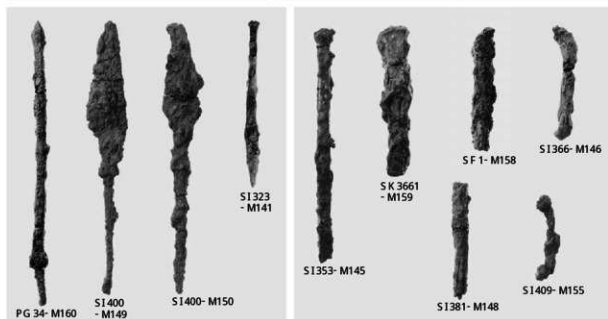
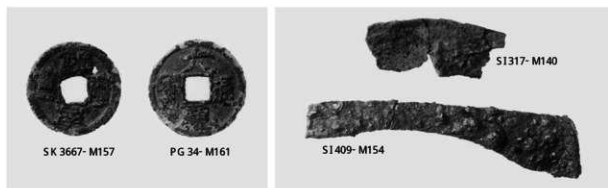
第314・332・334・355・408号住居跡，遺構外出土遺物













茨城県教育財団文化財調査報告第270集

### 犬田神社前遺跡 3

北関東自動車道（協和 - 友部）建設  
事業地内埋蔵文化財調査報告書 XIV

#### 下 巻

平成19（2007）年 3月19日 印刷

平成19（2007）年 3月23日 発行

発行 財団法人 茨城県教育財団  
〒310-0911 水戸市見和1丁目356番地の2  
茨城県水戸生涯学習センター分館内  
TEL 029- 225- 6587

印刷 (有)川田プリント  
〒310- 0041 水戸市上水戸4丁目6- 53  
TEL 029- 253- 5551